授　業　計　画

三草会札幌看護専門学校　　第７期生

目　　次

１．年間授業計画 …… １Ｐ

２．３年間の科目時間配分 …… ２～３Ｐ

３．科目進度表 …… ４～６Ｐ

４．科目概要 …… ７～１７Ｐ

５．成績評価、単位の認定に関する事項 …… １８～２０Ｐ

６．履修科目

１）１年次履修科目

（１）前期 …… １～５３Ｐ
（２）後期 …… ５４～９８Ｐ

２）２年次履修科目

（１）前期 …… １～５２Ｐ
（２）後期 …… ５３～７５Ｐ

３）３年次履修科目

（１）前期 …… １～１１Ｐ
（２）後期 …… １２～１５Ｐ

年間授業計画

項　　目				１年次	２年次	３年次
年　間　週　数				５２	５２	５２
登校しない日	長　期　休　暇　週（日）			１０(50)	１０(50)	８(40)
	休　祝　祭　日（土日除く）			８８	８８	８８
	小　　計			１３８	１３８	１２８
年間授業可能日数				１２２	１２２	１３２
年間授業時間単位（時間）	分　野	指定単位	学　則	１年次	２年次	３年次
	基礎分野	１４	１４(390)	9(240)	2(60)	3(90)
	専門基礎分野	２２	２２(525)	１６(375)	5(135)	1(15)
	専門分野	６６	６９(2250)	２３（600)	２８(945)	１８(705)
	小　計	１０２	１０５(3165)	４８(1215)	３５(1140)	２２(810)
	時間内訳		学科（2055） 実習（1110）			
	教科外活動			１０４	７０	８０

時間割　　月曜日～金曜日

講義／時間	１講目	２講目	３講目	４講目
時　間	09:00～10:30	10:40～12:10	13:00～14:30	14:40～16:10

１時間　45 分　　１講義　90 分(2 時間)
１日　6～8 時間　　１週　30～40 時間

実習時の時間　　実習は基本月曜日～金曜日　休憩時間は実習施設に準じる

時　間　帯	午　　前	昼　休	午　　後
時　　間	０９：００ ～ １２：００	１２：００ ～ １３：００	１３：００ ～ １６：００

１単位の換算規定

1. 講義及び演習は、15 時間～30 時間をもって１単位とする。
2. 実験、実習(臨地実習を含む)及び実技は、30 時間から 45 時間の授業をもって１単位とする。

3年間の科目時間配分

教育内容		基準単位		科目名称	単位	年間授業時間数			
						1年次	2年次	3年次	合計
基礎分野	科学的思考の基盤 人間と生活・社会の理解	14	1	看護物理学	1	30			30
			2	論理学	1		30		30
			3	国語表現法	1	15			15
			4	英語Ⅰ	1	30			30
			5	英語Ⅱ	1			30	30
			6	情報科学と統計	1		30		30
			7	心理学	1	30			30
			8	コミュニケーション	1	30			30
			9	文化人類学	1	30			30
			10	倫理学	1	30			30
			11	音楽と表現技法	1	30			30
			12	社会学	1			30	30
			13	家族論	1	15			15
			14	教育学	1			30	30
		14		**小計**	**14**	**240**	**60**	**90**	**390**
専門基礎分野	人体の構造と機能	16	15	解剖生理学Ⅰ	1	15			15
			16	解剖生理学Ⅱ	1	30			30
			17	解剖生理学Ⅲ	1	30			30
			18	解剖生理学Ⅳ	1	30			30
			19	解剖生理学演習	1	30			30
			20	病理学総論	1	15			15
			21	生化学	1	30			30
			22	栄養学	1	15			15
			23	人の生活と食事	1	15			15
	疾病の成り立ちと 回復の促進		24	臨床薬理学	1	30			30
			25	臨床検査	1		15		15
			26	微生物学	1	30			30
			27	病態と治療Ⅰ	1	30			30
			28	病態と治療Ⅱ	1	30			30
			29	病態と治療Ⅲ	1		30		30
			30	治療法概論	1		30		30
	健康支援と 社会保障制度	6	31	総合医療論	1			15	15
			32	社会福祉	1		30		30
			33	チーム医療論	1	15			15
			34	関係法規	1		30		30
			35	リハビリテーション	1	15			15
			36	公衆衛生学	1	15			15
		22		**小計**	**22**	**375**	**135**	**15**	**525**
専門分野	基礎看護学	12	37	看護学概論Ⅰ	1	30			30
			38	看護学概論Ⅱ	1	15			15
			39	共通援助技術	1	30			30
			40	生活援助技術Ⅰ	1	30			30
			41	生活援助技術Ⅱ	1	30			30
			42	生活援助技術Ⅲ	1	30			30
			43	フィジカルアセスメント技術	1	30			30
			44	診療援助技術	1	30			30
			45	看護展開技術	1	30			30
			46	生活援助技術実践	1	30			30
			47	臨床看護総論	1	30			30
			48	看護研究	1		30		30
	地域・在宅看護論	6	49	地域・在宅看護論演習	1	15			15
			50	地域・在宅看護論総論Ⅰ	1	15			15
			51	地域・在宅看護論総論Ⅱ	1		15		15
			52	地域・在宅看護論総論Ⅲ	1		30		30
			53	地域・在宅看護論方法論Ⅰ	1		30		30
			54	地域・在宅看護論方法論Ⅱ	1		30		30

教育内容		基準単位		科目名称	単位	年間授業時間数			
						1年次	2年次	3年次	合計
専門分野	成人看護学	6	55	成人看護学総論Ⅰ	1	15			15
			56	成人看護学総論Ⅱ	1	30			30
			57	成人看護学方法論Ⅰ	1		30		30
			58	成人看護学方法論Ⅱ	1		30		30
			59	成人看護学方法論Ⅲ	1		30		30
			60	成人看護学方法論Ⅳ	1		30		30
	老年看護学	4	61	老年看護学総論Ⅰ	1	15			15
			62	老年看護学総論Ⅱ	1	30			30
			63	老年看護学方法論Ⅰ	1		30		30
			64	老年看護学方法論Ⅱ	1		30		30
	小児看護学	4	65	小児看護学総論Ⅰ	1	15			15
			66	小児看護学総論Ⅱ	1		30		30
			67	小児看護学方法論Ⅰ	1		30		30
			68	小児看護学方法論Ⅱ	1		30		30
	母性看護学	4	69	母性看護学総論Ⅰ	1	15			15
			70	母性看護学総論Ⅱ	1		30		30
			71	母性看護学方法論Ⅰ	1		30		30
			72	母性看護学方法論Ⅱ	1		30		30
	精神看護学	4	73	精神看護学総論Ⅰ	1	15			15
			74	精神看護学総論Ⅱ	1		30		30
			75	精神看護学方法論Ⅰ	1		30		30
			76	精神看護学方法論Ⅱ	1		30		30
	看護の統合と実践	4	77	看護管理	1			15	15
			78	災害看護	1			15	15
			79	災害看護演習	1			15	15
			80	看護技術統合実践	1			30	30
	臨地実習	4	81	基礎看護学実習Ⅰ	2	90			90
			82	基礎看護学実習Ⅱ	2		90		90
		3	83	地域・在宅看護論実習Ⅰ	1	30			30
			84	地域・在宅看護論実習Ⅱ	2			90	90
		4	85	成人看護学実習Ⅰ	2		90		90
			86	成人看護学実習Ⅱ	2			90	90
		6	87	老年看護学実習Ⅰ	2		90		90
			88	老年看護学実習Ⅱ	2		90		90
			89	老年看護学実習Ⅲ	2			90	90
		2	90	小児看護学実習	2			90	90
		2	91	母性看護学実習	2			90	90
		2	92	精神看護学実習	2			90	90
		2	93	看護統合実習	2			90	90
		69		**小計**	**69**	**600**	**945**	**705**	**2250**
合計		**105**		**合計**	**105**	**1215**	**1140**	**810**	**3165**

2023年度科目進度表

第1学年

	科目	単位	時間数	4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3	テキスト	出版社
基礎分野	看護物理学	1	30	■	■	■	■										
	国語表現法	1	15							■	■	■					
	英語Ⅰ	1	30	■	■	■	■	■	■							FirstAid!EngulishforNursing	金星堂
	心理学	1	30		■	■	■	■	■	■						社会福祉シリーズ　心理学2　心理学理論と心理的支援　第2版	弘文堂
	コミュニケーション	1	30	■	■	■	■	■									
	文化人類学	1	30							■	■	■		■			
	倫理学	1	30		■	■	■	■	■	■						系統看護学講座　別巻　看護倫理	医学書院
	音楽と表現技法	1	30			■	■	■	■	■							
	家族論	1	15		■		■	■								系統看護学講座　別巻　家族看護学	医学書院
専門基礎分野	解剖生理学Ⅰ	1	15	■	■											解剖生理学　人体の構造と機能①	医学書院
	解剖生理学Ⅱ	1	30	■	■											解剖生理学　人体の構造と機能①	医学書院
	解剖生理学Ⅲ	1	30	■	■	■		■	■							解剖生理学　人体の構造と機能①	医学書院
	解剖生理学Ⅳ	1	30					■	■							解剖生理学　人体の構造と機能①	医学書院
	解剖生理学演習								■	■	■	■	■				
	病理学総論	1	15				■	■	■							病理学　疾病の成り立ちと回復の促進①	医学書院
	生化学	1	30		■	■	■	■	■	■						系統看護学講座　専門基礎分野　生化学　第14版	医学書院
	栄養学	1	15			■	■	■	■							系統看護学講座　専門基礎分野　栄養学　人体の構造と機能③	医学書院
	人の生活と食事	1	15							■	■	■				系統看護学講座　専門基礎分野　栄養学　栄養食事療法	医学書院
	臨床薬理学	1	30			■	■	■	■	■	■					系統看護学講座　専門基礎分野　薬理学　第15版	医学書院
	微生物学	1	30		■	■	■	■	■	■						系統看護学講座　微生物学疾病の成り立ちと回復の促進④	医学書院
	病態と治療Ⅰ	1	30		■	■	■									系統看護学講座　運動器　成人看護学⑩ 系統看護学講座　循環器　成人看護学③ 系統看護学講座　呼吸器　成人看護学②	医学書院
	病態と治療Ⅱ	1	30		■	■	■		■	■						系統看護学講座　消化器　成人看護学⑤ 系統看護学講座　腎・泌尿器　成人看護学⑧ 系統看護学講座　内分泌・代謝　成人看護学⑥ 系統看護学講座　アレルギー膠原病感染症　成人看護学⑪ 系統看護学講座　血液・造血器　成人看護学④	医学書院
	チーム医療論	1	15									■	■		■		
	リハビリテーション	1	15						■	■	■	■				系統看護学講座　別巻　リハビリテーション看護	医学書院
	公衆衛生学	1	15								■	■	■	■		系統看護学講座　公衆衛生　健康支援と社会保障制度②	医学書院
専門分野	看護学概論Ⅰ	1	30	■	■	■	■									系統看護学講座　看護学概論　基礎看護学①	医学書院
	看護学概論Ⅱ	1	15				■	■	■							実践に生かす看護理論19	サイオ出版
	共通援助技術	1	30	■	■	■	■									系統看護学講座　基礎看護技術Ⅰ・Ⅱ　基礎看護学②・③	医学書院
	生活援助技術Ⅰ	1	30						■	■	■					系統看護学講座　基礎看護技術Ⅱ　基礎看護学③	医学書院
	生活援助技術Ⅱ	1	30			■	■	■	■							系統看護学講座　基礎看護技術Ⅰ・Ⅱ　基礎看護学②・③	医学書院
	生活援助技術Ⅲ	1	30							■	■	■				系統看護学講座　基礎看護技術Ⅱ　基礎看護学③	医学書院
	フィジカル アセスメント技術	1	30							■	■	■		■		系統看護学講座　基礎看護技術Ⅰ　基礎看護学②	医学書院
	診療援助技術	1	30											■	■	系統看護学講座　基礎看護技術Ⅱ　基礎看護学③	医学書院
	看護展開技術	1	30						■	■	■	■				看護過程を使ったヘンダーソン看護論の実践	ヌーベルヒロカワ
	生活援助技術実践	1	30												■		
	臨床看護総論	1	30							■	■	■				系統看護学講座　臨床看護総論　基礎看護学④	医学書院
	地域・在宅看護論演習	1	15			■	■	■									
	地域・在宅看護論総論Ⅰ	1	15						■	■	■					専門分野　地域・在宅看護論①地域・在宅の基盤	医学書院
	成人看護学総論Ⅰ	1	15							■	■	■				系統看護学講座　成人看護学総論　成人看護学①	医学書院
	成人看護学総論Ⅱ	1	30										■	■	■	系統看護学講座　成人看護学総論　成人看護学①	医学書院
	老年看護学総論Ⅰ	1	15							■	■	■				系統看護学講座　老年看護学	医学書院
	老年看護学総論Ⅱ	1	30								■	■	■	■		系統看護学講座　老年看護学	医学書院
	小児看護学総論Ⅰ	1	15									■	■	■	■	系統看護学講座　小児看護学概論 系統看護学講座　小児臨床看護総論　小児看護学①	医学書院
	母性看護学総論Ⅰ	1	15											■	■	系統看護学講座　母性看護学概論　母性看護学①	医学書院
	精神看護学総論Ⅰ	1	15												■	系統看護学講座　精神看護1、2　精神看護の基礎　第6版	医学書院
臨地実習	地域・在宅看護論実習Ⅰ	1	30					■									
	基礎看護学実習Ⅰ	2	90										■	■			

2024年度 科目進度表

第2学年

	科目	単位	時間数	4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3	テキスト	出版社
基礎分野	論理学	1	30								■	■	■	■		ブッダの優しい論理学［増補改訂版］	サンガ
	情報科学と統計	1	30			■	■	■			■					医療系のための情報リテラシー	東京図書
専門基礎分野	臨床検査	1	15	■		■										系統看護学講座　別巻　臨床検査	医学書院
	病態と治療Ⅲ	1	30	■	■											系統看護学講座　女性生殖器　成人看護学⑨ 系統看護学講座　脳・神経　成人看護学⑦ 系統看護学講座　眼　成人看護学⑬ 系統看護学講座　皮膚　成人看護学⑫ 系統看護学講座　歯・口腔　成人看護学⑮ 系統看護学講座　耳鼻咽喉　成人看護学⑭	医学書院
	治療法概論	1	30					■	■		■	■		■		系統看護学講座　別巻　臨床放射線医学　臨床外科看護総論	医学書院
	社会福祉	1	30			■	■	■	■							系統看護学講座　社会保障・社会福祉　健康支援と社会保障制度③	医学書院
	関係法規	1	30			■	■	■	■		■	■		■	■	系統看護学講座　看護関係法令　健康支援と社会保障制度④	医学書院
専門分野	看護研究	1	30			■	■	■	■		■	■		■		系統看護学講座　別巻　看護研究	医学書院
	地域・在宅看護論総論Ⅱ	1	15	■		■										専門分野　地域・在宅看護論　②　地域・在宅の実践	医学書院
	地域・在宅看護論総論Ⅲ	1	30			■	■		■		■					専門分野　地域・在宅看護論　②　地域・在宅の実践	医学書院
	地域・在宅看護論方法論Ⅰ	1	30								■	■		■		専門分野　地域・在宅看護論　②　地域・在宅の実践	医学書院
	地域・在宅看護論方法論Ⅱ	1	30											■	■	専門分野　地域・在宅看護論　②　地域・在宅の実践	医学書院
	成人看護学方法論Ⅰ	1	30	■	■		■	■								系統看護学講座　呼吸器　成人看護学② 系統看護学講座　循環器　成人看護学③ 系統看護学講座　消化器　成人看護学⑤	医学書院
	成人看護学方法論Ⅱ	1	30			■	■	■								系統看護学講座　別巻　臨床外科看護総論 系統看護学講座　別巻　臨床外科看護各論	医学書院
	成人看護学方法論Ⅲ	1	30	■	■	■	■									系統看護学講座　別巻　リハビリテーション看護 系統看護学講座　運動器　成人看護学⑩ 系統看護学講座　脳・神経　成人看護学⑦ 系統看護学講座　内分泌・代謝　成人看護学⑥ 系統看護学講座　腎・泌尿器　成人看護学⑧ 系統看護学講座　アレルギー膠原病感染症　成人看護学⑪	医学書院
	成人看護学方法論Ⅳ	1	30			■	■	■	■							系統看護学講座　別巻　がん看護学・緩和ケア 系統看護学講座　血液・造血器　成人看護学④ 系統看護学講座　別巻　救急看護学	医学書院
	老年看護学方法論Ⅰ	1	30	■	■	■	■									系統看護学講座　老年看護学・老年看護病態・疾患論 系統看護学講座　老年看護学	医学書院
	老年看護学方法論Ⅱ	1	30	■	■	■	■		■							系統看護学講座　老年看護学	医学書院
	小児看護学総論Ⅱ	1	30			■	■									系統看護学講座　小児看護学概論 系統看護学講座　小児臨床看護総論　小児看護学①	医学書院
	小児看護学方法論Ⅰ	1	30					■	■		■	■		■		系統看護学講座　小児臨床看護各論　小児看護学②	医学書院
	小児看護学方法論Ⅱ	1	30								■	■	■	■		系統看護学講座　小児看護学概論 系統看護学講座　小児臨床看護総論　小児看護学①	医学書院
	母性看護学総論Ⅱ	1	30								■	■	■	■		系統看護学講座　母性看護学概論　母性看護学①	医学書院
	母性看護学方法論Ⅰ	1	30										■	■		系統看護学講座　母性看護学各論　母性看護学②	医学書院
	母性看護学方法論Ⅱ	1	30										■	■	■	系統看護学講座　母性看護学各論　母性看護学② 系統看護学講座　女性生殖器　成人看護学⑨	医学書院
	精神看護学総論Ⅱ	1	30	■		■	■	■								系統看護学講座　精神看護1　精神看護の基礎 系統看護学講座　精神看護2　精神看護の展開	医学書院
	精神看護学方法論Ⅰ	1	30			■	■	■									
	精神看護学方法論Ⅱ	1	30										■	■	■		
臨地実習	基礎看護学実習Ⅱ	2	90		■												
	成人看護学実習Ⅰ	2	90						■	■	■						
	老年看護学実習Ⅰ	2	90						■	■	■						
	老年看護学実習Ⅱ	2	90						■	■	■						

2025年度 科目進度表

第3学年

	科目	単位	時間数	4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3	テキスト	出版社
基礎分野	英語Ⅱ	1	30													FirstAid!EngulishforNursing(英語Ⅰで使用した)	金星堂
	社会学	1	30													系統看護学講座　社会学	
	教育学	1	30														
専門基礎	総合医療論	1	15													系統看護学講座　別巻　　総合医療論	医学書院
専門分野	看護管理	1	15													系統看護学講座　　看護の統合と実践1 看護管理	医学書院
	災害看護	1	15													系統看護学講座　　看護の統合と実践3 災害看護・国際看護	医学書院
	災害看護演習	1	15														
	看護技術統合実践	1	30														
臨地実習	成人看護学実習Ⅱ	2	90														
	老年看護学実習Ⅲ	2	90														
	小児看護学実習	2	90														
	母性看護学実習	2	90														
	精神看護学実習	2	90														
	地域・在宅看護論実習Ⅱ	2	90														
	看護統合実習	2	90														

科目概要

科目の教育概要

		授業科目	単位	時間	科目内容のねらい	科目内容の要点
基礎分野	科学的思考の基盤	看護物理学	1	30	医療、看護の場面で関わるものを測る様々な単位の種類と意味、基礎看護技術の物理学的な原理及び医療機器の原理について理解し看護における科学的なものの見方を涵養する	講義　演習 1. 単位の換算 2. 体位交換の基礎理論 3. トルクの考え方と演習 4. 冷温罨法の物理学 5. 酸素ボンベの物理学 6. 点滴の基礎理論 7. 重量濃度・モル濃度 8. 内視鏡・超音波の原理
		論理学	1	30	日常言語の中にある論理の形式や構造を学び、自らの思考を順序立て整理して整合的に表現する力を身につける 対話の中に論理を入れて、優しいコミュニケーションのやり方を学ぶ	講義　演習 1. 論理学の目的・因果関係・縁起 2. コミュニケーション法・弁証法・対話法 3. 因果関係・ブッタの公式 4. 順序立てて説明する 5. 相対的な言葉(反対・矛盾) 6. 解りやすい表現. 7. 考えて書く・考察
		国語表現法	1	15	正しい日本語の理解と文章表現を学び論理的思考の基礎を身につけ、すべての学科の基礎となる国語力、国語表現力を養う	講義　演習 1. 日本語の基礎 2. 表記方法 3. 日本語表記と文章・タイトルの特徴 小論文、論文、レポートの共通点と違いその書き方
		英語Ⅰ	1	30	医療に関わる基本的な英語用語を身につける 関係文書の読解力・活用力を高める 英語コミュニケーション能力を高める	講義　演習 1. 医療に関する基本的な英語用語・演習来院時の対応 問診　測定　検査 症状　薬の説明 案内院内等の会話
		英語Ⅱ	1	30	医療に関するメディアからの広汎な英文を学びながら医療に関わる英語用語を身につけ、英語の読解力・活用力をつけ英語コミュニケーション能力を高める	講義　演習 1. パラグラフとトピックセンテンスの関係構造 2. 要約文作成 3. ヒヤリング、フレーズリーディング 4. 講読
		情報科学と統計	1	30	保健系データをもとに基礎的統計処理の理論と方法を理解し、機器操作により文書・発表物の作成・編集、プレゼンテーション能力を高める	講義　演習 1. 病院案内文書作成 2. 作成とグラフ 3. 統計学の基礎 4. スライド作成 5. 加工・編集 6. 記述統計量 7. 順位和検定 8. 2 群の差の検定 9. クロス集計 10. 因子分解
		心理学	1	30	人間の心の発達と心の動きについて学び自己と他者を心理学の立場から理解する能力を養う	講義　演習 1. 心理学とは何か 2. パーソナリティ理論 3. 人間の発達の心理 4. 人間の学習の心理 5. 患者理解 6. KJ法 7. 心理査定

		授業科目	単位	時間	科目内容のねらい	科目内容の要点
基礎分野	人間と生活・社会の理解	コミュニケーション	1	30	人間関係の基礎となる言語的・非言語的コミュニケーションやグループダイナミクスの基礎について学ぶ 又、コミュニケーションに関する自己理解を深めた上で、他者とコミュニケーションをとるための表現・傾聴技法について学び、円滑なコミュニケーションを生む要因について理解を深める	講義　演習 1. コミュニケーションとは 2. 自己理解とコミュニケーション 3. 他者理解とコミュニケーション 4. 話し方・聞き方のコミュニケーション 5. コミュニケーション技法の活用 6. コミュニケーションスキルトレーニング 7. 集団活動とコミュニケーション 看護コミュニケーション事例検討
		文化人類学	1	30	環境・地域・社会との文化的多様性のあり方について理解し、文化人類学を通じた個人と文化の関係性について学ぶ	講義　作業学習 1. 文化人類学とは 2. フィルドワーク 3. 地域環境・社会・社会組織 4. 生業形態・世界観 5. 言語・通過礼儀・健康 6. 観光と植民地主義 7. 観光と文化保存 8. 持続可能な観光開発
		倫理学	1	30	倫理学の歴史、人間と世界との関わり方を規定する道徳的価値や道徳的原則、倫理学上の諸問題を学ぶ 生命倫理・職業倫理の考え方や知識を深める	講義　演習 1. 社会の中の倫理 2. 様々な倫理思想 3. 事例研究の交流 4. 人間と動物の違い 5. 死生観について 6. 社会人と倫理観
		音楽と表現技法	1	30	音・音楽と表現の関連性について、音楽遊びや合唱、創作ダンス等、様々な表現活動を通して理解する 豊かな感性を養うとともに自己表現力を磨き、心身を開放する方法について考察する	実技　演習 1. 音・音楽とこころとからだ 2. 表現が育つ課程 3. 日本の音楽 4. 様々な国の音楽遊び 5. 想像力を育む音楽活動 6. 音感を育む音楽活動 7. 言葉と歌唱 8. 音・音楽と身体表現
		社会学	1	30	社会的存在としての人間理解と人間に影響を及ぼす社会的要因を理解する 最も基礎的な集団である家族を取り上げ体験学習から家族の機能、役割、関係を理解する	講義 1. 社会学の対象 2. 家族社会学概説 3. 家族変動論 4. 結婚 5. 家族の機能(家族　夫婦　親子) 6. ジェンダー 7. 階層の社会学 8. 医療・看護の社会学
		家族論	1	15	家族の特性と機能を知り、家族を支援するための基礎知識を学ぶ 社会を構成する最小単位である「家族」に焦点をあて現代家族について理解する	講義 1.家族看護の概念 2.家族看護の対象理解 3.家族看護を支える理論 4.家族看護展開の方法
		教育学	1	30	学校教育の現状と課題を踏まえ、、「看護」と「教育」について比較検討しながらご子どもや患者とのかかわり(支援や援助など)等について考える	講義 1. 教育の意義 日本型学校教育　学校制度と連携 チーム学校について 2. 学校教育の課題 確かな学力、健やかな、・豊かな心 いじめと多様性、不登校と体罰、虐待・教育格差とこどもの貧困、少年犯罪、発達障害 3. 人の成長と発達 こどもの成長、こどもの支援と援助

		授業科目	単位	時間	科目内容のねらい	科目内容の要点
専門基礎分野	人体の構造と機能	解剖生理学Ⅰ	1	15	身体の構造と機能の概論を理解する	講義 1. 構造と機能 2. 人体の細胞 3. 人体の組織 構造と機能からみた人体
		解剖生理学Ⅱ	1	30	生命現象の機序を学び、正常な人体の構造と機能を理解する	講義 1. 骨格系・筋系 2. 循環器系 3. 呼吸器系
		解剖生理学Ⅲ	1	30		講義 1. 消化器系 2. 腎・泌尿器系 3. 内分泌・代謝系 血液・免疫系
		解剖生理学Ⅳ	1	30		講義 1. 生殖器系 2. 脳・神経系 3. 感覚器系
		解剖生理学演習	1	30	身体を構成する各臓器の構造と仕組みがわかり、人間の生命活動を営むメカニズムの理解	演習 1.人体の構造と機能 グループワーク　教材の作成 発表 2.個人ノート作成
		病理学総論	1	15	病気の原因と病理的な変化について深め疾病の特徴や進行の過程を理解する	講義 1. 病理学で学ぶこと 2. 細胞・組織の障害と修復 3. 循環障害 4. 炎症と免疫・感染症 5. 代謝障害 6. 老化と死 7. 先天障害と遺伝子異常 8. 腫瘍
		生化学	1	30	人体の構成成分である化学物質の性状とその代謝について知り生命現象のしくみを科学的に理解する	講義 1. 生体分子 2. タンパク質の性質 3. 酵素の性質と働き 4. 生体内における糖質の代謝 5. 生体内における脂質の代謝 6. 生体内におけるアミノ酸及びタンパク質の代謝 7. 生体内における核酸の役割
		人の生活と食事	1	15	食事療法の意義と方法を学び、健康回復・保持・増進のための食事療法を行う際の基礎的知識・技術を養う	講義　演習 1. 日常生活と栄養 2. 栄養指導の過程 3. 食事療法の実際 消化器系、循環器系　呼吸器系 代謝系　腎疾患 4. ライフステージと健康教育
		栄養学	1	15	生命維持に必要な栄養素とそのエネルギー代謝にについて学び、健全な生命活動を営むための基礎知識を学ぶ	講義 1. 栄養学と看護 栄養学状態の評価・判定 2. 栄養素の種類とはたらき 3. エネルギー代謝 4. 栄養の体内代謝 5. 栄養ケア・マネジメント 6. ライフステージと栄養

		授業科目	単位	時間	科目内容のねらい	科目内容の要点
専門基礎分野	疾病の成り立ちと回復の促進	臨床薬理学	1	30	薬理学全般における基礎知識と、疾患の系統別に作用する薬物について学ぶ 薬剤の効力と理論的背景を理解し、それに基づく適切な薬物療法について学ぶ 薬物医療事故の事例から看護師の役割を深める 成人、老年、小児、母性、精神障害の対象者、社会復帰に向けた(在宅での服薬管理)対象者への薬物療法と服薬指導	講義　演習 1. 薬理学総論 2. 末梢神経系作用薬 3. 循環器系作用薬 4. 中枢神経系作用薬 5. 炎症免疫系作用薬 6. 呼吸器系作用薬 7. 消化器系作用薬 8. ホルモン系・生殖器系作用薬 9. 抗感染症薬 10.抗悪性腫瘍薬・漢方薬 11.対象に応じた薬物療法と服薬指導 12.薬の取り扱いと医療事故 事例提供
		臨床検査	1	15	医療における臨床検査の役割を知り、各種検査の意義と方法を学ぶ	講義 1. 臨床検査とその役割 2. 臨床検査の流れと看護師の役割 3. 主な臨床検査 4. 放射線療法
		微生物学	1	30	微生物の種類と特徴を理解する 感染拡大を防ぐための病原微生物の正しい滅菌、消毒法を理解する 病原微生物が引き起こす感染症の症状とその予防法について理解する	講義 1. 微生物学の基礎 2. 感染に対する生体防御機構 3. 感染の予防 4. 感染症各論 日和見感染・院内感染症 消化器感染症・食中毒 尿路感染症・性感染症 肝炎・微生物と腫瘍 血液の感染症・呼吸器感染症 母子・小児感染症　脳神経感染症 高齢者感染症
		病態と治療Ⅰ	1	30	疾患の病態、治療検査を理解し、その疾患のもつ患者の身体のアセスメントに必要な基礎的能力を養う	講義 病態生理・診断・治療検査 1. 運動器系 2. 循環器系 3. 呼吸器系
		病態と治療Ⅱ	1	30		講義 病態生理・診断・治療検査 1. 消化器系 2. 腎泌尿器系 3. 代謝・内分泌・ｱﾚﾙｷﾞｰ 血液・免疫系
		病態学と治療Ⅲ	1	30		講義 病態生理・診断・治療検査 1. 生殖器系 2. 脳・神経系 感覚器系
		治療法概論	1	30	外科疾患の病態、治療検査を理解しその疾患者の身体のアセスメントに必要な基礎的能力を養う	講義 1. 外科患者の病態の基礎 2. 外科的治療を支える分野 3. 外科的治療の実際 4. 救急処置法 放射線療法

		授業科目	単位	時間	科目内容のねらい	科目内容の要点
専門基礎分野	健康支援と社会保障制度	総合医療論	1	15	医療を取り巻く現状と諸問題について学び、医療従事者の一員としての倫理観を養う	講義　演習 1. 医療の歩みと医療観の変遷 2. 科学技術の進歩と現代 3. 医療現場で重要視されている諸問題 4. 医療を見つめ直す新しい視点
		社会福祉	1	30	社会福祉の意義と概念、社会福祉制度と社会保障制度について学び、保健医療福祉の関連を理解する	講義 1. 社会福祉の概念と発達 2. 社会保障制度と社会福祉 3. 医療保障 4. 介護保障 5. 所得保障 6. 公的扶助 7. 社会福祉の分野とサービス
		チーム医療論	1	15	対象となる人々の暮らしと健康を支援していくために、多職種が協働・連携するチームとして、それぞれの専門性を発揮しながら支援にあたるために他職種の役割と連携、協働の実際を学びチーム医療の果たす役割を理解する	講義 1.地域包括ケアと共生社会　病院から在宅へ 2. 在宅から保育・教育へ 3. 地域での自立 4. 家族の意思決定支援 5. ケーススタディ　レポート作成
		関係法規	1	30	保健医療福祉に関する法規を理解する 看護業務に関連の深い関係法規を学び、看護師の業務や責任について学ぶ	講義　演習 1. 社会福祉、社会保障制度との関連と法律の理念 2. 日本の社会保障制度 医療・介護保険制度　年金制度 3. 医事・薬事法規 4. 社会福祉関係法規 5. 保健予防関係法規 6. 医療過誤と裁判 事例提供
		リハビリテーション	1	15	リハビリテーションの意義と方法について学び身体や精神の機能回復に向けて援助する際の基礎的知識、技術を身につける	講義　実習 1. ﾘﾊﾋﾞﾘﾃｰｼｮﾝの定義と概念 2. 障がい者の分類と構造 3. ﾘﾊﾋﾞﾘﾃｰｼｮﾝ医療とｼｽﾃﾑとﾁｰﾑ医療 4. 運動器系の障害とﾘﾊﾋﾞﾘﾃｰｼｮﾝ 5. 検査手技 6. 中枢神経系のﾘﾊﾋﾞﾘﾃｰｼｮﾝ 7. 呼吸・循環系障害とﾘﾊﾋﾞﾘﾃｰｼｮﾝ 8. ﾄﾗﾝｽﾌｧｰ車椅子からﾍﾞｯﾄ 起き上がり 他動可動域運動 事例に見る援助方法　実
		公衆衛生学	1	15	公衆衛生活動のもつ特性について理解し、公衆衛生活動を展開するための基礎知識を身につける	講義 1. 公衆衛生とは 2. 健康と環境 3. 疫学と健康指標 ヘルスプロモーション 4. 社会保障制度 5. 公衆衛生と国際協力 6. 対象別公衆衛生 7. 場面別公衆衛生 8. 健康危機管理

		授業科目	単位	時間	科目内容のねらい	科目内容の要点
専門分野	基礎看護学	看護学概論Ⅰ	1	30	看護の概念、目的、対象、機能と役割を理解し、看護の対象を生活者と捉え、看護実践の基盤となる人間観、健康観を培う看護活動の場、看護の提供とその仕組みについて学ぶ	1. 看護の概念 2. 健康と看護 3. 看護の対象の理解 4. 看護の機能と役割 5. 看護制度や看護政策 6. 看護の活動領域
		看護学概論Ⅱ	1	15	看護理論の発展過程を学び、看護の理解を深める 看護倫理に関する基礎的知識を学ぶ	1. 看護倫理 2. 看護理論
		共通援助技術	1	30	すべての看護援助に共通し、あらゆる看護技術を支えるために、また事故発生要因やその事故防止のために必要な基礎的知識・技術・態度を身につける	1. 技術の概念 2. 安全確保 3. 観察・記録 4. 感染防止 感染予防技術実習 ガウンテクニック 衛生学的手洗い 滅菌手袋の装着 5. 学習支援技術（健康教育・患者指導の基礎と技法） 6. ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ技術 7. 看護・医療事故予防と看護実践 8. 事故防止の考え方　演習：KYT
		生活援助技術Ⅰ	1	30	人間にとっての食事・栄養、排泄の意義を理解し、看護するために必要な基礎的知識・技術・態度を身につける	食事 1. 食事援助の基礎知識 2. 食事援助 3. 非経口的栄養摂取の援助 技術実習　食事介助　口腔ケア 排泄 1. 自然排尿及び自然排便の基礎知識 2. 排泄援助の実際 3. 排泄を促す援助 技術実習　便器・尿器の挿入
		生活援助技術Ⅱ	1	30	人間にとっての環境、活動、休息、睡眠の意義を理解し、看護する際に必要な基礎的知識・技術・態度を身につける	1. 人と環境、療養生活環境の基礎知識 2. 環境の調整 療養環境を整える援助技術実習 病室の環境調整 ベッドメーキング 3. 基本的活動の基礎知識 4. 活動の援助 技術実習 体位交換　移乗移送 5. 休息・睡眠・安楽の援助 技術実習 温罨法　冷罨法
		生活援助技術Ⅲ	1	30	人間にとって身体清潔の意義を理解し、看護する際に必要な基礎的知識・技術・態度を身につける	1. 衣生活、身体清潔の基礎知識 2. 衣生活の援助 技術実習 寝衣交換 3. 清潔の援助 技術演習 全身清拭　手浴・足浴・洗髪
		ﾌｨｼﾞｶﾙｱｾｽﾒﾝﾄ技術	1	30	ヘルスアセスメント必要とされる基礎的知識・技術・態度を身につける	1. ヘルスアセスメントの意義、技術 2. 臨床判断とは 3. 系統別ﾌｨｼﾞｶﾙｱｾｽﾒﾝﾄの実際 4.身体各部の計測 5.ﾊﾞｲﾀﾙｻｲﾝ測定の方法とアセスメントの基礎知識 技術実習 バイタルサインの測定と身体診査

		授業科目	単位	時間	科目内容のねらい	科目内容の要点
専門分野	基礎看護学	診療援助技術	1	30	対象の診療に伴う検査・治療・処置の基礎的知識・技術・態度を学ぶ	1. 診療、検査、処置介助の基礎知識 2. 呼吸、循環を整える基礎知識 吸入・吸引・排痰ケア 技術実習 AEDによる除細動 3. 与薬の基礎知識 4. 正しい与薬方法 経口与薬・点眼鼻・直腸内与薬 技術実習 点滴静脈注射・皮下注射 筋肉内注射・輸液ポンプ管理
		看護展開技術	1	30	対象の健康上の課題や生活上のニーズを明らかにし、課題解決に向けて看護を科学的、論理的に実践するために必要な看護過程の基礎的知識を学ぶ	1. 看護過程の概念 2. 看護過程の構成要素とプロセス 3. ヘンダーソンの看護理論にもとづく看護過程の展開 4. 紙上事例による看護過程展開・演習 経過別:回復期 事例　変形性膝関節症により人工膝関節全置換術を受けた患者の看護 50歳代・女性
		生活援助技術実践	1	30	既習の知識、技術を活用し根拠に基づき、事例に応じた看護技術を倫理的態度で、安全・安楽に実践できる能力を習得する	生活援助技術試験 試験の方法 1. 生活援助技術Ⅰ・Ⅱ・Ⅲの既習済み援助技術から選択する 2. 1事例(患者)と、その事例による4つの状況設定を提供 3. 学生は試験実施日まで、グループ学習とし個人で4つの状況設定の援助計画書作成する 4. 試験日まで、グループで実習室を利用して練習する 試験 1つの状況設定を指定し実施 技術項目 1. 上半身清拭、寝衣交換 2. 洗髪、体位交換 3. 足浴、車椅子移乗移送 4. リネン交換、排泄介助(便器・尿器挿入)
		臨床看護総論	1	30	健康障害をもつ対象の状況に応じた看護を実践するために必要な基礎的知識を学ぶ	1. 健康障害のある対象家族の理解 2. 健康レベル別看護 急性期、慢性期、回復期、終末期の対象の特徴と看護 3. 主要症状別看護呼吸、循環、栄養・排泄、認知・知覚、安楽に関する症状のメカニズムと看護 4. 治療別看護 安静、食事、薬物、放射線療法リハビリテーションを受ける患者の看護
		看護研究	1	30	科学的・論理的思考を基盤とし、看護の質の向上に向けて研究に取り組むために必要な基礎的知識・技術・態度を身につける	1. 看護研究の意義 2. 看護研究のプロセス 3. 事例研究

		授業科目	単位	時間	科目内容のねらい	科目内容の要点
専門分野	地域・在宅看護論	地域・在宅看護論演習	1	15	地域で暮らす人々の生活環境を知り、生活環境が健康に与える影響を理解する	1. 既存資料から情報収集し、地域特性を把握する 2.地域調査を通して、生活の場としての地域を理解する 3.地域環境が生活および健康に与える影響を考察する
		地域・在宅看護論総論Ⅰ	1	15	地域・在宅看護論が対象とする個人・家族の特徴を理解し、地域での暮らしを支える多様な看護提供の場を理解する	1.地域で暮らす人々と看護 2.地域における看護提供の場
		地域・在宅看護論総論Ⅱ	1	15	地域で暮らす人々の生活や健康に影響を及ぼす社会資源や制度と、地域で暮らし続けることを支援するケアマネジメントと権利保障の重要性を理解する	1.地域で暮らす人々を支える法律・制度 2.地域で暮らす人々の権利保障と看護者の責務
		地域・在宅看護論総論Ⅲ	1	30	療養の場が移行する際の継続看護の重要性を理解し、多職種と連携・協働するための基礎的能力を身につける	1.看護の継続性 2.ケアを必要とする個人および家族を支えるための専門職および多職種連携
		地域・在宅看護論方法論Ⅰ	1	30	多様な健康状態にある対象と家族への看護を実践するために必要な基礎的知識・技術・態度を身につける	1.地域で生活する人々とその家族を看護する方法 2.介入時期別の看護について 3.看護の展開方法 訪問看護のロールプレイ
		地域・在宅看護論方法論Ⅱ	1	30	暮らしの場で看護を提供するために必要となる基礎的知識・技術・態度を身につける	1.安全な療養環境と健康危機管理 2.生活を支える看護 3. 暮らしの場で行われる治療と看護 膀胱留置カテーテルに関する援助 経管栄養に関する援助
	成人看護学	成人看護学総論Ⅰ	1	15	成人期にある対象の特徴を理解し、成人看護の機能と役割を学ぶ	1. 成人看護の機能と役割 2. 成人看護の対象 3. 成人看護に有用な理論
		成人看護学総論Ⅱ	1	30	成人期にある対象の生活および健康課題と成人保健の動向を理解し、健康の保持・増進、疾病予防のための対策を学ぶ	1. 社会環境と成人の生活 2. 成人保健の動向 3. 成人期に特徴的な健康課題と対策
		成人看護学方法論Ⅰ	1	30	急性期にある対象と家族の特徴を理解し、生命の維持と機能回復のために必要な看護を学ぶ	1. 急性期にある対象の看護 呼吸器障害をもつ患者の看護 循環器障害をもつ患者の看護 消化器障害をもつ患者の看護
		成人看護学方法論Ⅱ	1	30	周手術期にある対象と家族の特徴を理解し、周手術過程に応じた看護を展開できるために必要な基礎的知識・技術・態度を身につける	1. 周手術期にある対象の看護 創傷処置・無菌操作 ドレーン管理 (学内実習) 術後回復を促進する看護技術演習 酸素吸入・吸引・包帯法 (学内実習) 2. 紙上事例を用いた看護過程の展開演習 胃がん患者の看護(周手術期)

		授業科目	単位	時間	科目内容のねらい	科目内容の要点
専門分野		成人看護学方法論Ⅲ	1	30	回復期にある対象と家族の特徴を理解し、生活の再構築し自立を促すために必要な看護を学ぶ 慢性期にある対象と家族の特徴を理解し、自己管理を確立するために必要な看護を学ぶ	1. 回復期にある対象の看護 リハビリテーション看護の概要 運動機能疾患をもつ患者の特徴と看護 脳・神経疾患をもつ患者の特徴と看護 2. 慢性期にある対象の看護 慢性期看護の概要 内分泌・代謝疾患をもつ患者の特徴と看護 腎・泌尿器疾患をもつ患者の特徴と看護 アレルギーをもつ患者の特徴と看護 膠原病をもつ患者の特徴と看護 感染症をもつ患者の特徴と看護
		成人看護学方法論Ⅳ	1	30	がんをもつ対象と家族の特徴を理解し、長期化する療養生活を支えるために必要な看護を学ぶ 終末期にある対象と家族の特徴を理解し、最後までその人らしく生きることを支えるために必要な看護を学ぶ 救急看護の概念と対象の特徴を理解し、救急搬送時に看護を展開できるために必要な基礎的知識・技術・態度を身につける	1. がんをもつ対象の看護 がん医療の現状と臨床経過 緩和ケアの概要と看護 血液造血器疾患をもつ患者の特徴と看護 2. 終末期にある対象の看護 人間にとっての死 危篤時に特徴的な症状と看護 臨終時のケア 遺族ケア 3. 救急医療にある対象の看護 救急看護の概念 救急患者の観察・アセスメント 救急処置と看護 一次救命処置　心肺蘇生法演習
	老年看護学	老年看護学総論Ⅰ	1	15	老年期にある対象の特徴を身体的・精神的・社会的側面から理解し、老年看護の機能と役割を学ぶ	1. 老年看護の目的・機能と役割 2. 老年看護の特徴 3. 発達課題 4. 老年看護の対象 演習：高齢者の模擬体験
		老年看護学総論Ⅱ	1	30	高齢者を取り巻く社会情勢及び保健医療福祉対策を理解し、高齢者の療養生活の現状と看護が果たす役割を学ぶ	1. 高齢社会の統計的輪郭 2. 保健医療福祉の動向 3. 高齢者の権利擁護 4. 高齢者の療養の場と看護 5. 老年看護に有用な看護理論 バトラー　生涯発達理論等 6. 高齢者の生活・療養の場
		老年看護学方法論Ⅰ	1	30	高齢者に多い健康障害の特徴と健康回復及び終末期における看護を学ぶ	1. 高齢者の特徴的な疾患・症状・検査と看護 2. 高齢者に多い健康障害の特徴と疾患の病態・検査・治療 3. 身体可動性に障害をきたす疾患・要因と看護 4. 認知機能障害をきたす疾患・要因と看護 5. 高齢者の終末期における看護
		老年看護学方法論Ⅱ	1	30	高齢の生活上の課題を科学的根拠に基づいて判断・解決する思考過程と、高齢者の生活支える援助技術を習得する	1. 高齢者の生活を支える援助技術 食事、排泄のアセスメントと援助技術 清潔のアセスメントと援助技術 歩行、移動のアセスメントと援助技術 コミュニケーション、生活リズムのアセスメントと援助技術　演習：食事・排泄・移動 2. 看護過程の展開　事例：終末期

		授業科目	単位	時間	科目内容のねらい	科目内容の要点
専門分野	小児看護学	小児看護学総論Ⅰ	1	15	小児看護の変遷を知り、小児看護の理念・目的と役割を学ぶ	1. 小児看護の理念・目的 2. 小児と家族の諸統計 3. 小児看護の変遷 4. 小児看護における倫理 5. 小児看護の課題と役割
		小児看護学総論Ⅱ	1	30	小児各期の成長発達・栄養の特徴を学ぶ 小児各期における生活の特徴を学びその家族を理解する 小児と親を支援するための法律、政策、母子保健対策を学ぶ	1. 小児の成長発達と評価 2. 小児各期の栄養 3. 小児各期の特徴と生活 4. 家族の特徴とｱｾｽﾒﾝﾄ 5. 小児と家族を取り巻く社会
		小児看護学方法論Ⅰ	1	30	小児の健康障害の特徴と小児期に多い健康障害の病態、診断、経過、治療を学ぶ	1. 染色・先天異常、新生児の疾患 2. 代謝、内分泌疾患 3. 免疫・アレルギー疾患　感染症 4. 呼吸器、循環器系疾患 5. 消化器、血液造血器疾患 6. 悪性新生物、腎泌尿器疾患 7. 神経疾患 8. 事故・外傷・小児の救急蘇生法
		小児看護学方法論Ⅱ	1	30	病気や障害を抱く小児と家族の特徴を理解し、小児とその家族に必要な看護を実践するための知識・技術・態度を身につける	1. 病気・障がいをもつ小児と家族の看護 2. 状況に特徴づけられる看護 3. 疾病の経過と看護 4. 小児のアセスメント 5. 症状を示す小児の看護 6. 障がいのある小児と家族の看護 7. 検査・処置を受ける小児の看護 8. 事例を用いての看護過程演習 9. 看護過程の事例を用いた技術 環境・採尿・輸液管理
	母性看護学	母性看護学総論Ⅰ	1	15	母性看護の基礎となる概念を学び、母性看護の対象の特徴から母性看護独自の特徴を学ぶ	1. 母性とは 2. 母子関係と家族発達ｾｸｼｭｱﾘﾃｨ 3. リプロダクティブヘルス/ライツ 4. ヘルスプロモーション 5. 女性のライフサイクルと家族 6. 母性の発達・成熟・継承 7. 女性のライフサイクルにおける 形態・機能の変化 8. 母性看護のあり方・倫理 9. 母性看護おける安全事故防止
		母性看護学総論Ⅱ	1	30	母性看護の対象を取り巻く社会の変遷と現状を知り、母性看護の課題と役割を学ぶ 女性のライフステージ各期の看護を学ぶ	1. 母性看護の対象を取り巻く社会の変遷と現状 2. 母性看護に関する組織と法律 3. 母子保健政策から見た現状 4. 母子看護の対象を取り巻く環境 5. ライフサイクルにおける 女性の健康と看護の必要性 6. リプロダクティブケア
		母性看護学方法論Ⅰ	1	30	妊娠、分娩、産褥及び新生児の特徴を理解し、それぞれの対象とその家族の看護に必要な基礎的知識・技術・態度を身につける	1. 妊娠・分娩・産褥の生理 2. 妊娠期の看護 3. 分娩期の看護 4. 産褥期の看護 5. 新生児の看護 6. 母性の看護技術 新生児の全身観察 身体計測・沐浴・寝衣 交換・臍処置・母体計測・妊婦体験・ 児心音聴取・保育器の取扱・黄疸計測

		授業科目	単位	時間	科目内容のねらい	科目内容の要点
専門分野		母性看護学方法論Ⅱ	1	30	母性各期に起こりやすい疾患と異常の徴候を学び、健康障害の予防に必要な看護が実践できるための基礎的知識・技術・態度を身につける	1. 異常妊娠・分娩・産褥の特徴と看護 2. 女性生殖器疾患 3. 女性生殖器疾患の看護 4. セルフケア能力に視点をおいた看護過程展開 産褥期にある対象
	精神看護学	精神看護学総論Ⅰ	1	15	精神看護の意義・対象・役割機能を理解し、精神の危機的状況や障害をもつ人とその家族に必要な基礎知識を学ぶ	1. 精神看護の目的・目標 2. 精神看護の対象 人間関係論理論 3. 精神看護の役割・機能
		精神看護学総論Ⅱ	1	30	ライフサイクルにおける心の健康と成長発達について学び、保健医療福祉チームにおける精神保健活動について学ぶ	1. 精神保健の概念 2. 成長・発達と危機 3. 現代社会における精神保健 4. 精神保健活動の実際と今後の課題
		精神看護学方法論Ⅰ	1	30	精神神経障害の特徴と主な精神疾患の原因、診断、治療方法について学ぶ	1. 精神障害の理解 2. 精神障害をもつ人に行われる主な検査・治療 3. 精神医学と他の領域との連携情報交換の必要性
		精神看護学方法論Ⅱ	1	30	主な精神障害の特徴と精神疾患について理解し患者・看護者関係の成立・発展の必要性を学ぶ。また、精神に障害をもつ人と、その家族の看護に必要な基礎知識・技術・態度を身につける	1. 精神障害患者の看護 精神に障がいのある対象の看護過程 統合失調症の慢性期の看護過程の展開 2. プロセスレコード
	看護の統合と実践	看護管理	1	15	看護をマネジメントできる基礎的知識と方法を学ぶ	1. 看護マネジメントの意義 2. 看護ケァのマネジメント 3. 看護を取り巻く諸制度 4. マネジメントに必要な知識と技術
		災害看護	1	15	災害看護の特徴を理解し、災害時に適切な看護が実践できる基礎知識・技術・態度を身につける	1.災害看護の定義 2.災害と倫理 3.災害サイクルと看護 4.災害医療に関する国の政策と法律 5.減災・防災マネジメント 6.災害時の看護活動 7.災害時の医療看護技術
		災害看護演習	1	15	災害時に適切な看護が実践できる基礎的知識・技術・態度を身につける	1.災害時トリアージの実際 START 法のアルゴリズム判定 2.災害における救急法の実際 救護所での救護活動 救急処置室での救護活動
		看護技術統合実践	1	30	既習の知識、技術、態度を統合し的確に対象を理解し速やかに看護展開ができる 対象に必要な看護を安全、安楽、自立を考えた看護援助が実践できる	演習 1. 4 事例提示 1) 事例をアセスメントし看護課題の抽出 2) 看護計画立案 3) 事例に必要な援助項目を抽出し技術演習計画を立案 4) 実施した結果を評価し自己の課題を明確にする

成績評価、単位の認定及び卒業に関する事項

（科目履修にかかわる制限）

第１条　次の各号の条件を満たした場合は、各号に掲げる科目履修に進むことができる。

（１）　１年次の基礎看護学実習Ⅰの単位修得ができた場合、２年次の科目

（２）　２年次の基礎看護学実習Ⅱの単位修得ができた場合、成人看護学実習Ⅰ、Ⅱ、老年看護学実習Ⅰ

（成績評価の基準）

第２条　科目の成績評価は、１科目１００点満点として優（８０点以上）、良（７０点以上７９点以下）、可（６０点以上６９点以下）及び不可（６０点未満）とし、可以上を合格とする。

２　授業の出席時間数が別表第１号に掲げる各授業科目時間数の３分の２の出席をもって評価を受けることができる。

３　前項に達しなく評価を受けられない場合でも、その理由が正当なものであり、校長が必要と認めた補習を行った場合は、この限りではない。

４　科目試験の成績が第１項に規定する合格に達しない者に対しては、当該授業科目について再試験、再実習を行うことができる。

５　科目試験を欠席した者又は臨地実習の出席時間数が３分の２に達しないため評価を受けられない者で、その欠席の理由が正当であると認められる場合は、追試験又は追実習を行うことができる。

６　科目試験は１科目４５分で実施し、１００点満点とする。

７　授業時間とテスト時間の取扱については、テスト時間は講義時間に含まない。

８　科目試験は授業科目終了毎に行う。

９　１科目の試験は試験開始から１５分以内の遅刻は受験することができる。

１０　１科目を複数講師が担当する場合はその科目の３分の２以上の出席があれば試験を受けることができる。

１１　１科目を複数講師が担当する場合は、合計１００点満点とし、各々の講師に按分し複数講師全体による評価とする。

（追試験・追実習）

第３条　前条第５項の規定による追試験又は追実習を受けようとする者は、追試験願・追実習願（【成】第１様式）を期日までに提出し、校長の許可を受けるものとする。

２　前条５項中の、その欠席の理由が正当であると認められる場合は、次に掲げる理由とする。ただし、事前連絡を原則とする。

（１）本人の病気による欠席の場合
（２）災害等不測の事態により通常の通学手段による交通事故障害の場合
（３）近親者の死亡（三親等）による場合
（４）感染症による出席停止など学校の指示による場合
（５）その他の校長が特別認めた場合

３　追試験又は追実習を受け、これに合格した場合の成績評価は学則第１１条第２項の規定にかかわらず、得点の８割とする。

４　追試験は１科目につき１回限り受けることができる。

５　追実習の実施期間は長期休暇中とする。

６　追試験で不合格になった場合は再試験、再実習を受けることができる。

（補習講義）

第４条　第２条第３項の規定による補習を受けるようとする者は、補習願（【成】第２様式）を提出し、校長の許可を受けるものとする。

２　第２条第３項中の、その理由が正当なものと認めるとは、前条第２項の各号に掲げる場合と同様の理由による者とする。

（再試験・再実習）

第５条　第２条第４項の規定による再試験又は再実習を受けようとする者は、再試験願・再実習願（【成】第３様式）に再試験・再実習料を添えて期日まで提出し、校長の許可を受けるものとする。

２　再試験又は再実習は、科目試験・実習成績が合格点に達しなかった者及び追試験の結果合格点に達しなかった者について行う。

３　１科目を複数の講師が担当する場合の再試験については、科目試験と同様に行う。

４　再試験は１科目において原則として１回限り受けることができる。

５　再試験又は再実習を受け、これに合格した場合の成績評価は第２条第１項の規定にかかわらず、可（６０点）とする。

６　再実習の実施期間は原則として長期休暇中とする。

７　再試料、臨地実習における再実習料は入学金・授業料・各種手数料等に関する事項に定める。

（単位不認定者の再履修）

第６条　学則１２条第４項の規定により再試験・再実習で成績評価が６０点未満で不合格となり単位が不認定となった授業科目を、再履修しようとする者は、当該科目につき再履修願（【成】第４様式）に入学金・授業料・各種手数料等に関する事項に定める再履修料を添えて提出し、校長の許可を受けなければならない。

但し、校長はその扱いについては別途決定することができる。

２　校長は再履修許可書（【成】第５様式）を当該学生に通知する。

３　再履修許可を受けた学生への履修の通達事項については別に定める。

（卒業認定）

第７条　校長は、学則第５条に規定する修学年限以上を在学し、学則別表第１号に掲げる授業科目の全ての単位を修得した者の卒業認定については、単位・卒業認定会議を経て認定する。

（成績の通知）

第８条　校長は、成績及び授業の出席状況を次の学年が始まる前に本人・保護者に成績を通知する。

（既修得単位の認定）

第９条　学則第１２条第２項に規定する単位の認定を受けようとする者は、既修得単位認定申請書（【成】第６様式）に、単位の認定を受けたい科目の単位収得の成績証明書及び教育内容が明確に記載されている講義実施要項・授業計画等を添付し、指定期日までに申請しなければならない。

２　校長は単位認定の申し出があった場合は、単位・卒業認定会議を経て単位を認定する。

３　校長は認定された科目については既修得単位認定通知書（【成】第７様式）により当該学生へ通知する。

４　認定された単位を学籍簿に記入する際は、評価欄に「認」を記す。

一年次履修科目

科目名	単位	時間数	講義時期	講師　(○＝実務経験者)
看護物理学	1	３０	１年前期	森山　隆則　(○)

科目のねらい

ものを測る様々な単位の種類と意味、基礎看護技術の物理学的な原理および医療機器の原理について理解し看護における科学的ものの見方を涵養する

教科書　：　なし

参考文献　：　都度紹介

評価方法　：　筆記試験 100%

評価認定　：　優(80 点以上)、良(70～79 点)、可(60～69 点)、不可(60 点未満)の 4 段階評価とする

授業の進め方

教科書に準じた進め方で、解りやすいパワーポイントを用い基礎看護技術の物理学的な原理について演習を取り入れ平易に解説します　また、ものには全て単位がありその意味・考え方について演習を通して解説します　さらに様々な医療機器の原理および使用上の注意について解説します

授業進度と内容

回数	単　元	時間	学習内容	授業形態
1	重さ・容積・濃度の単位	2	単位の接頭語および単位の換算について	講義 演習
2	単位の換算演習	2	単位の換算	
3	体位変換に必要な物理学	2	体位変換の基礎理論について　作用と反作用	
4	トルクの考え方と演習	2	体位変換に役立つトルクの計算について	
5	温度の定義と検温の意義	2	体熱の産生と喪失のバランスについて 熱の移動	
6	冷罨法温罨法の物理学	2	温度・比熱	
7	看護に必要な電気理論	2	電気理論について	
8	大気圧の定義と血圧の単位	2	圧力の様々な定義と単位、血圧測定の注意事項	
9	酸素ボンベの物理学	2	気体の基礎的法則について	
10	点滴の基礎理論	2	位置エネルギーと運動エネルギーについて	
11	浸透圧・血液透析の原理	2	浸透圧の考え方・計算方法・単位について	
12	酸・アルカリ・ｐＨ	2	酸・アルカリ・水素イオン濃度について	
13	重量濃度・モル濃度・換算	2	溶液の各種濃度の表現方法について	
14	内視鏡・超音波の原理	2	内視鏡・超音波の原理について	
15	電磁波の種類と応用	2	電磁波の種類と医療への応用について	
単位修得認定試験		1	筆記試験	

科目名	単位	時間数	講義時期	講師(○＝実務経験者)
英語Ⅰ	2	３０	１年前期	佐藤　有(○)

科目のねらい
①医療に関わる基本的な英語用語を身につける②関係文書の読解力・活用力を高める③英語のコミュニケーション能力を高める

教科書　：Akihiko Higuchi, John Tremarco *First Aid! English for Nursing* KINSEIDO 2013
参考文献：特になし

評価方法：単位認定試験：筆記試験 100%
優（80 点以上）、良（70 点以上）、可（60 点以上）、不可（60 点未満）

授業の進め方：授業は基本的に教科書に沿って進めます。英語の辞書を用意してください。

授業進度と内容

回数	単元	単元目標	時間	学習内容	授業形態
1	Unit 1 会話： （来院） 購読	初診の患者を案内する際の語彙を理解し、表現ができる。 感情移入に関わる語彙と表現を理解できる。	2	・会話と有用表現（Is this your first visit to this hospital? 等）の練習 ・Patient Communication: 1 の購読	全体→ 個別→ グループ→ 全体
2	同上	同上	2	同上	同上
3	Unit 2 （初診受付） 購読	患者に登録申込書の記入を手伝う際の語彙を理解し、表現ができる。 患者との距離に関わる語彙と表現を理解できる。	2	・会話と有用表現（Would you Help me with this form? 等）の練習 ・Patient Communication: Ⅱの購読	同上
4	同上	同上	2	同上	同上
5	Unit 1 Unit 2	医療用語の構成原理を、作業を通して理解する。	2	語幹と接尾辞の連結に注目して図表を作成する。	同上
6	Unit 3 （生活習慣） 購読	患者の飲酒や禁酒など、生活習慣について尋ねることができる。 高齢者患者とのコミュニケーションに関わる語彙と表現を理解できる。	2	・会話と有用表現（I'd like to Ask you about your　daily Activities.等）の練習 ・Patient Communication: Ⅲの購読	同上
7	同上	同上	3	同上	同上
8 9	Unit 4 （問診） 購読	賞状について尋ねる際の語彙を理解し、表現できる。 患者を個の人間として扱うことの重要性に関わる語彙と表現を理解できる。	3	・会話と有用表現（What Seems to the problem? 等）の練習 ・Patient Communication: Ⅳの購読	同上

回数	単元	単元目標	時間	学習内容	授業形態
１０	Unit３ Unit４	Human body（頭部・人体）の名称を英語で言うことができる。	2	・Human body（頭部・人体）の名称を英語で表現する。	同上
１１	Unit５ （測定） 購読	脈拍、血圧、体重などの測定の際の語彙を理解し、表現することができる。 寛大で、優しく、直観的にわかりえる方法の採用等に関わる語彙と表現を理解できる。	2	・会話と有用表現（Let me Check your pulse. Your blood Pressure is 120 over 86.等） ・Patient Communication: Ｖの購読	同上
１２	同上	同上	2	同上	同上
１３	Unit５	医療用語の構成原理を、作業を通して理解する。 Human body（臓器）の名称を英語で言うことができる。	2	・語幹と接尾辞（循環器・血液系）の連結に注目して図表を作成する。 ・Human body（臓器）の名称を英語で表現する。	同上
１４	同上	同上	2	同上	同上
１５	Unit６ 全授業を通してのまとめ	検査に必要な語彙を理解し、表現することができる。 授業を振り返る	2	・会話と有用表現（We need to Take urine and blood Samples for testhing.等） ・授業を振り返る	同上
単位修得認定試験			1	筆記試験	

科目名	単位	時間数	講義時期	講師　(○＝実務経験者)
心理学	1	３０	１年前期	久原　奈緒子　(○)

科目のねらい
　人間の心の発達と心の動きについて学び、自己と他者を心理学の立場から理解する能力を養う。
　心理学の基礎知識、感覚・知覚・記憶・思考・学習・言語・発達・性格を取り上げ、人間一般の行動の法則性を理解することを目的とする。

教科書　：　新・社会福祉士シリーズ心理学２　心理学と心理的支援　　弘文堂
参考文献　：　都度紹介

評価方法　：　筆記試験 80%、提出物、授業態度、出席状況 20%
評価認定　：　優(80 点以上)、良(70～79 点)、可(60～69%点)、不可(60 点未満)の 4 段階評価とする

授業の進め方
　教科書とプリントを用い授業を行う。
　講義と演習を適宜おりまぜながら進行する。

授業進度と内容

回数	単　元	時間	学習内容	授業形態
1	心理学とは何か	2	心理学の分野、分類について	講義
2 3	パーソナリティ理論	4	類型論、特性論、構造論、局所論 パーソナリティの形成要因について	講義、演習 講義
4 5	患者理解	4	心的装置、防衛機制 様々な発達理論について	講義、演習 講義
6	学習心理学	2	古典的条件づけ、道具的条件づけ、動機づけ	講義
7 8 9 10	心理査定	8	アセスメントについて 性格検査、描画検査、知能検査 観察法、面接法 プロフィール作成	講義 講義、演習 講義 演習
11 12 13 14	発達心理学	8	胎児期、乳児期の発達的特徴について 幼児期の発達的特徴について、スクイグル法 児童期、青年期の発達的特徴について 成人期、老年期の発達的特徴について	講義 演習 講義 講義
15	グループワーク	2	KJ 法（説明、制作、発表）	演習
単位修得認定試験		1	筆記試験	

科目名	単位	時間数	講義時期	講師　(○＝実務経験者)
コミュニケーション	1	30	1年前期	石塚誠之　(○)

科目のねらい

人間関係の基礎となる言語的・非言語的コミュニケーションやグループダイナミクスの基礎について学ぶ　また、コミュニケーションに関する自己理解を深めた上で、他者とコミュニケーションをとるための表現・傾聴技法について学び、円滑なコミュニケーションを生む要因について理解を深める

教科書　　：　なし
参考文献　：　都度紹介

評価方法　：　筆記試験１００％
評価認定　：　優(80点以上)、良(70～７９点)、可(60～６９点)、不可(60点未満)の4段階評価とする

授業の進め方

言語的・非言語的なコミュニケーションなど心理学的を背景とし基礎知識について学んだ上で、間関係の一般的あり方や専門的な援助関係の基礎について、ロールプレイ等の体験を通じて、理解を深める　また、医療現場や日常生活における事例を通じて相手に配慮した関わりについて考える

授業進度と内容

回数	単　元	時間	学習内容	授業形態
1	オリエンテーション	2	コミュニケーションとは何か、その意味について考える	講義演習
2	コミュニケーションとは	2	日常生活での言語・非言語的コミュニケーションについて考える	
3	自己理解とコミュニケーション①	2	社会スキル尺度・ジョハリの窓等を用い、自己理解を深める	
4	自己理解とコミュニケーション②	2	日常生活におけるコミュニケーション行動について考える	
5	他者理解とコミュニケーション	2	他者を理解し、コミュニケーションを円滑にする方法を知る	
6	話し方のミュニケーション技法	2	コミュニケーションにおける表現技法について学ぶ	
7	聞き方のコミュニケーション技法①	2	コミュニケーションにおける傾聴技法について学ぶ	
8	コミュニケーション技法の活用	2	様々なコミュニケーション技法を用いてロールプレイを行う	
9	コミュニケーションスキルトレーニング①	2	アサーションの理論について学ぶ	
10	コミュニケーションスキルトレーニング②	2	アサーションの技法について学ぶ	
11	集団活動とコミュニケーション①	2	集団活動を通して、コミュニケーションについて考える	
12	集団活動とコミュニケーション②	2	集団活動を通して、円滑なコミュニケーションに必要な要因を知る	
13	看護コミュニケーション事例検討①	2	事例を通じて、患者の気持ちを受け止める方法を知る	
14	看護コミュニケーション事例検討②	2	事例を通じて、患者の気持ちに配慮した関わりについて知る	
15	授業のまとめ	2	授業でまとめたコミュニケーションのポイントについて確認する	
単位修得認定試験		1	筆記試験	

科目名	単位	時間数	講義時間	講師　(○＝実務経験者)
倫理学	1	３０	１年前期	佐藤郁恵　(○)

科目のねらい

倫理学の歴史と特徴的な考え方を理解し、学校や医療現場での倫理的な諸問題を学ぶ。
生の始まりと終わりに関わる倫理的な課題やアプローチについて考察する。

教科書：系統看護学講座　別巻　看護倫理（医学書院)、毎回講義資料を用意する。
参考文献：授業の中で参考文献を紹介する。

評価方法：レポート 20 点及び最終試験 80 点を総合して評価を行う。
評価認定：優（80 点以上)、良（70～79 点)、可（60～69 点)、不可（60 点未満）の 4 段階評価とする。

授業の進め方

学生の関心事や経験した出来事を倫理的視点で分析・解釈して、倫理行為のあり方を検討していきます。皆さんの価値観の違いを尊重しながら意見交換をしていきます。

授業進度と内容

回数	単元	時間	学習内容	授業形態
1	オリエンテーション 倫理思想①	2	授業ガイダンス授業ガイダンス ギリシャ思想と倫理:アリストテレス	講義
2	倫理思想②	2	西洋思想と倫理	講義
3	倫理思想③	2	東洋思想と倫理	講義
4	生命思想①	2	生命倫理の歴史	講義
5	生命倫理②	2	生命倫理の４原則と看護倫理原則 レポート課題の提示	講義
6	看護倫理①	2	看護倫理の歴史と看護職の職業倫理	講義
7	看護倫理②	2	ケアの倫理と道徳性の発達	講義
8	生命倫理③	2	レポート発表・意見交換	演習
9	生命倫理④	2	レポート発表・意見交換	演習
10	生命倫理⑤	2	レポート発表・意見交換	演習
11	生命倫理⑥	2	レポート発表・意見交換	演習
12	生命倫理⑦	2	生をめぐる倫理	講義
13	生命倫理⑧	2	死をめぐる倫理	講義
14	生命倫理⑨	2	先端医療と倫理	講義
15	看護倫理③	2	倫理的課題へのアプローチ	講義
単位修得認定試験		1	筆記試験	

科目名	単位	時間数	講義時期	講師(○＝実務経験者)
音楽と表現技法	1	３０	１年前期	伏見　千悦子(○)

科目のねらい

１．音・音楽と表現の関連性について、音楽遊びや合唱、創作ダンスなど、さまざまな表現活動を通して理解する

２．豊かな感性を養うとともに自己表現力を磨き、心身を開放する方法について考察する

教科書　：　配布プリントを使用します

参考文献　：

評価方法　：　毎回の取組姿勢、課題提出、実技発表の総合評価とします

評価認定：優(80　点以上)、良(70～79　点)、可(60～69　点)、不可(60　点未満)の４段階評価とする

授業の進め方

毎回の講義は、歌ったり踊ったり体を動かす学習内容を多く含みますので、動きやすい服装、靴で受講してください。また、グループワークなどには積極的に参加することを望みます

授業進度と内容

回数	単　元	時間	学習内容	授業形態
1	音・音楽とこころとからだ	2	音楽と心身の関連性について学びます	演習
2	表現が育つ過程	2	表出から表現へのプロセスを学びます	演習
3	日本の音楽―わらべうた（1）	2	粗大運動を含むわらべうたを体験します	演習
4	日本の音楽―わらべうた（2）	2	微細運動を含むわらべうたを体験します	演習
5	さまざまな国の音楽遊び（1）	2	粗大運動を含む音楽遊びを体験します	演習
6	さまざまな国の音楽遊び（2）	2	微細運動を含む音楽遊びを体験します	演習
7	想像力を育む音楽活動	2	物語性のある創作活動について学びます	演習
8	音感を育む音楽活動（1）	2	簡易打楽器を用いリズム遊びを体験します	演習
9	音感を育む音楽活動（2）	2	ﾐｭｰｼﾞｯｸﾍﾞﾙ等で旋律の演奏をします	演習
10	音感を育む音楽活動（3）	2	ﾄｰﾝﾁｬｲﾑ等でﾊｰﾓﾆｰのある音楽を演奏します	演習
11	言葉と歌唱（1）	2	言語活動と歌唱について学びます	演習
12	言葉と歌唱（2）	2	言語活動と歌唱のための教材を作成します	演習
13	音・音楽と身体表現（1）	2	音・音楽と身体運動の関連性を学びます	演習
14	音・音楽と身体表現（2）	2	音・音楽と身体運動の関連性を学びます	演習
15	音・音楽と身体表現（3）	2	グループごとに発表し、まとめを行います	演習
単位修得認定試験		1	取り組み姿勢、課題提出、実技発表	

科目名	単位	時間数	講義時期	講師　(○＝実務経験者)
家族論	1	１５	１年前期	堺　祐子　(○)

科目のねらい

家族の存在は大きな変容の時代を迎え、少子高齢化だけでなく、次世代の晩婚化、未婚率の増加など、家族の構造的、機能的脆弱性が増し、家庭内の虐待などの負の面も表面化してきている。この事は病を持つ家族メンバーがあるなしを問わず、家族そのものが何らかのサポートを必要としている事を表していると考える。看護の対象は家族も含めてであり、看護を実践するためには、その家族の概念、家族の理解、家族を理解するための理論、展開方法等の基礎知識を学ぶ

教科書　：　系統看護学講座　別巻　家族看護学　医学書院
参考文献　：　都度紹介

評価方法　：　筆記試験　100%
評価認定　：　優(80 点以上)、良(70～79 点)、可(60～69%点)、不可(60 点未満)の 4 段階評価とする

授業の進め方

教科書とプリントを用い授業を行う。講義と演習を適宜おりまぜながら進行する。

授業進度と内容

回数	単　元	時間	学習内容	授業形態
1	家族看護の概念	2	1.　家族看護の特徴と理念 1)　家族看護の発展と変遷 2)　家族看護の特徴 3)　家族看護の目指すところ 4)　ライフサイクルと家族	講義
4	家族看護の対象理解	8	1.　家族の概念 1)　隣接領域における家族の捉え方 2)　看護学から見た家族の捉え方 3)　家族の健康 2.　家族構造 1)　家族構造とは 2)　血縁関係・親族関係を把握する方法 3)　家族と家族外の関係性を把握する方法 3.　家族機能 1)　家族の育児機能 2)　家族のセルフケア機能 3)　社会における家族機能 4)　変化する家族機能 5)　家族機能を把握するためのモデルと方法 4.　現代の家族とその機能 1)　現代家族の様相 家族構造　家族の多様性 2)現代家族の課題	講義
6	家族看護を支える 理論	2	1.　家族を理解するための理論 1)　家族発達理論 2)　家族システム理論 2.　家族の変化を把握するための理論 1)　家族ストレス対処理論 ＡＢＣＸモデル　二重ＡＢＣＸ 家族ストレス・順応・適応の回復モデル 3.家族に変化をもたらすための介入	講義

回数	単元	時間	学習内容	授業形態
8	家族看護展開方法	3	1.　家族看護過程とは 　　1）　家族看護過程の視点 　　2）　家族看護過程の枠組み 2.　家族看護の実践 　　教書の事例を基に進める 3.　家族看護と他職種連携 様々な家族アセスメントモデル	
単位修得認定試験		1	筆記試験	

科目名	単位	時間数	講義時期	講師(○＝実務経験者)
解剖生理学Ⅰ	1	１５	１年前期	佐藤　惇(○)

科目のねらい

身体の構造と機能の概論を理解する

教科書　：　系統看護学講座　専門基礎分野　解剖生理学 人体の構造と機能１　医学書院

参考文献　：　らくらく学べて、臨床に生かせる　解剖生理ポイントブック　［第２版］　照林社

評価方法　：　筆記試験 100%

評価認定：　優(80 点以上)、良(70～79 点)、可(60～69 点)、不可(60 点未満)の 4 段階評価とする

授業の進め方

POWERPOINT と DVD(ビデオ)を用いてわかりやすい授業を心がけます

項目ごとに資料を作成し配布します

授業進度と内容

回数	単　元	時間	学習内容	授業形態
1	人体の構造と機能、人体とは	1	・人体の構造と機能	講義
2	人体の細胞、人体の組織	2	・細胞の構造と機能 ・エネルギーの生成、栄養	講義
3	構造と機能からみた人体	2	・筋、消化吸収	講義
4	構造と機能からみた人体	2	・呼吸	講義
5	構造と機能からみた人体	2	・体液血液、免疫	講義
6	構造と機能からみた人体	2	・循環、血圧、体温	講義
7	構造と機能からみた人体	2	・排泄、生殖、内分泌	講義
8	構造と機能からみた人体	2	・脳、神経、感覚器	講義
単位修得認定試験		1	筆記試験	

科目名	単位	時間数	講義時期	講師　(○＝実務経験者)
解剖生理学Ⅱ	1	３０	１年前期	後山恒範(○)加藤法喜(○)賀来亨(○)

科目のねらい

生命現象の機序を学び、正常な人体の構造と機能を理解する

教科書　：　系統看護学講座　専門基礎分野　解剖生理学 人体の構造と機能１　医学書院

参考文献　：　都度紹介

評価方法　：　筆記試験 100%（ 後山 40% 加藤 30% 賀来 30%）

評価認定　：　優(80 点以上)、良(70～79 点)、可(60～69 点)、不可(60 点未満)の 4 段階評価とする

授業の進め方

教科書、DVD、パワーポイント、資料配布で進めます

単元：　骨・筋系	担当講師：　後山　恒範
単元：　循環器系	担当講師：　加藤　法喜
単元：　呼吸器系	担当講師：　賀来　亨

授業進度と内容

回数	単　元	時間	学習内容	授業形態
1 2 3 4 5	身体の支持と運動 骨格・筋肉系	１０	人体の骨格筋の構造と機能 筋肉系の分類	講義
6 7 8 9 10	血液の循環とその調節 循環器・リンパ系	１０	心臓の構造、心臓の拍出機能、末梢循環の構造、血液の循環の調節、胎児循環 リンパとリンパ管	講義
11 12 13 14 15	呼吸のはたらき 呼吸器系	１０	呼吸器系の構造と機能	講義
単位修得認定試験		1	筆記試験	

科目名	単位	時間数	講義時期	講師　(○＝実務経験者)
解剖生理学Ⅲ	1	３０	１年前期	一木崇宏(○)大島淳二郎(○) 河田哲也(○)　安彦善裕(○)

科目のねらい

生命現象の機序を学び、正常な人体の構造と機能を理解する

教科書　：　系統看護学講座　専門基礎分野　解剖生理学 人体の構造と機能１　医学書院

参考文献　：　都度紹介

評価方法　：　筆記試験 100%　(一木 25% 大島 25% 河田 25% 安彦 25%)

評価認定　：優(80 点以上)、良(70～79 点)、可(60～69 点)、不可(60 点未満)の 4 段階評価とする

授業の進め方

教科書を中心にスライドを活用して進めます

単元：消化器系	担当講師：　一木崇宏	単元：内分泌・代謝系	担当講師：安彦善裕
単元：腎・泌尿器系	担当講師：　河田哲也	単元：血液・免疫系	担当講師：大島淳二郎

授業進度と内容

回数	単　元	時間	学習内容	授業形態
1 2 3 4	栄養の消化と吸収 消化器系	8	・口・咽頭・食道の構造と機能 ・腹部消化管の構造と機能 ・膵臓・肝臓・胆嚢の構造と機能 ・腹膜	講義
5 6 7 8	体液の調節と尿の生成 腎・泌尿器系	8	・腎臓の構造と機能 ・排尿路 ・体液の調節	講義
9 10 11 12	内臓機能の調節 内分泌・代謝系	8	・自律神経の構造と機能 ・内分泌系による調節 ・全身の内分泌腺と内分泌細胞 ・ホルモン分泌の調節	講義
13 14 15	血液のはたらき 血液系 外部環境からの防御 免疫系	6	・血液の組成と機能 ・生体の防御機構 ・体温とその調節	講義
単位修得認定試験		1	筆記試験	

科目名	単位	時間数	講義時期	講師(○＝実務経験者)
解剖生理学Ⅳ	1	３０	１年前期	佐野敬夫(○)杉本信志(○)賀来　亨(○) 永森克志(○)安彦善裕(○)島村佳一(○)

科目のねらい

生命現象の機序を学び、正常な人体の構造と機能を理解する

教科書　：　系統看護学講座　専門基礎分野　解剖生理学 人体の構造と機能１　医学書院
参考文献　：　都度紹介

評価方法　：　筆記試験 100%(佐野 15%　杉本 25% 賀来 15% 安彦 15% 永森 15% 島村 15%)
評価認定　：優(80 点以上)、良(70～79 点)、可(60～69 点)、不可(60 点未満)の 4 段階評価とする

授業の進め方

教科書、参考資料　スライドを活用して進めます

単元：生殖器系	担当講師：佐野敬夫	単元：脳・神経系	担当講師：　杉本　信志
単元：眼科	担当講師：賀来　亨	単元：皮膚科	担当講師：　永森　克志
単元：歯科	担当講師：安彦　善裕	単元：耳鼻科	担当講師：　島村　佳一

授業進度と内容

回数	単　元		時間	学習内容	授業形態
1 2	生殖・発生と老化のしくみ 生殖器系		4	・男性生殖器の構造と機能 ・女性生殖器の構造と機能 ・受精と胎児の発生 ・成長と老化	講義
3 4 5 6 7	情報の受容と処理 脳・神経系		１０	・神経系の構造と機能 ・脊髄と脳 ・脊髄神経と脳神経 ・脳の高次機能 ・運動機能と下行伝道路 ・感覚機能と上行伝道路	講義
8 9	感覚器系	眼科	4	目の構造と視覚	講義
10 11		皮膚科	4	皮膚の構造と機能	講義
12 13		耳鼻科	4	耳の構造と聴覚・平衡覚	講義

回数	単　元		時間	学習内容	授業形態
14 15	感覚器系	歯科	4	テーマ:口腔の機能と構造 ・歯の構造と各部の名称 ・歯式について ・歯(永久歯・乳歯)の発生と萌出時期 ・唾液腺の種類と特徴 ・唾液の働き ・咀嚼について ・う蝕と歯周病について 　原因と全身に及ぼす影響 ・口臭について ・ブラッシング	講義
単位修得認定試験			1	筆記試験	

科目名	単位	時間数	講義時期	講師　(○＝実務経験者)
病理学総論	1	１５	１年前期	森山　隆則　(○)

科目のねらい

病気の原因と病理学的な変化について学び疾病の特徴や進行の過程を理解する

教科書　：　系統看護学講座　専門基礎分野　病理学　疾病の成り立ちと回復の促進１　医学書院

参考文献　：　都度紹介

評価方法　：　筆記試験 100%

評価認定　：優(80 点以上)、良(70～79 点)、可(60～69 点)、不可(60 点未満)の 4 段階評価とする

授業の進め方

教科書に準じた内容について、教科書はもとより理解の助けになる参考データー図表をまとめたパワーポイントを使用し、双方向的な授業を実施します　理解度のチエックのため単元ごとに必ず質問し確認します

授業進度と内容

回数	単　元	時間	学習内容	授業形態
1	病理学で学ぶこと	1	病気の原因	講義
2	細胞・組織の障害と修復	2	細胞損傷と適応、組織の修復と創傷治癒	
3	循環障害	2	循環血液量の異常と閉塞性の障害について	
4	炎症と免疫・感染症	2	炎症とアレルギー、免疫不全および自己免疫疾患について	
5	代謝障害	2	脂質・たんぱく質・糖質の各物質代謝異常について	
6	老化と死	2	老化のメカニズム	
7	先天障害と遺伝子異常	2	先天異常の種類と新生児 マススクリーニングについて	
8	腫　瘍	2	腫瘍の定義分類、発生病理および診断と治療について	
単位修得認定試験		1	筆記試験	

科目名	単位	時間数	講義時期	講師(○＝実務経験者)
生化学	1	30	1 年前期	佐藤　惇(○)

科目のねらい

人体の構成成分である化学物質の性状とその代謝について知り、生命現象のしくみを化学的に理解する

教科書　：　系統看護学講座　専門基礎分野　人体の構造と機能 2　生化学　第 14 版　医学書院

参考文献　：　都度紹介

評価方法　：　筆記試験 100%

評価認定　：　優(80 点以上)、良(70～79 点)、可(60～69 点)、不可(60 点未満)の 4 段階評価とする

授業の進め方

生理学、疾患との関連を交えながら関心がもてるよう進めます

授業進度と内容

回数	単　元	時間	学習内容	授業形態
1 2	生化学を学ぶための基礎知識	4	1. 生化学とは 2. 生化学を学ぶための基礎的化学知識 3. 細胞の構造と機能 4. 生体で起きている科学反応	講義
3 4	タンパク質の性質	4	1. タンパク質の分類 2. 構成するアミノ酸の種類 3. タンパク質の高次構造	講義
5 6	酵素の性質と働き	4	1. 酵素とは 2. 酵素の特性 3. 酵素の種類	講義
7 8	生体内における糖質の代謝	4	1. 糖とは何か 2. 糖の分類 3. 糖質は体の重要なエネルギー源 4. グルコースとグルコーゲン	講義
9 １０	生体における脂質の代謝	4	1. 脂質の種類と科学的性質 2. 脂質の代謝 3. リポタンパク質と脂質の代謝	講義
１１ １２	生体内におけるアミノ酸及びタンパク質の代謝	6	1. 脱アミノ酸 2. 脱炭酸反応 3. 尿素回路 4. 糖新生	講義

回数	単　元	時間	学習内容	授業形態
１３			5. エネルギー代謝 6. 分岐鎖アミノ酸の代謝 7. 合流アミノ酸の代謝 8. オキシアミノ酸の代謝 9. 芳香族アミノ酸	講義
１４	生体内における核酸の役割	2	1. ２種類の核酸と構造 2. 核酸はコピーされる 3. タンパク質を作るための核酸 4. モノ及びジヌクレオチド	講義
１５	化学物質の性状とその代謝	2	1. 化学物質の性状とその代謝について整理 タンパク質、酵素、糖質、脂質	
	単位修得認定試験	1	筆記試験	

科目名	単位	時間数	講義時期	講師(○＝実務経験者)
栄養学	1	15	1 年前期	上坂　真智子(○)

科目のねらい

生命維持に必要な栄養素とそのエネルギ-代謝について学び、健全な生命活動を営むための基礎的知識を学ぶ

教科書　：　系統看護学講座　専門基礎分野　人体の構造と機能 3　栄養学 医学書院

参考文献　：　都度紹介

評価方法　：　筆記試験(90%)、平常点（10%）平素の受講態度等を加味する。

評価認定：優(80 点以上)、良(70～79 点)、可(60～69 点以上)、不可(60 点未満)の 4 段階評価とする。

授業の進め方

教科書と配布資料を中心に進める。

授業進度と内容

回数	単　元	時間	学習内容	授業形態
1	栄養学と看護	2	1. 栄養を学ぶということ 2. 保健・医療における栄養学 3. 看護と栄養 4. 栄養の概念	講義
2	栄養素の種類と働き①	2	炭水化物（糖質、食物繊維）	講義
3	栄養素の種類と働き②	2	脂質	講義
4	栄養素の種類と働き③	2	たんぱく質	講義
5	栄養素の種類と働き④	2	1. ビタミン 2. ミネラル	講義
6	水とエネルギー	2	1. 水の栄養的意義 2. エネルギー代謝	講義
7	食物の摂取と消化・吸収	2	1. 食物の摂取 2. 消化・吸収	講義
8	ライフステージと栄養	1	小児から高齢期における栄養の特徴	講義
	単位修得認定試験	1	筆記試験	

科目名	単位	時間数	講義時期	講師　(○＝実務経験者)
臨床薬理学	1	３０	1 年前期	山崎晃憲　(○)

科目のねらい

薬の効きかたと理論的背景を理解し、それに基づく適切な薬物療法を学ぶ
薬理学全般における基礎的知識と、疾患の系統別に作用する薬物について学ぶ
薬物医療事故の事例から看護師の役割を学び深める

教科書　：　系統看護学講座　専門基礎分野　疾病の成り立ちと回復の促進 3　薬理学第 15 版
医学書院

参考文献　：　都度紹介

評価方法　：　筆記試験 100%

評価認定　：　優(80 点以上)、良(70～79 点)、可(60～69 点)、不可(60 点未満)の 4 段階評価とする

授業の進め方

総論では、薬剤師の役割と業務内容を解説する　また、医薬品を取り扱う上で必要となる法律の概要を解説し、コンプライアンスの重要性を理解します　各論では、患者に薬が届けられるまでのプロセスから薬物療法の施行過程を解説し、その中で看護師として医薬品を取り扱う際に必要な知識を解説します　各項目に生理学、病態生理学、薬理学、微生物学、栄養学などの関連分野と組み合わせながら授業を進めます

授業進度と内容

回数	単　元	時間	学習内容	授業形態
1	総　論	2	1.　薬理学の概念 2.　小児、妊婦、高齢者の薬物治療 3.　医薬品の管理 上記の基礎知識と治療薬看護上の注意点	講義
2 3	末梢神経系作用薬	4	1.　自律神経作用薬 2.　筋弛緩薬 3.　局所麻酔薬 上記の基礎知識と治療薬 看護上の注意点	講義
4 5	循環器系作用薬	4	1.　抗高血圧薬(降圧薬) 2.　心臓作用薬 3.　腎臓作用薬 4.　血液・造血器作用薬 上記の基礎知識と治療薬 看護上の注意点	講義
6 7	中枢神経系作用薬	4	1.　麻酔　2.　疼痛　3.　不眠症 4.　神経系、気分障害、統合失調症 5.　てんかん　6.　パーキンソン病	講義

回数	単　元	時間	学習内容	授業形態
			7.　認知症、アルツハイマー病 上記の基礎知識と治療薬 看護上の注意点	講義
8 9	炎症免疫系作用薬	4	1.　抗炎症薬 2.　免疫関連薬 アレルギー、関節リウマチ 上記の基礎知識と治療薬 看護上の注意点	講義
10 11	呼吸器系作用薬	4	1.　気管支喘息 2.　呼吸器感染症等による激しい咳、痰 3.　慢性呼吸不全 4.　睡眠時無呼吸症候群 5.　びまん性汎細気管支炎 上記の基礎知識と治療薬 看護上の注意点	講義
12 13	消化器系作用薬	4	1.　胃炎、胃、十二指腸潰瘍 2.　食欲不振、消化不良 3.　嘔吐 4.　便秘、下痢 上記の基礎知識と治療薬 看護上の注意点	講義
14	ホルモン系・生殖器系 作用薬	2	1.　ホルモン系作用薬 糖尿病、甲状腺機能亢進症・低下症 骨粗鬆症 2.　生殖器系作用薬 前立腺肥大　陣痛誘発　不妊症 受胎調節の基礎知識と治療薬 看護上の注意点	講義
	抗感染症薬		1.　抗感染症薬　2.消毒薬 上記の基礎知識と治療薬 看護上の注意点	
15	抗悪性腫瘍薬　漢方薬	2	看護上の注意点	講義 演習
	薬の取り扱いと医療事故		1.　薬の取り扱いと医療事故 2.　事故判例から看護師の役割をまとめる	
	薬物療法と多職種連携・協働		1.　薬物指導及び薬物療法における他職種連携・協働について	
単位修得認定試験		1	筆記試験	

科目名	単位	時間数	講義時期	講師(○＝実務経験者)
微生物学	1	３０	１年前期	澤 田　幸 治(○)

科目のねらい
微生物の種類と特徴を理解する
感染拡大を防ぐための病原微生物の正しい滅菌、消毒法を理解する
病原微生物が引き起こす感染症の症状とその予防法について理解する

教科書　：系統看護学講座　専門基礎分野 微生物学　疾病の成り立ちと回復の促進４　医学書院
参考文献　：特にありません　必要に応じてプリントを配布します

評価方法　：　筆記試験 100%
評価認定　：優(80 点以上)、良(70～79 点)、可(60～69 点)、不可(60 点未満)の 4 段階評価とする

授業の進め方: 板書、スライド(パワーポイント)、プリントを併用して基本的事項を解説します。
ノートをとり教科書を参照すること。毎回の授業の復習ため、小テストを実施します。

授業進度と内容

回数	単　元	時間	学習内容	授業形態
1 2 3 4	微生物学総論	8	１．病原微生物の種類と特徴 ２．常在細菌叢 ３．微生物の増殖と病原性因子 ４．微生物の感染機構 ５．感染の成立から発症・治癒まで ６．感染症の種類 ７．感染症法	講義
5 6	感染症に対する生体防御機構	4	１．自然免疫のしくみ ２．獲得免疫のしくみ	
7 8	感染症の予防	4	１．ワクチンの種類と予防接種 ２．滅菌と消毒	
9 10 11 12 13 14 15	感染症各論	14	１．日和見感染、院内感染症 ２．消化器感染症と食中毒 ３．尿路感染症 ４．性感染症　５．肝炎、 ６．微生物と腫瘍　７．針刺し感染症 ８．呼吸器感染症　９．発疹性感染症 １０．母子感染症　１１．小児感染症 １２．脳・神経系感染症 １３．高齢者感染症	
単位修得認定試験		1	筆記試験	

科目名	単位	時間数	講義時期	講師　(○＝実務経験者)
病態と治療Ⅰ	1	３０	１年前期	後山恒範(○)加藤法喜(○)賀来亨(○)

科目のねらい

疾患の病態、治療検査を理解しその疾患のもつ患者の身体のアセスメントに必要な基礎的能力を養う

教科書　：　系統看護学講座　専門分野　成人看護学 10 運動器　医学書院
系統看護学講座　専門分野　成人看護学 3　循環器　医学書院
系統看護学講座　専門分野　成人看護学 2　呼吸器　医学書院

参考文献　：　都度紹介

評価方法　：　筆記試験 100%(後山 40%　加藤 30%　賀来 30%)

評価認定　：優(80 点以上)、良(70～79 点)、可(60～69 点)、不可(60 点未満)の 4 段階評価とする

授業の進め方

解剖生理学の確認をしながら、主たる臨床で関わる代表疾患を中心に講義をします

単元：　運動器系	担当講師：　後山　恒範
単元：　循環器系	担当講師：　加藤　法喜
単元：　呼吸器系	担当講師：　賀来　亨

授業進度と内容

回数	単　元	時間	学習内容	授業形態
1 2 3 4 5	運動器疾患の病態と 検査治療処置	１０	１．運動器の構造と機能 ・骨、関節、神経と筋肉、腱と靭帯 ２．症状とその病態生理 ・疼痛、形態・関節の異常、神経障害 ３．診断・検査と治療・処置 ・診察・診断の流れ、画像検査、保存療法、理学療法、手術療法、義肢と装具 ４．運動器疾患の理解 ・外傷性・内因性の運動器疾患	講義
6 7 8	循環器疾患の病態と 検査治療処置	１０	１．循環器の構造と機能 ・心臓、血管、自律神経、液性因子 ２．症状とその病態生理 ・胸痛、呼吸困難、浮腫、失神、ショック ３．検査と治療 ・診察と診断の流れ、心電図、心エコー 心臓カテーテル、血行動態モニタリング	講義

回数	単元	時間	学習内容	授業形態
9 10	循環器疾患の病態と 検査治療処置		心臓核医学検査 ・内科的治療、外科的治療 ４．循環器疾患の理解 ・虚血性心疾患、心不全、不整脈、弁膜症 大動脈系疾患	講義
11 12 13 14 15	呼吸器疾患の病態と 検査治療処置	１０	１．呼吸器の構造と機能 ・呼吸器の構造、呼吸の生理 ２．症状とその病態生理 ・自覚症状（咳嗽、喀痰、呼吸困難） ・他覚症状(ﾁｱﾉｰｾﾞ、ばち指、呼吸の異常) ３．検査と治療・処置 ・診察と診断の流れ、喀痰検査、内視鏡検査、 生検、呼吸機能検査 ・吸入・酸素療法、呼吸理学療法、気道確保 ・胸腔ドレナージ ・在宅酸素療法（HOT） ４．呼吸器疾患の理解 ・感染症、間質性肺疾患、気道疾患 肺血栓塞栓症、呼吸不全、肺腫瘍	講義
単位修得認定試験		1	筆記試験	

科目名	単位	時間数	講義時期	講師　(○＝実務経験者)
病態と治療Ⅱ	1	３０	1年前期	一木崇宏(○)大島淳二郎(○) 河田哲也(○)　安彦善裕(○)

科目のねらい

疾患の病態、治療検査を理解しその疾患のもつ患者の身体のアセスメントに必要な基礎的能力を養う

教科書　：　系統看護学講座　専門分野　成人看護学 5　消化器　医学書院
系統看護学講座　専門分野　成人看護学 8　腎・泌尿器　医学書院
系統看護学講座　専門分野　成人看護学 6　内分泌・代謝　医学書院
系統看護学講座　専門分野　成人看護学 4　血液・造血器　医学書院
系統看護学講座　専門分野　成人看護学 11 ｱﾚﾙｷﾞｰ膠原病感染症　医学書院

参考文献　：　都度紹介

評価方法　：　筆記試験 100%(一木 40%　大島 20%　河田 20%　安彦 20%)

評価認定　：優(80 点以上)、良(70～75 点)、可(60～69 点)、不可(60 点未満)の 4 段階評価とする

授業の進め方

解剖生理学の確認をしながら、臨床で主に遭遇する代表疾患を中心に進めます

単元：　消化器系	担当講師：一木　崇宏	単元：内分泌代謝系	担当講師：安彦善裕
単元：　腎・泌尿器系	担当講師：河田哲也	単元：血液・免疫系	担当講師：大島淳二郎

授業進度と内容

回数	単　元	時間	学習内容	授業形態
1 2 3 4 5 6	消化器疾患の病態と 検査治療処置	１２	１．消化器の構造と機能 ・食道、胃十二指腸、小腸大腸、直腸 肛門 ２．症状とその病態生理 嚥下困難、嘔吐、吐血、下血、下痢、便秘 腹水、黄疸 ３．検査と治療 ・診察と診断の流れ ・糞便検査、肝生検、内視鏡検査 放射線検査、超音波検査 ・薬物療法、栄養・食事療法、放射線療法 ４．疾患の理解 ・食道、胃・十二指腸疾患、腸腹膜疾患 肝臓・胆嚢疾患、膵臓疾患、急性腹症	講義

回数	単元	時間	学習内容	授業形態
7 8 9	腎・泌尿器疾患の病態と検査治療処置	6	1．腎・泌尿器の構造と機能 ・腎臓、尿管、膀胱、尿道、男性生殖器 2．症状とその病態生理 ・尿の異常、排尿症状、浮腫、脱水 循環器・血液異常、尿毒症、腫脹、腫瘤 3．検査と治療・処置 ・病歴聴取と診察法 ・尿検査、腎機能検査、内視鏡検査 生検、性・生殖機能検査 ・手術療法、がん治療、排尿管理 透析療法、腎移植 4．疾患の理解 ・腎不全、ネフローゼ症候群、糸球体腎炎 糖尿病性腎症	講義
10 11 12	内分泌・代謝疾患の病態と検査治療処置	6	1．内分泌・代謝器官の構造と機能 ・視床下部、下垂体、甲状腺 ・ホルモン機能 2．症状とその病態生理 ・体重変化・身長の異常、容貌変化 3．治療検査 ・内分泌代謝疾患の検査 ・インスリン療法、薬物・食事・運動療法 4．疾患の理解 ・巨人症、クッシング症候群、尿崩症 橋本病、バセドウ病、糖尿病 脂質尿酸異常	講義
	アレルギー・膠原病疾患の病態と検査治療処置		1．自己免疫疾患とその機序 2．症状とその病態生理 ・関節痛、レイノー現象、筋力低下 3．検査と治療 ・膠原病の診断までの流れ ・抗核抗体、免疫グロブリン、筋生検 ・薬物療法（副腎皮質ｽﾃﾛｲﾄﾞ薬、免疫抑制薬抗ﾘｳﾏﾁ薬） 4．疾患の理解 ・関節リウマチ、ｴﾘﾃﾏﾄｰﾃﾞｽ、強皮症 ｼｪｰｸﾞﾚﾝ症候群、ﾍﾞｰﾁｪｯﾄ病	

回数	単元	時間	学習内容	授業形態
13 14 15	血液・造血器疾患 の病態と検査治療処置	6	１．血液の生理と造血のしくみ ・血液の成分と機能、造血のしくみ ２．検査・診断と症候・病態生理 ・貧血、発熱、リンパ節腫脹、出血傾向 ・骨髄穿刺・生検、染色体遺伝子検査 ３．疾患と治療の理解 ・再生不良性貧血、紫斑病、血友病 白血病、悪性リンパ腫、多発性骨髄腫 ・血液型と輸血療法 化学療法、造血幹細胞移植	講義
単位修得認定試験		1	筆記試験	

科目名	単位	時間数	講義時期	講師（○＝実務経験）
看護学概論Ⅰ	1	３０	１年前期	藤原未央

科目目的　：　看護の概念、目的、役割と機能を理解し、看護実践の基盤となる人間観、健康観を培う

目標　：１．看護の歴史的変遷を通して看護の概念を理解する
２．健康について多面的にとらえることができ、看護者としての健康観を育成する
３．看護の対象である人間について学び、看護の対象としての人間を統合的に理解する
４．看護の機能と役割を学び、看護活動の概要を理解する

教科書　：　系統看護学講座　専門分野　　基礎看護学１ 看護学概論　医学書院
看護の基本となるもの　ブァージニア・ヘンダーソン　日本看護協会出版

参考文献　：　フローレンス・ナイチンゲール看護覚書
ナーシング・グラフィカ　看護概論　基礎看護学①　メディカ出版

評価方法　：　筆記試験１００％

評価認定　：　優(８０点以上)、良(７０～７９点)、可(６０～６９点)、不可(６０点未満)の４段階評価とする

授業の進め方：１．教科書、配布資料をもとに授業を進めていきます
２．グループワークがありますので、積極的に参加してください

授業進度と内容

回数	単　元	単元目標	時間	学習内容	授業形態
1 2 3	看護とは	看護の変遷・看護の定義・看護の役割と機能・看護の継続性と連携を理解する	6	1．看護の本質 1）看護の変遷 (1)看護の原点　(2)看護の語源 (3)看護の歴史 2）看護の定義 (1)保健師助産師看護師法における看護師の定義 (2)看護職能団体による看護の定義 (3)看護の理論家にみる看護の定義 ２．看護の役割と機能 1）看護ケアについて (1)ケアとは (2)看護におけるケア 2）看護実践とその質保証に必要な要件 (1)看護実践に欠かせない要素 (2)看護の質保証に欠かせない要件 (3)臨床における看護研究の実践	講義

回数	単　元	単元目標	時間	学習内容	授業形態
				４．グループワーク　DVD 視聴 「看護師は何のために、どのようなことを行っていますか。」あなたが看護について思ったこと考えたことを話し合いましょう。(看護の本質は) 3) 看護の役割・機能の拡大 (1)疾病構造の変化と看護への影響 (2)看護活動の地域への広がり (3)介護保険制度に伴う看護活動の場の多様化 (4)生活習慣病対策・健康増進運動 ３．看護の継続性と連続 １）看護における情報伝達と共有 ２）多職種チームの連携と継続的かかわり ３）在宅療養を支える連携と継続的なかかわり	グループワーク 協同学習
4 5 6	看護の対象の理解	看護の対象である人間の理解と人間の暮らしを理解する	6	１．人間のこころとからだを知る 1) 対象理解の基盤 2) ホメオスタシス 3) ストレスの影響 4) 患者心理の理解 5)「こころ」の理解に役立つ理論 (1)マズローの欲求段階説 (2)危機理論 ２．生涯発達しつづける存在 1) 身体的発育 2) 心理・社会的側面のおける発達 ３．人間の「暮らし」の理解 1) 生活者としての人間 2) 看護の対象としての家族・集団・地域 3) ヘンダーソンの看護から考える生活とは、日常性とは 日常生活とは、生活を整える ４．グループワーク 「人間にとってのニードとは」	講義 グループワーク 協同学習

回数	単　元	単元目標	時間	学習内容	授業形態
7 8 9	健康状態と生活	健康とはなにかを理解する	6	1．健康のとらえ方 1） 健康とは・障害とはなにか 2） 健康と生活 2．国民の健康状態 1） 国民の健康の全体像 2） 子どもの成長と健康 3） 高齢者と介護 3．国民のライフサイクル 1） 平均寿命と出生　2）結婚と出産 3）家族 4．グループワーク テーマ「健康観を明らかにする」 学習方法：新聞記事や雑誌・参考図書を活用して積極的に話し合う	講義 グループワーク 協同学習 発表
10 11	職業としての看護	看護職の成立と発展と継続教育の概要を理解する	4	1．職業としての看護 1） 職業としての看護のはじまりから看護の発展 2．看護職の資格・養成制度・就業状況 1）看護職の資格 2）看護職の養成制度 3）看護職の就業状況 3．看護職者の継続教育とキャリア開発 1） 継続教育 2） 専門看護師・認定看護師・認定看護管理者 4．看護職の養成制度の課題 1） 看護職養成の場としくみ 2） 「特定行為に係る看護師の研修制度」の開始	講義
12 13 14	看護の提供のしくみみ	看護におけるサービスという考え方について理解する	6	1．サービスとしての看護 1）看護とはなにか 2．看護サービス提供の場 1） 看護サービスの担い手とチーム医療 2） 看護サービス提供の場 (1) 医療施設における看護 (2) 地域における看護	講義

回数	単　元	単元目標	時間	学習内容	授業形態
				(3) 継続看護 ３．看護をめぐる制度と政策 1）看護制度　　2）看護政策 3）経済のしくみ 4）人員配置基準・診療報酬制度 ４．看護サービスの管理 1）看護管理システム 2）組織 3）リーダーシップとフォロワーシップ 4）人的資源の管理 ５．医療安全と医療の質保証 1）ヒューマンエラーと医療事故 2）インシデントレポートの活用	
１５	看護の活動領域	国際看護学とは何か 災害における看護を理解する	２	１．国際化と看護 1）国際看護学とはなにか 2）国際協力のしくみ ２．災害時における看護 1）災害看護の概念と構造 2）災害と健康	講義

＜事前課題＞

・講義初講日までに、「看護の基本となるもの」ヴァージニア・ヘンダーソンを全編熟読してください。

・講義第４回グループワーク

人間を感じる書籍（小説、漫画、絵本など）１冊を読んできてください。

書籍から感じた主人公の人間らしさを考えてみる。（主人公はどんな人でどのようなところに人間らしさを感じたか）記述したものを持参。

科目名	単位	時間数	講義時期	講師（○=実務経験者）
看護学概論Ⅱ	1	１５	１年前期	三上　麻美（○）

科目目的　：　医療・看護をめぐる倫理原則を理解し、倫理的問題や倫理的ジレンマへの取り組み方、看護理論の内容を知り、どのように実践に移せるのかを学ぶ

目標　：１．看護における倫理原則と看護実践上の倫理的概念について理解する
２．看護理論の発展過程を学び、看護の理解を深める

教科書　：　系統看護学講座　専門分野　基礎看護学１　看護学概論　　医学書院
看護の基本となるもの　ブァージニア・ヘンダーソン　日本看護協会出版

参考文献　：　フローレンス・ナイチンゲール看護覚書
ナーシング・グラフィカ　看護概論　基礎看護学①　メディカ出版
実践に生かす看護理論１９　　サイオ出版

評価方法　：　筆記試験１００％

評価認定　：　優(８０点以上)、良(７０～７９点)、可(６０～６９点)、不可(６０点未満)の４段階評価とする

授業の進め方：１．教科書、配布資料をもとに授業を進めていきます
２．グループワークがありますので、積極的に参加してください
グループワーク終了後はレポート提出ありますので、期限を守ってください

授業進度と内容

回数	単　元	単元目標	時間	学習内容	授業形態
1 2 3	看護倫理	倫理とは何かを理解する 倫理の歴史的経緯を理解する 倫理原則・倫理規定を理解する	6	1. 現代社会と倫理 1）倫理について 2）職業倫理としての看護倫理 2. 医療をめぐる倫理の歴史的経緯と看護倫理 1）患者の権利とインフォームドコンセント 2）患者の意思決定支援と守秘義務 3）現代医療におけるさまざまな倫理的問題 4）医療専門職の倫理規定 3. 看護実践における倫理問題への取り組み 1）看護の本質としての看護倫理 2）医療をめぐる倫理原則とケアの倫理	講義

回数	単　元	単元目標	時間	学習内容	授業形態
		倫理的問題や倫理的ジレンマの解決への取り組み方を理解する		3）看護実践場面での倫理的ジレンマ 4）倫理的課題に取り組むための仕組み ４．倫理原則・看護師の倫理綱領を参考に事例検討 看護の現場で身近な事例をもとに、倫理的課題の解決に向けて、考えてみましょう。臨床倫理の４分割表を用いて考える。　事例４つ グループワーク　発表	協同学習 グループワーク 発表
4 5 6 7 8	看護理論	看護理論の発展過程を学び看護の理解を深める	9	1．看護理論の発展過程 1)理論の範囲 (1)広範囲　(2)中範囲　(3)小範囲 2）看護モデルの概要 (1)環境論 フローレンス・ナイチンゲール (2)ニード論 ヴァージニア・ヘンダーソン (3)臨床看護における援助技術 アーネスティン・ウィーデンバッグ (4) 人間対人間の関係モデル ジョイス・トラベルビー (5) セルフケア不足理論 ドロセア・Ｅ．オレム (6) 適応モデル シスター・カリスタ・ロイ (7)臨床での看護実践における卓越性とパワー パトリシア・ベナー (8)目標達成理論 アイモジン・Ｍ・キング (9)科学的看護論 薄井　坦子	講義 ジグソー学習 グループワーク 発表
単位修得認定試験			1	筆記試験	

＜事前課題＞

新訂版　実践に生かす看護理論１９　を熟読しグループワークに参加してください。

科目名	単位	時間数	講義時期	講師（○=実務経験者）
共通援助技術	1	３０	１年　前期	藤原未央（○）鎌田たまみ（○）

科目目的　：すべての看護援助に共通し、あらゆる看護技術や看護業務を支えるために必要な知識・技術・態度を身につける

科目目標　：１．安全・安楽・適切な看護技術を習得する必要性を理解する
２．看護における観察・記録の目的・意義・方法を理解する
３．感染防止の意義・対策を理解し、基本的な防止のための技術を習得する
４．看護における学習支援（健康教育・患者指導の基礎と技法）の知識・技術をする
５．看護におけるコミュニケーションの基本を理解する
６．看護・医療における医療安全の目的・意義と事故防止予防を理解する

教科書　：系統看護学講座　専門分野　基礎看護学２　基礎看護技術Ⅰ　医学書院
系統看護学講座　専門分野　基礎看護学３　基礎看護技術Ⅱ　医学書院
系統看護学講座　統合分野　看護の統合と実践２　医療安全　医学書院
ナイチンゲール　看護覚え書(第７版)　現代社
看護の基本となるもの　ヴァージニア・ヘンダーソン　日本看護協会出版社
看護技術プラクティス　第４版　学研

参考文献　：ﾅｰｼﾝｸﾞ･ｸﾞﾗﾌｨｶ　看護の統合と実践②　医療安全　MCﾒﾃﾞｨｶ出版
医療安全ワークブック　医学書院

評価方法　：　筆記試験（鎌田 20%、藤原 60%）KYT レポート（鎌田 20%）

評価認定　：　優（８０点以上）、良(７０～７９点)、可(６０～６９点)、不可（６０点未満）の４段階評価とする

授業の進め方：１．事前課題に取り組んでいることを前提とし授業を行います
２．　授業は事前課題→講義→学内実習→振り返り(リフレクション)→事後課題の流れで進めていきます
３．授業では参考資料も活用しながら学習内容の充実を図ります
４．コミュニケーション能力の向上と視野を広げるために、グループワークを取り入れていきます。積極的に参加しましょう
５．学内実習は実際の場面を想定して行い、看護を目指すものとしての自覚と責任を持ち、技術の向上を目指して主体的に臨みましょう
６．看護事故の構造分類に基づいて「してはならないこと」「するべきことを」という２つの事故防止の視点で、事故事例の分析や、危険予知力を高めるために危険訓練を行い安全の重要性と看護事故防止の考え方を理解していきます

単元：　安全教育・KYT 学内実習	担当講師：　鎌田たまみ
単元：　技術の概念・感染防止学内実習他	担当講師：　藤原未央

授業進度と内容

回数	単　元	単元目標	時間	学習内容	授業形態
1	技術の概念	看護における技術の意義・特徴を理解する 看護技術の原理原則に基づき、根拠を持って実施する重要性を理解する 適切な看護技術の習得に必要な要素を理解する	2	1.看護技術とは 2.看護における技術 3.看護技術を適切に実践するための要素 1)　看護技術の目的 2)　原理原則 3)　安全安楽 4)　実施 5)　リフレクション	講義
2	安全教育	事故防止の考え方を理解する	2	1.医療安全を学ぶことの意義 2.事故防止の考え方 1)医療事故と看護業務 2)看護事故の構造と事故防止の考え方	講義
3		看護職の法的規定や医療事故に伴う看護師の法的責任について理解できる	2	1.保助看法による業務範囲 2.医師業務との関係 3.注意義務・法的責任 4.ヒヤリ・ハット体験の分析と共有化 5.学生としての法的責任	講義
4 5		看護実践での事故防止が理解できる	4	1.診療の補助業務に伴う事故防止 1)注射業務・輸血業務と事故防止 2)内服与薬業務と事故防止 3)経管栄養業務と事故防止 ※.DVD「与薬を安全に実施するために」を視聴する 2.療養上の世話の事故防止 1)転倒・転落事故防止 2)誤嚥・異食事故防止 3)入浴中の事故防止 ※.DVD「エラーを防ぐコミュニケーション」を視聴する	

回数	単　元	単元目標	時間	学習内容	授業形態
6 7	KYT	危険予知力を高めることができる	4	1.学内実習 1)実施項目 (1)KYT(危険予知トレーニング) 2)学習方法 (1)KYT の進め方・討議のポイントのオリエンテーション (2)事例の提示・グループワーク (3)危険因子の抽出 (4)グループ発表 (5)討議・意見交換による重点項目の絞り込み 3)評価方法・評価の視点 (1)グループのまとめ提出資料から評価：根拠・留意点が明確である 1. (2)個人レポート評価:自己の傾向を含め感想が述べられている	学内演習 協同学習
8	観察・記録	看護における観察の目的・意義・方法を理解する 看護記録の目的・意義・方法を理解する	2	2. 観察とは 3. 看護における観察 1) 主観的情報と客観的情報 2) フィジカルアセスメント 3) ヘルスアセスメント 2. 看護記録とは 1) 看護記録の法的規定 2) 看護記録の目的・意義 3. 記載・管理における留意点 4. 看護記録の構成 1) 基礎情報 2) 看護計画 3) 経過記録 4) 看護サマリー	講義
9 10 11	感染防止	感染と感染予防策の概要を理解する 感染防止における看護師の責務と役割を理解する 医療器材の管理・無菌操作の重要性	4	1. 感染防止の基礎知識 1) 感染成立の条件 2) 院内感染の防止 2. 標準予防策（スタンダードプリコーション） 1) 標準予防策の基礎知識 2) 対策の実際	講義 DVD 視聴

回数	単　元	単元目標	時間	学習内容	授業形態
		を理解する 感染性廃棄物の処理方法を理解する 医療現場における組織的な予防対策を理解する		3. 感染経路別予防策 1）接触予防策 2）飛沫予防策 3）空気予防策 4. 洗浄・消毒・滅菌 5. 無菌操作 1）保管方法 2）滅菌物の取り扱い 6. 感染性廃棄物の取り扱い 7. 学内実習方法の説明 実施項目：衛生学的手洗い・滅菌手袋の装着・ガウンテクニック	
		スタンダードプリコーションに基づいた感染防止対策技術を習得する	2	1. ジグソー学習・タスクトレーニング 1）専門家の育成 （1）ガウンテクニック （2）衛生学的手洗い・滅菌手袋の装着 2）チーム練習 （1）援助計画書に基づいた技術練習	学内実習
12 13 14	学習支援技術	看護における学習支援の目的・意義・方法を理解する さまざまな場・健康状態・対象における学習支援の概要・特徴を理解する	6	1. 看護における学習支援とは 1) 看護の中にある学習支援 2) 教育・指導から学習支援へ 3) 看護師の権限としての学習支援 4) 学習支援技術の発展と理論 ① セルフケア理論 ② アンドラゴジー ③ 変化のステージモデル ④ 自己効力感 2. 健康に生きることを支える学習支援 1) 健康戦略の変遷 2) 様々な形で行われる学習支援 3. 健康状態の変化に伴う学習支援 4. 看護における学習支援の実際 1）健康教育・患者指導の基礎と技法 5. .指導計画(教育計画) 事例提示　ロールプレイ	講義 グループワーク 協同学習

回数	単　元	単元目標	時間	学習内容	授業形態
15	コミュニケーション技術	患者―看護師、および医療チームメンバー間の関係構築・促進のためのコミュニケーションのあり方を理解する	2	1. 医療におけるコミュニケーションの意義・目的・特徴 2. 患者―看護師関係の構築の基本と効果的なコミュニケーション技術 1) 傾聴・受容・共感 2) 情報収集の技術 3) アサーティブネス 4) コーチング 3. 自己理解・他者理解 1) プロセスレコード 2) ジョハリの窓	講義 グループワーク 協同学習
単位修得認定試験			1	筆記試験　レポート	

事前課題内容

単元	事前課題内容
感染防止	1.「微生物学」で学習した以下の内容を復習する 1)感染成立のしくみ 2)標準予防策の目的と方法 3)感染経路別予防策の目的と内容 2. スタンダードプリコーションに関する基礎知識（ワークシート） 3. 教科書・看護プラクティスの動画視聴による手順・留意点の確認
学習支援技術	レポート課題（A4 用紙 1 枚：講義の前日までに提出） ヘンダーソンの「14. 患者が学習するのを助ける」を読み、ヘンダーソンが「①学習支援の目的、②学習支援の在り方、③看護師の役割・責任についてどのように述べているのか内容を整理する
コミュニケーション技術	レポート課題（A4 用紙 1 枚：講義の前日までに提出） ヘンダーソンの「10. 意思の伝達・欲求・気持ちの表現」を読み、「①コミュニケーションの欲求が充足するとはどういうことか、②コミュニケーションの欲求を充足させるために、看護師はどうあるべきである」と述べているか理解した内容を整理する

科目名	単位	時間数	講義時期	講師（○＝実務経験者）
生活援助技術Ⅰ	1	３０	１年前期	鎌田たまみ（○）　齊藤まどか（○）

科目目的　：人間にとっての食事・栄養、排泄の意義を理解し、看護技術に必要な知識・技術・態度を身につける

目標　：１．食事・栄養、排泄の意義と基礎的な知識・技術・態度について理解する
２．対象の栄養状態、排泄状態のアセスメントの方法を理解する
３．食事・栄養、排泄に関わる援助方法を習得する
４．対象を尊重した態度で援助技術が実践できる

教科書　：系統看護学講座 専門分野Ⅰ 基礎看護技術Ⅱ　基礎看護学③　医学書院
ﾌﾛﾚﾝｽ･ﾅｲﾁﾝｹﾞｰﾙ　看護覚え書　現代社
看護の基本となるもの　ﾊﾞｰｼﾞﾆｱ･ﾍﾝﾀﾞｰｿﾝ著　日本看護協会出版会

参考文献　：看護技術プラクティス　第４版　学研

評価方法　：　筆記試験１００％（鎌田 40%、小テスト 10%）（齊藤 40%、小テスト 10%）

評価認定　：　優(８０点以上)、良(７０～７９点)、可(６０～６９点)、不可(６０点未満)の４段階評価とする

授業の進め方

１．各教科書、学内実習要項、事前に配布された資料は忘れずに毎回準備してください
２．事前課題で取り組んだ内容をもとに、グループワーク、アセスメントへとつなげていく学習になります。個人で事前課題に取り組み、グループワークでは個々人の相違を見つけるためにも積極的に意見交換をしましょう
３．食事･栄養、排泄に関する基礎知識が学べたら、次は実際に食事介助･口腔ケア、排泄援助の演習を行います
４．学内実習後は援助者として、援助された者として感じたことを十分に振り返って、食事援助技術･排泄援助技術として大切にしたいことのまとめ学習をします

単元：食事援助技術	担当講師：鎌田たまみ
単元：排泄援助技術	担当講師：齊藤まどか

授業進度と内容

回数	単元	単元目標	時間	学習内容	授業形態
1	食事援助の基礎知識	人間にとって食事・栄養とは何かを理解する	2	1.食事・栄養の意義 ・グループワークで自分たちにとって食事・栄養の意義を身体的、精神的、社会的側面から考えてみます 1)身体的（生理的）な意味 2)精神的な意味　3)社会的な意味	講義 共同学習 発表

回数	単元	単元目標	時間	学習内容	授業形態
				2. 飲食の基本的欲求が充足された状態 1)ヘンダーソンの基本的欲求 2)マズローの欲求の階層でとらえる基本的欲求 3)「適切に飲食できる」という基本的欲求が充足された状態とは ・基本的欲求の充足状態「必要な栄養がとれている」「楽しく食べられ満足感がある」が成立する条件を事前課題の活用により考えてみます ※ワークシート「栄養・食事に関するアセスメント」配布	
2		栄養・食事に関するアセスメントの方法を理解する	4	1.食事・栄養摂取のしくみ 2.対象の栄養・食事に関するアセスメント ・食欲・摂食行動のアセスメント ・摂食・嚥下能力のアセスメント ・栄養状態のアセスメント ・水分・電解質バランスのアセスメント ・食事変更が必要な対象のアセスメント 1)10 分間の小テスト（10 点） 2)事前に調べ学習をしたアセスメントの視点を用いて、事例の栄養・食事に関する状態を判断してみましょう 3.医療施設で提供される食事 ※援助計画書「食事介助・口腔ケア」作成	講義 反転授業
3	食事援助の実際	安全で快適な食行動が取れるよう、食事援助の基礎知識を学ぶ	2	1.援助の基礎知識 1)食事摂取の介助 2)食欲不振の対象の援助 3)視覚障害のある対象の援助 4)体位･体動制限のある対象の援助	講義 ＤＶＤ視聴 「食事介助」
4		食事介助・口腔ケアの具体的方法を習得する 対象を尊重した食事援助技術の実践が考えられる	2	2. 援助の実際 1)学内実習 「患者の状態に応じた食事介助と口腔ケア」 ファーラー位での食事介助(経口摂取の援助)と口腔ケア（歯みがき・含嗽）の実施 (1)エキスパートグループでの学習	ジグソー学習

回数	単元	単元目標	時間	学習内容	授業形態
				エキスパートA：経口摂取の援助 エキスパートB：口腔ケア エキスパートグループ代表者による デモンストレーション (2)他者に食べさせてもらう体験を通して、援助を受ける対象を身体的・精神的側面から考える	
5 6			4	(3)ホームグループでの学習 教員によるデモンストレーション (4)技術評価 3.学内実習後の振り返り・まとめ（ｸﾞﾙｰﾌﾟﾜｰｸﾃﾞｨｽｶｯｼｮﾝ）援助者・模擬患者役からの学びからリフレクションをします ・看護師として大切にしていきたいことを話し合います	協同学習 発表 事後課題 提示
7	非経口的栄養摂取の援助	経口的に栄養摂取が行いにくい場合の基礎知識を学ぶ 非経口栄養摂取の概略について理解する	2	1.摂食・嚥下障害のある対象への援助 1)摂食・嚥下のメカニズム 2)摂食・嚥下訓練援助の基礎知識 2.非経口的栄養摂取方法 1)経管栄養 援助の基礎知識(種類と留意点) 2)中心静脈栄養 援助の基礎知識(種類と留意点)	講義 DVD 視聴 「経管栄養」

事前課題

1．ﾌﾛｰﾚﾝｽ･ﾅｲﾁﾝｹﾞｰﾙ　看護覚え書　「六章 食事」「七章 食事の選択」 を読み、看護の対象である病人の何を注意深く観察するのか、食べられるよう看護師はどのようなことに創意工夫に努めなければいけないか、理解したことをまとめましょう。

2．ｳﾞｧｰｼﾞﾆｱ・ﾍﾝﾀﾞｰｿﾝ　看護の基本となるもの「２.患者の飲食を助ける」を読み、「食べさせてもらうこと」「食べさせること」の中にどのような心理的要因があるのか、理解したことをまとめましょう。

3．身体的・精神的・社会的側面から見た食事の意義・必要性を、あなたの体験をもとに述べてください。

提出期日　以上の 1~3 の内容を A4 用紙にまとめ提出する。講義開始 3 日前　朝 9:00　まで

事後課題　1．学内実習後のリフレクションにおいて、対象への配慮･尊重がどのような行動になるとよいか考え、今後の自己の課題を行動目標で明記してください。

提出期日　実習終了 2 日後　朝 9:00

回数	単元	単元目標	時間	学習内容	授業形態
8 9	自然排尿および自然排便の基礎知識	排泄の意義を理解する 排泄のメカニズムが理解できる 状態に応じた援助を決定するためのｱｾｽﾒﾝﾄの方法を理解する	4	1.自然排尿および自然排便の基礎知識 1)排泄の意義（身体･心理･社会的な意味） 2.排泄に影響を及ぼす要因 3.事前課題を持ち寄りグループワーク 基本的欲求が充足した状態 「排泄行動を実行できる能力とはどのような条件が必要か」自分自身の排泄行動から考える 4. 排泄器官の機能と排泄メカニズム 1)排尿　　2)排便 5.観察とｱｾｽﾒﾝﾄ(基本的欲求の未充足状態 正常な排泄を阻害する要因） 1)排尿のｱｾｽﾒﾝﾄ　2)排便のｱｾｽﾒﾝﾄ 3)移動動作のｱｾｽﾒﾝﾄ　4)心理･社会的状態のｱｾｽﾒﾝﾄ 6.ワークシート配布	講義 共同学習 発表 講義
10	排泄援助の実際	自然排尿・排便援助の基礎的知識を学ぶ 排泄介助の具体的方法を習得する 対象の尊厳を保った援助技術の実践が考えられる	2	1.自然排尿および自然排便援助の基礎知識 1）10 分間の小テスト （単位修得認定試験：5 点分） 2)ﾎﾟｰﾀﾌﾞﾙﾄｲﾚ・ﾄｲﾚでの排泄援助 3)床上排泄援助 4)おむつを用いた排泄援助	講義 反転授業 DVD 視聴 「排尿・排便の援助」
11 12			4	1.ジグソー学習・タスクトレーニング 1）専門家育成 （1）尿器（男性用・女性用） （2）便器（差込み・洋式） 2）チーム練習 （1）看護技術カードに基づいた技術練習	学内実習 ジグソー学習
13 14			4	2.援助の実際：床上での排泄援助 1)ベッド上での排尿･排泄の手順と留意点 2)排泄状況のｱｾｽﾒﾝﾄ 3.学内実習後の振り返り・まとめ （1）グループリフレクション 援助者･模擬患者体験からの学び	学内実習 共同学習 発表

回数	単元	単元目標	時間	学習内容	授業形態
15	排泄を促す援助	排便を促す援助の基礎知識を学ぶ 導尿についての概要を知る ストーマケアについての概要を知る	2	1. 排便を促す援助の基礎知識 1）10分間の小テスト （単位修得認定試験：5点分） 2)便秘のｱｾｽﾒﾝﾄと看護ケア 3)浣腸の適応･留意点 4)摘便の適応･留意点 2.導尿 1)一時的導尿の適応･留意点 2)持続的導尿の適応･留意点 3.ストーマケア 1)援助の基礎知識 2)援助の実際	講義 反転授業 ＤＶＤ視聴「浣腸・摘便」 ＤＶＤ視聴「導尿・膀胱留置カテーテル」
単位修得認定試験			1	筆記試験	

事前課題　1．フローレンス･ナイチンゲール著　看護覚え書きの［Ⅰ　換気と加温］を読み、看護師として排泄物を取り扱う時の注意点とは何かを考え記述してください。

2．ヴァージニア・ヘンダーソン　「3．患者の排泄を助ける」を読み、正常な排泄ができる要因を解釈し自分の言葉で文章にまとめ記述してください。

3．ベッドに寝ていて、便意を感じトイレまで行き、排泄を済ませ再びベッドに戻るまでの経過をできるだけ詳細に抽出してください。行動レベルでどのような能力を使用しているのか、どのようなことを考えて行動しているのかをひとつとも行動がもれないよう順序だてて記述してください。

（排泄行動が自立で行われるためには、排泄に必要な動作を不足なく書き出す）排泄行動を実行できる能力を自分自身の排泄行動から確認します。

講義開始３日前の朝９時までに1～3の内容をＡ４用紙にまとめ提出

事後課題　1．学内実習後のﾘﾌﾚｸｼｮﾝから、対象への配慮や尊厳を保つための援助方法がどのような行動になるとよいか記載されている。また今後の自己の課題を行動目標で明記しているかを評確認します。

実習終了２日後に提出

科目名	単位	時間数	講義時期	講師　(○＝実務経験者)
生活援助技術Ⅱ	1	３０	１年　前期	浦島愛佳(○)坂本容子(○)

科目目的　：人間にとっての環境・活動・休息・睡眠の意義を理解し、対象が健康生活を送るために必要な知識・技術・態度を身につける

科目目標　：　１．環境・活動・休息・睡眠の意義を理解する
２．環境・活動・休息・睡眠のニーズのアセスメント方法を理解する
３．環境・活動・休息・睡眠に対する援助技術を習得する

教科書　：系統看護学講座　専門分野　基礎看護技術Ⅰ　基礎看護学２　医学書院
系統看護学講座　専門分野　基礎看護技術Ⅱ　基礎看護学３　医学書院
フロレンス・ナイティンゲール　看護覚え書き　日本看護協会出版社
看護の基本となるもの　V.ヘンダーソン　日本看護協会出版社
看護技術プラクティス　第４版　学研

参考文献　：新体系　看護学全書　基礎看護学③　基礎看護技術Ⅱ　メヂカルフレンド社

評価方法　：　筆記試験（浦島６０％、小テスト２０％）（坂本２０％）

評価認定　：　優（８０点以上）、良（７０～７９点）、可（６０～６９点）、不可（６０点未満）の４段階評価とする

授業の進め方　：１．事前課題に取り組んでいることを前提とし授業を行います
２．授業は事前課題→講義→学内実習→実習の振り返り（リフレクション）→事後課題の流れで進めていきます
３．授業では参考資料も活用しながら学習内容の充実を図ります
４．コミュニケーション能力の向上と視野を広げるために、グループワークを取り入れていきます。積極的に参加しましょう
５．学内実習は実際の場面を想定して行い、看護を目指すものとしての自覚と責任を持ち、技術の向上を目指して主体的に臨みましょう
６．レポートの内容については、授業で各自の意見を求めながら進めます

単元：　環境・活動	担当講師：　浦島愛佳
単元：　休息・睡眠	担当講師：　坂本容子

授業進度と内容（環境）

回数	単元	単元目標	時間	学習内容	授業形態
1	環境	療養生活環境を整える意義を理解する 病室の環境のアセスメントと調整について理解する	2	1.療養生活の環境 1）人と環境 2）療養生活と環境 3）生活環境の調整 2. 病室の環境のアセスメント 1）病室・病床の選択 2）温度・湿度 3）光・音 4）色彩	講義 体験学習

回数	単元	単元目標	時間	学習内容	授業形態
				5）空気の清浄性と臭い 6）人的環境 （体験学習）　校内環境調査	
2		療養環境を整えるための援助技術を習得する	2	1．小テスト 2．事前学習課題の確認 3．学内実習方法の説明 実施項目:ベッドメーキング	講義 DVD 視聴
3 4 5 6			8	1．ジグソー学習・タスクトレーニング 1）専門家育成 (1) リネンの準備・置き方・広げ方 (2) 三角コーナー (3) 四角コーナー 2）チーム練習 (1) 援助計画書に基づいた技術練習	学内実習 ジグソー 学習
7			2	1，技術評価	学内実習
8			2	1．全体のまとめ 1）グループリフレクション	共同学習
9	活動	活動の意義について理解する 活動の基礎知識を理解する	2	1．基本的活動・運動の意義とメカニズム 1）人間と活動・運動 2）よい姿勢、日常生活動作 3）ボディメカニクス 2．体位の種類と身体への影響 3．同一体位の有害性 4．活動のアセスメント 1)運動のアセスメント (1)体位・動作の観察 (2)関節可動域の評価 (3)ADL の評価 2)廃用症候群 5．学内実習方法の説明 実施項目：倦怠感のある患者の体位変換	講義
10		活動をアセスメントし適切な援助方法を理解する	2	1．小テスト 2．事前学習課題の確認 1）体位変換・体位保持・移動・移乗・移送の援助の基礎知識 2）看護技術カードの修正・追加	講義 協同学習
11			2	1．ジグソー学習 1）専門家の育成 (1) 仰臥位→水平移動→側臥位	学内実習 ジグソー 学習

回数	単元	単元目標	時間	学習内容	授業形態
				(2) 仰臥位→端座位→仰臥位 (3) 端座位→車椅子→端座位 (4) 車椅子・ストレッチャー 2) チーム練習 2. 事例に基づいたシミュレーションの実施 1) デモンストレーション 2) デブリーフィング	
12			2	技術評価	学内実習
13			2	1．全体のまとめ 1) グループリフレクション	協同学習
14	休息・睡眠	休息の意義について理解する 休息・睡眠の基礎知識を理解する 休息・睡眠のアセスメントし適切な援助方法を理解する	2	1. 休息の意義と睡眠の意義とメカニズム 2. 休息・睡眠のアセスメント 1)活動内容と量・休息のとり方 2)睡眠パターン 3)睡眠障害 3. 休息・睡眠の援助 1)リラクセーション 4. 学内実習方法の説明 実施項目：冷罨法・温罨法	講義
15		安楽を促進する看護技術を習得する	2	1. ジグソー学習・タスクトレーニング 1) 専門家育成 (1) 冷罨法 (2) 温罨法 2) チーム練習 (1) 援助計画書に基づいた技術練習	学内実習 ジグソー学習

事前学習	＜環境＞ 1. ナイティンゲールが述べている「環境」に関連する各項目（Ⅰ・Ⅱ・Ⅳ・Ⅴ・Ⅷ・Ⅸ・Ⅹ）を読み、それぞれの望ましい環境のあり方について理解した内容をワークシートに整理する 2. ベッドメーキングに関する基礎知識（ワークシート） 3. DVD 視聴 4. 援助計画書の根拠・留意点調べ <活動＞ 1．V.ヘンダーソン「看護の基本となるもの」の中の基本的看護の構成要素４・５の部分を読み、看護師は何をみて、どんな援助していけばよいと述べているのか熟読し、ワークシートに整理する。 2.体位変換・移動・移乗に関する基礎知識（ワークシート） 3. 教科書・看護プラクティスの動画視聴による手順・留意点の確認

	4. 看護技術カードの作成 ＜休息・睡眠＞ 1. 冷罨法・温罨法に関する基礎知識（ワークシート） 2. 教科書・看護プラクティスの動画視聴による手順・留意点の確認 3. 援助計画書の根拠・留意点調べ
事後学習	リフレクションシートの記載

科目名	単位	時間数	講義時期	講師（○=実務経験者）
看護展開技術	1	３０	１年　後期	齊藤まどか（○）

科目目的　：対象の健康上の課題や生活上のニーズを明らかにし、課題解決に向けて看護を科学的・論理的に実践するために必要な看護過程の基礎的知識を学ぶ

目標　：１．看護実践における看護過程展開の意義・目的を理解する
２．看護過程の構成要素とそのプロセス（方法）を理解する
３．ヘンダーソン看護論の定義・概念を理解する
４．ヘンダーソン看護論に基づき対象の健康上の課題や生活上のニーズを明らかにし、課題を解決するために必要な思考過程を展開する

教科書　：系統看護学講座　専門分野　　基礎看護技術Ｉ　基礎看護学２　　医学書院
看護の基本となるもの　V.ヘンダーソン著　湯槙ます他訳　日本看護協会出版社
秋葉公子著　看護過程を使ったヘンダーソン看護論の実践（第４版）ヌーベルヒロカワ

参考文献：ヘンダーソンの看護観に基づく看護過程　　焼山和憲　　日総研
看護アセスメント力鍛え方＆教え方　内田陽子　日総研
わかりやすい看護過程　黒田裕子　照林社
看護がみえる vol４　看護過程の展開　メディックメディア

評価方法　：　筆記試験６０点　課題学習４０点

評価認定　：　優（８０点以上）、良(７０～７９点)、可(６０～６９点)、不可（６０点未満）の４段階評価とする

授業の進め方：１．事前課題に取り組んでいることを前提とし授業を行います
２．予習・復習には上記の教科書・参考書に限らず、関連図書・資料を活用しましょう
３．看護学概論・共通援助技術・生活援助技術で学習した「ヘンダーソン」に関する学習内容をポートフォリオにして活用していきます
４．看護実践の要となる看護の思考過程を、紙上事例を用いて解説しながら段階的に学んでいく授業になりますので、体調を整えて欠席しないようにしましょう
５．協同学習・グループワークを通して不明な点については積極的・主体的に質問し、自身の課題解決に取り組んで下さい。

授業進度と内容

回数	単　元	単元目標	時間	学習内容	授業形態
1～4	看護過程の概念･構成要素･プロセス	看護過程の意義・目的を理解する 看護実践における看護過程の位置づけを理解する 看護過程と看護理論の関係性を理解する アセスメントの意義・目的を理解する 情報収集の方法を理解する	4	1.看護過程とは 1)看護過程の意義・目的 2)看護過程の基盤となる考え方 (1) 問題解決過程 (2) クリティカルシンキング (3) 看護理論の活用 (4) 倫理的配慮と価値判断 2.看護過程の６つの構成要素 1)アセスメント (1) アセスメントの定義・目的 (2) 情報収集の方法 ①アセスメントの枠組み ②情報源 ③情報収集の方法・手段	講義

回数	単　元	単元目標	時間	学習内容	授業形態
		情報の分析方法を理解する		④情報収集の時期 ⑤情報の種類・分類 (3) 情報分析の方法 ①分析　②推測　③解釈 ④判断　⑤選択　⑥統合 3. 看護過程展開に必要な学習ノートの作成 a.発達段階･発達課題 b.疾患に関する解剖生理･病態生理 c.変形性膝関節症･人工膝関節全置換術の看護 d.回復期の看護	講義
		全体像（関連図）を把握する必要性と方法を理解する	2	2.看護過程の 6 つの構成要素 2)全体像の把握（関連図）	講義
		看護課題を明確にする必要性と方法を理解する 優先順位決定の方法を理解する 看護計画を立案する必要性と方法を理解する 実施・評価の視点とプロセスを理解する	2	3)看護課題の明確化（看護診断） (1) 看護診断の定義・目的 (2) 看護診断ラベル（NANDA-Ⅰ） (3) 看護課題の種類 ①看護が取り扱う課題 ②共同問題 ③顕在的課題と潜在的課題 ④ウエルネス型の看護課題 (4) 看護課題の表記方法 (5) 優先順位の決定方法 4)看護計画立案 (1) 計画立案の定義・目的 (2) 目標の設定 ①目標の表記方法 ②RUMBA の法則 (3) 看護介入方法（具体策） ①O-P、T-P、E-P ②5W1H (4) クリティカルパス 5)実施 (1) 実施の定義・目的 (2) 実施に必要な技術 (3) 実施のプロセス (4) 記録の方法 6) 評価 (1) 評価の定義・目的 (2) 評価のプロセス・視点・方法	講義

回数	単　元	単元目標	時間	学習内容	授業形態
5～ 15	ヘンダーソン看護論に基づく看護過程の展開	ヘンダーソン看護論の主要概念を理解する 基本的看護の構成要素(14 項目)について、その内容と意味を理解する 基本的欲求に影響する常在条件とは何か理解する 基本的欲求を変容させる病理的状態とは何か理解する 基本的欲求の充足・未充足を判断する 3 側面（体力・意思力・知識）とは何か理解する 基本的欲求の視点で一連の看護過程が展開されていることを理解する 回復期にある対象に必要な看護を看護過程の展開を通して考えることができる	2	1. ヘンダーソン看護論の概念枠組み 1）人間　2）環境　3)健康　4)看護 2. ヘンダーソンによる看護の目的 3. 基本的看護の構成要素 14 項目 1）基本的欲求の充足した状態 2）基本的欲求の未充足状態 3）アセスメントの視点	講義 ワーク シート
			4	4. ヘンダーソン看護論に基づく看護過程展開の実際 1）事例紹介 経過別：人工膝関節全置換術の回復期 事例：変形性膝関節症（50 歳代・女性） 2）看護過程展開に必要な事前課題学習 3）アセスメント （1）情報収集と情報整理 ①常在条件 ②病理的状態 ③基本的看護の構成要素（14 項目） ・主観的データ（S 情報） ・客観的データ（O 情報） ・アセスメントガイドの活用	講義 ワーク シート
			4	（2）情報の分析・解釈 ①充足・未充足の判断 ②未充足の原因・誘因の明確化 ・体力・意思力・意識の 3 側面に視点を置いたアセスメント	講義 ワーク シート
			4	4）全体像（関連図） 関連図の作成	講義 グループ ワーク
			2	5）看護課題の明確化 6）優先順位の決定	講義 ワーク シート
			4	7）看護計画の立案 ①目標の設定 ・看護目標 ・期待される結果 ②具体策の立案 8）実施と記録 ①実施のプロセス ②記録の方法	講義 ワーク シート 協同学習

回数	単　元	単元目標	時間	学習内容	授業形態
			2	6）評価 ①評価のプロセス・視点・方法	講義
単位修得認定試験			1	筆記試験・課題学習で評価する	

＜事前・事後課題＞　その都度提示しますので期限までに個人学習を行う

科目名	単位	時間数	講義時期	講師(○＝実務経験者)
地域・在宅看護論演習	1	１５	1年　前期	櫻井美奈子(○)

科目目的　：地域で暮らす人々の生活環境を知り、生活環境が健康に与える影響を理解する

目標　：１．既存資料から情報を収集し、地域特性を把握できる

２．地域調査を通して、生活の場としての地域を理解できる

３．地域特性と地域調査結果から、環境が生活および健康に与える影響を考察できる

教科書　：　系統看護学講座　専門分野　地域・在宅看護論 1 地域・在宅看護の基盤　医学書院

参考文献　：　医歯薬出版株式会社　地域保健福祉活動のための地域看護アセスメントガイド第 2 版

評価方法　：　ポートフォリオ評価（事前課題 40%、発表資料 20%、事後レポート 20%、学習姿勢 20%）

評価認定　：　優（８０点以上)、良(７０～７９点)、可(６０～６９点)、不可（６０点未満）の４段階評価とする

授業の進め方：１．事前課題への取り組みを前提として演習をすすめます

２．皆さんも地域で暮らす生活者の一人です。地域の環境から生活や健康にどのような影響を受けているのかを考えてみましょう。

３．コミュニケーション能力の向上と視野を広げるために、小集団学習（グループワーク）を取り入れていきますので、積極的に参加しましょう。

授業進度と内容

回数	単　元	単元目標	時間	学習内容	授業形態
1 2 3 4 5 6	フィールドワーク	既存資料から情報を収集し、地域特性を把握できる 地域調査を通して、生活の場としての地域を理解できる	11	1. 既存資料からの情報収集 地域診断モデル「コミュニティ・アズ・パートナーモデル」の地域アセスメント項目にそった情報の収集と整理 2. 地域調査 1）学校周辺の地区踏査・地区視診 ・地域アセスメント項目を意識した地域の調査 ・人々が生活している住居や街並み、暮らしぶりなどを実際に観察する 2）住民インタビュー ３．調査結果の考察	演習 個人学習 小集団学習
7 8	地域環境と健康	地域環境が生活および健康に与える影響を考察できる	4	１．調査結果と学習成果の発表	演習 一斉学習
単位修得認定試験			1	ポートフォリオ評価	

＜事前課題＞

１．地域診断モデル「コミュニティ・アズ・パートナーモデル」の８つの地域アセスメント項目にそって「学校周辺地域に何があるか・どのような状況か」を提示された既存資料から収集し整理をしましょう。

提出期日　フィールドワークの２日前　9:00　時間厳守

＜事後課題＞

１．フィールドワークおよび全体発表の内容をふまえて、地域環境が生活および健康に与える影響について考えたことをレポートにまとめて提出してください。

テーマ　地域環境が生活および健康に与える影響について

提出期日　全体発表の１週間後　9:00　時間厳守

科目名	単位	時間数	講義時期	講師（○＝実務経験者）
地域・在宅看護論総論Ⅰ	1	１５	１年　前期	櫻井美奈子(○)

科目目的　：地域・在宅看護論が対象とする個人・家族の特徴を理解し、地域での暮らしを支える多様な看護提供の場を理解する

目標　：１．地域・在宅看護論の対象とその特徴を理解する
２．人々が暮らす生活の場としての地域を理解する
３．地域における看護提供の場を理解する

教科書　：系統看護学講座　専門分野　地域・在宅看護論１ 地域・在宅看護の基盤　医学書院

参考文献　：家族看護を基盤とした地域・在宅看護論　第５版　日本看護協会出版

評価方法　：　筆記試験１００％

評価認定　：　優（８０点以上)、良(７０～７９点)、可(６０～６９点)、不可（６０点未満）の４段階評価とする

授業の進め方：１．事前課題に取り組んでいることを前提とし授業を行います
２．授業では参考資料も活用しながら学習内容の充実を図ります
３．コミュニケーション能力の向上と視野を広げるために、グループワークを取り入れていきますので、積極的に参加しましょう

授業進度と内容

回数	単　元	単元目標	時間	学習内容	授業形態
1 2 3	地域で暮らす人々と看護	地域で展開する看護が必要とされる背景を理解する 地域・在宅看護論の対象を理解する 地域を人々の健康に影響を与える生活環境として理解する	6	１．地域で展開する看護を必要とする背景 ・人口構造の変化 ・療養の場の拡大 ・地域包括ケア ２．地域・在宅看護論の対象 ・地域に暮らす全ての人々（様々な健康状態、様々な発達段階） ・多様性をもつ個人・家族（文化、慣習、健康観、価値観、生きる力） ３．生活の場としての地域 ・健康に影響を与える生活環境 ・資源としての地域	講義 小集団学習

回数	単　元	単元目標	時間	学習内容	授業形態
4 5 6 7 8	地域における看護提供の場	人々の健康状態の変化に応じた生活の場の変化と地域での暮らしと健康を支える看護提供の場を理解する	9	1．地域包括ケアシステムと看護の役割 ・人々の健康状態の変化に応じた生活の場の変化を通して、自助・互助（地域のケア資源)・公助・共助を理解する ２．看護が提供される多様な場 医療機関 行政機関 学校 職場 訪問看護事業所 介護保険事業所・介護保険施設	講義
単位修得認定試験			1	筆記試験	

（事前課題）

1．地域・在宅看護論演習の学習を活用しながら以下に取り組みましょう。

1）人々が生活する地域は、健康に影響を与えるほかに生活するうえで重要な資源ともなります。以下のテーマで自分の考えをレポートにまとめてください。考える際には、地域・在宅看護論演習での学習内容や自分の体験をもとにしてみましょう。

レポートテーマ

「　地域が健康に影響を与えるのはなぜか、生活する上で地域が資源となるのはなぜか　」

提出期限　１回目の講義日　9:00

2）4回目の講義までに、地域・在宅看護論演習で行った情報収集や地域調査結果をもとに看護活動が行われている場を確認し、ノートに書き出しておきましょう。

科目名	単位	時間数	講義時期	講師(○＝実務経験者)
国語表現法	1	１５	１年後期	福田信一(○)

科目のねらい

正しい日本語の理解と文章表現を学び論理的思考の基礎を身につけ、すべての学科の基礎となる国語力、国語表現力を養う

教科書　：　その都度資料配布

参考文献　：　都度紹介

評価方法　：　筆記試験 100%

評価認定単：　優(80 点以上)、良(70～79 点)、可(60～69 点)、不可(60 点未満)の 4 段階評価とする

授業の進め方

講義形式で講義テーマについて学習した後、演習形式で実際にグループ等を活用して練習を行います

講義の中でレポートを課すこともあります　　筆記試験で評価します

授業進度と内容

回数	単　元	時間	学習内容	授業形態
1	日本語とは①②	2	日本語と国語	講義・演習
2	日本語とは③④	2	日本語と国語	講義・演習
3	日本語と位相①②	2	話し言葉と書き言葉	講義・演習
4	日本語の位相③④	2	日本語の語彙	講義・演習
5	表現の実践①②	2	小論文・論文・レポート・報告書の実践・演習	講義・演習
6	表現の実践③④	2	レポートの実践	講義・演習
7	表現の応用①②	2	文章づくり	講義・演習
8	表現の応用③	1	文章づくり	講義・演習
単位修得認定試験		1	筆記試験	

科目名	単位	時間数	講義時期	講師(○＝実務経験者)
文化人類学	1	３０	１学年後期	菊地　達夫(○)

科目のねらい

● 文化人類学の概要、主たる研究方法について理解できる
● 環境・地域・社会との文化的多様性のあり方について理解できる
● 文化人類学を通じた個人と文化の関係性について理解できる
● 観光と文化の関係性（観光人類学の内容）について理解できる

本科目では、具体的事例としてアイヌ民族・文化の内容を多用する

教科書　：　使用しない（必要に応じて、資料を配付する）
参考文献　：　波平恵美子編『文化人類学』医学書院
E.A.シュルツ／R.H.ラヴェンダ『文化人類学Ⅰ・Ⅱ』古今書院
山下晋司編『観光人類学』新曜社

評価方法　：　最終試験（50%）、作業課題の内容（30%）、受講態度・参加意欲（20%）
評価認定　：　優(80 点以上)、良(70～79 点)、可(60～６９点)、不可(60 点未満)の４段階評価とする

授業の進め方

授業は、学習課題の提示、作業学習（問題解決型学習・グループ学習）、発表共有、解説・説明などを組み合わせてすすめる。とりわけ、配付資料からの読み取り・意見提出、学習課題に対する自分の考えといった思考判断を重視する

授業進度と内容

回数	単　元	単元目標	時間	学習内容	授業形態
1	オリエンテーション	科目の到達目標、授業展開、評価方法等について理解できる	2	・到達目標の内容 ・授業内容の構成 ・評価方法の内容と割合	講義
2	文化人類学とは	文化人類学は、どのようなことを学ぶのか、理解できる	2	・文化人類学の誕生 ・文化の諸相 ・隣接分野（地理学・民俗学等）	作業 講義
3	フィールドワーク	文化人類学におけるフィールドワークの内容について理解できる	2	・フィールドワークの意義 ・フィールドワークの方法 ・フィールドワークの課題	作業 講義
4	地域環境	地域環境とりわけ自然環境と文化の関係性について理解できる	2	・自然環境が影響を与える文化形成・変化の内容	作業 講義

回数	単　元	単元目標	時間	学習内容	授業形態
5	地域社会	地域社会と文化の関係性について理解できる	2	・地域社会が影響を与える文化形成・変化の内容	作業 講義
6	社会組織	国家（社会組織）と文化の関係性について理解できる	2	・国家が影響を与える文化形成・変化の内容	作業 講義
7	生業形態	生業形態と文化の関係性について理解できる	2	・アイヌ民族の生業形態の特色	作業 講義
8	世界観	世界観と文化の関係性について理解できる	2	・アイヌ民族の世界観の特色	作業 講義
9	言語	言語と文化の関係性について理解できる	2	・アイヌ語地名の意味と地域的広がりの関係性	作業 講義
10	通過儀礼	通過儀礼と文化の関係性について理解できる	2	・国内外における通過儀礼の地域的特色	作業 講義
11	健康	健康・医療と文化の関係性について理解できる	2	・地域間比較にみる健康・医療の考え方・捉え方の差異	作業 講義
12	観光と植民地主義	植民地主義と観光文化の関係性について理解できる	2	・植民地主義がもたらす観光文化の成立・変容	作業 講義
13	観光と文化保存	観光と文化保存のあり方について理解できる	2	・アイヌ文化を活用する地域観光の具体例	作業 講義
14	持続可能な観光開発	持続可能な開発と観光のあり方について理解できる	2	・文化遺産の保存・保全と観光開発のバランス	作業 講義
15	まとめと整理	各授業の重点について理解できる	2	・各授業のキーワードの抽出 ・全体を通じての知識理解 ・他科目等への知識の応用	作業
単位修得認定試験			1	最終試験　作業課題の内容　受講態度・参加意欲	

科目名	単位	時間数	講義時期	講師（○＝実務経験者）
解剖生理学演習	1	３０	１年後期	永森克志(○) 吉田真弓(○)

科目のねらい

身体の正常な構造と機能は病気を理解する上で重要であり、またその病気が身体にどのような影響を及ぼしているかアセスメントし看護に関連付けていく必要がある。その為に臨床判断能力の基盤となる演習から学生自ら主体的に取り組み、身体を構成する各臓器の構造としくみ、人間の生命活動を営むメカニズムの理解を深める

教科書　：　専門基礎分野　人体の構造と機能１　解剖生理学　医学書院

参考文献　：　都度紹介

評価方法　：　個人ノート 30% 発表原稿・発表・教材 40% 小集団活動 30%　(評価指針を示します)

評価認定　：　優(80 点以上)、良(70～79 点)、可(60～69 点)、不可(60 点未満)の 4 段階評価とする

授業の進め方

演習は小集団学習(グループワーク)、共同学習、個別学習で行います

各自課題を理解し積極的に演習を進めてください　発表では各グループの独自性を期待します

授業進度と内容

回数	単　元	時間	学習内容	授業形態
1 ～ 11	人体の構造と機能	22	事前学習　既修の解剖生理学のノート整理 演習要項に沿ってオリエンテ-ション 1.　演習の達成目標 1)　担当した系の仕組みと働きが身体活動にどのような役割を果たしているか説明できる 2)　担当した系が正常な働きが出来るのは他の系との関連がある事を説明できる 3)　担当した系が正常な働きが果たせなくなった時、身体及び日常生活行動に及ぼす影響を説明できる 4)　上述 1)～3)の内容の発表資料が作成できる 5)　教材発表の資料、臓器モデルを作成しプレゼンテーションができる 6)　各自グループでの役割遂行ができる 7)　グループワークに積極的に取り組み、共に学び合うことができる 8)　発表後のリフレクションから自己の課題が整理できる 9)　身体の構造と機能 1)～8)の分類を教科書・文献等を活用して個人ノートを作成し提出できる ノート作成の注意事項は別紙で説明	演習 小集団学習 (グループワーク) 共同学習 個別学習 作業学習

回数	単元	時間	学習内容	授業形態
			2. 演習課題 身体の構造と機能(テーマ) 1) 人間の消化器系の仕組みと働き 2) 人間の呼吸器系の仕組みと働き 3) 人間の循環器系における心・血管系の仕組みと働き 学習内容 4) 人間の体液の調節と腎臓の仕組みと働き 5) 人間の骨、筋肉系の仕組みと働き 6) 身体の恒常性を保つ内分泌の仕組みと働き 7) 人間の脳と神経の仕組みと働き 8) 外的刺激を感受し身体を守る免疫の仕組みと働き 3. 演習の要点 1) 1 グループ 5 人編成とし学習の方向性・発表内容と方法を相談して進める 2) 担当した系を理解するためにグループで計画的に学習・討議する 3) 初回に指定の演習計画書を作成し提出する 4) 毎回指定の演習報告書を提出する	
12 13 14 15		8	全体発表　　発表要項で詳細説明する 発表内容 1. 自分たちが担当した身体を構成する臓器の構造と仕組み、及び身体活動にどのような役割を果たしているか、資料・臓器モデルを使いプレゼンテーションする 2. 終了後リフレクション	
単位修得認定試験			評価表をもとに個人ノート、発表原稿、小集団活動、教材作成、プレゼンテーションで表する	

科目名	単位	時間数	講義時期	講師(○＝実務経験者)
人の生活と食事	1	15	1年後期	上坂　真智子(○)

科目のねらい

食事療法の意義と方法を学び、健康回復・保持・増進のための食事療法を行う際の基礎的知識・技術を養う

教科書　：　系統看護学講座　別巻　栄養食事療法　第4版　　医学書院

参考文献　：　都度紹介

評価方法　：　筆記試験（90%）、平常点（10%）平素の受講態度等を加味する。

評価認定：優(80点以上)、良(70～79点)、可(60～69点以上)、不可(60点未満)の4段階評価とする。

授業の進め方

教科書と配布資料を中心に進める。

授業進度と内容

回数	単　元	時間	学習内容	授業形態
1	日常生活と栄養 栄養指導の過程 栄養補給法	2	1. 食習慣と栄養 2. 日本人の食事摂取基準 3. スポーツと栄養 4. 栄養指導と食事の調整及び多職種連携・協働の実際 5. 経管栄養と中心静脈栄養	講義
2	特定保健指導 食事指導の実際 ・肥満 ・糖尿病	2	1. メタボリックシンドローム 2. 特定保健指導 3. 肥満のある患者 4. 糖尿病のある患者	講義
3	食事指導の実際 ・高血圧 ・脂質異常症 ・痛風	2	1. 高血圧のある患者 2. 脂質異常症 3. 痛風のある患者	講義
4	食事指導の実際 ・虚血性心疾患 ・脳卒中 ・COPD（慢性閉塞性肺疾患）	2	1. 虚血性心疾患のある患者 2. 脳卒中のある患者 3. COPD（慢性閉塞性肺疾患）のある患者	講義
5	食事指導の実際 ・肝炎、肝硬変 ・膵炎、胆石症	2	1. 肝炎、肝硬変のある患者 2. 膵炎、胆石症のある患者	講義

回数	単　元	時間	学習内容	授業形態
6	食事指導の実際 ・CKD（慢性腎臓病） ・潰瘍性大腸炎、クローン病 ・胃切除術後	2	1.　CKD（慢性腎臓病）のある患者 2.　潰瘍性大腸炎、クローン病のある患者 3.　胃切除術後（周術期）の患者	講義
7	食事指導の実際 ・摂食・嚥下障害、褥瘡 ・貧血 ・骨粗鬆症 ・食物アレルギー	2	1.　摂食・嚥下障害のある患者 2.　褥瘡のある患者 3.　貧血のある患者 4.　骨粗鬆症のある患者 5.　食物アレルギーのある患者	講義
8	講義のまとめ	1	まとめ	講義
	単位修得認定試験	1	筆記試験	

科目名	単位	時間数	講義時期	講師(○=実務経験者)
チーム医療論	1	15	1年後期	土畠智幸(○) 松木由理(○)

科目のねらい
看護の対象となる人々の暮らしと健康を支援していくためには医師をはじめとする他職種のスタッフが協働、連携するチームとして、それぞれ専門性を発揮しながら支援にあたる必要がある
その事から他職種の役割と連携、協働の実際を学びチーム医療の果たす役割を理解する

教科書　：　系統看護学講座　専門分野　基礎看護学1　看護概論　看護管理
参考文献　：　都度紹介

評価方法　：　レポート課題（25点×4回）
評価認定：優(80点以上)、良(70～79点)、可(60～69点以上)、不可(60点未満)の4段階評価とする。

授業の進め方　90分×2コマを4回実施する。各回のテーマに基づき、小集団でケースディスカッションを行った後、全体で振り返る。

授業進度と内容

回数	単　元	時間	学習内容	授業形態
1 ～2	地域包括ケアと共生社会 病院から在宅へ ケース①　気管切開 24 時間人工呼吸器の子どもの退院支援／在宅移行	3	1．地域包括ケアと共生社会 2．病院の医療職と地域の医療職の違い 3．福祉との連携 4．連携と協働の違い	講義 小集団学習
3 ～4	在宅から保育・教育へ ケース② 気管切開･経管栄養の子どもの保育所入所	3	1．医療的ケア児の保育所での受け入れ 2．保育職員との協働 3．医療的ケア児の就学	講義 小集団学習
4 ～5	地域での自立へ ケース③ 気管切開24時間人工呼吸器当事者の自立生活開始	3	1．移行支援 2．自立生活への移行支援 3．「支援という名の支配」と「当事者中心」の考え方	講義 小集団学習
5 ～6	家族の意思決定支援 ケース④ 重症心身障害児、気管切開をするかしないかの意思決定	3	1．重症心身障害児 2．代理意思決定の支援 3．家族の思いの理解 4．エンドオブライフ・ケア	講義 小集団学習
7 ～8	レポート作成（4 つのケーススタディそれぞれについて作成）	3	1．多職種の視点の違い 2．「支援」のあり方 3．対話を通した自己覚知 4．メタ視点・批判的思考・複眼的視角をふまえた記述の方法	レポート執筆
単位認定修得試験			レポート評価	

科目名	単位	時間数	講義時期	講師　(○＝実務経験者)
リハビリテーション	1	15	1年後期	冨樫英則　(○)

科目のねらい
リハビリテーションの意義と方法について学び、身体や精神の機能回復に向けて援助する際の基礎的知識、技術を身につける

教科書　：　系統看護学講座　別巻　リハビリテーション看護　医学書院
参考文献　：　都度紹介

評価方法　：　筆記試験 100%
評価認定　：　優(80 点以上)、良(70～79 点)、可(60～69 点)、不可(60 点未満)の 4 段階評価とする

授業の進め方
各看護学に活用できる内容として講義をします
介助演習もします

授業進度と内容

回数	単　元	時間	学習内容	授業形態
1	リハビリテーションの定義と概念	2	1. リハビリテーションの定義と理念 2. リハビリテーションの対象と制度	講義
	疾病・障がい・生活機能の分類		1. 障害者の分類と構造 国際疾病分類(ICD) 国際障害分類(ICIDH) 国際生活機能分類(ICF) 客観的障害と主観的障害	
2	リハビリテーションの分類	2	1. 医学的リハビリテーション 2. 教育的リハビリテーション 3. 職業的リハビリテーション 4. 社会的リハビリテーション	講義
	リハビリテーション医療の提供		1. リハビリテーション医療システムとチーム医療 連携職種　他職種連携のあり方	
3	運動器系の障害とリハビリテーション	2	1. 廃用症候群を防ぐには 2. 積極的リハビリテーションプログラム 3. 運動の種類	講義 プレゼンテーション
4	検査手技	2	1. 筋萎縮の比較　2.MMT 3.筋肉増強の 3 大条件 4.アンダ-ソン改定基準 5.関節可動域　6.ＡＤＬ評価	講義

回数	単　元	時間	学習内容	授業形態
5	中枢神経系の障害と リハビリテーション	2	1.　中枢神経系麻痺の診方 2.　嚥下・言語障害のリハビリテーション	講義
6	呼吸・循環器系と リハビリテーション	2	1.　虚血性心疾患患者のリハビリテーション 2.　慢性閉塞性肺疾患のリハビリテーション	講義
7	トランスファーの 介助演習	3	1.　車椅子からベット　ベットから車椅子 2.　他動的関節可動域運動	演習 (実技)
単位修得認定試験		1	筆記試験	

科目名	単位	時間数	講義時期	講師(○＝実務経験者)
公衆衛生学	1	15	1年後期	都　築　俊　文(○)

科目のねらい
公衆衛生活動の特徴は、主に特定の人間集団を対象とするものであり、その目的は疾病 4 の予防のみならず、健康の維持・増進を図ることにある　このような特徴を理解するとともに、公衆衛生活動を展開するための基礎知識を身につける

教科書　：　系統看護学講座　専門基礎　健康支援と社会保障制度 2　公衆衛生　医学書院
参考文献　：　都度紹介

評価方法　：　筆記試験 100%
評価認定　：優(80 点以上)、良(70～79 点)、可(60～69 点)、不可(60 点未満)の 4 段階評価とする

授業の進め方
テキスト及びその都度配布する資料中心に進めます

授業進度と内容

回数	単　元	時間	学習内容	授業形態
1	公衆衛生とは	2	公衆衛生の特徴、公衆衛生と健康	講義
	プライマリーヘルスケア		義務としての健康から権利として	講義
2	健康と環境(1)	2	地球環境問題(地球環境問題、水・空気・土壌)	講義
	健康と環境(2)		食品管理・家庭用品、ごみ・廃棄物など	講義
3	疫学と健康指標	2	健康と病気の違い、健康指標	講義
	ヘルスプロモーション(HP)		新しい公衆衛生学としての HP	講義
4	社会保障制度	2	体制と制度、必要性など	講義
	医療保険、介護保険制度		その概要、少子高齢化との関係	講義
5	公衆衛生と国際協力	2	グロ-バル化する公衆衛生	講義
	地域保健		保健所と地域保健センターの役割	講義
6	対象別公衆衛生(1)	2	母子保健、成人保健、老人保健	講義
	対象別公衆衛生(2)		精神保健、難病保健	講義
7	場面別公衆衛生	2	学校保健、産業保健、災害保険	講義
	感染症対策		予防の基礎知識、新興・再興感染症	講義
8	健康危機管理	1	危機管理の概要、公衆衛生活動との関連	講義
単位修得認定試験		1	筆記試験	

科目名	単位	時間数	講義時期	講師　(○＝実務経験者)
臨床看護総論	1	３０	１年　後期	三上麻美(○)坂本容子(○)吉田かつえ (○)

科目目的　：健康障害をもつ対象の状況に応じた看護を実践するために必要な基礎的知識を学ぶ
事例を通して健康状態にある看護の考え方を学び、看護に必要な臨床判断能力を養う

目標　：１．健康障害のある対象・家族の理解する
２．各健康レベルにある対象・家族を理解し、そのレベルに応じた看護を理解する
３．各症状別にある対象・家族を理解し、そのレベルに応じた看護を理解する
４．各治療別に応じた対象・家族を理解し、そのレベルに応じた看護を理解する

教科書　：系統看護学講座　専門分野　基礎看護学４　臨床看護総論　医学書院
参考文献　：新体系　看護学全書　基礎看護学④　臨床看護総論　メヂカルフレンド社
成人看護学　リハビリテーション看護論　ＨＩＲＯＫＡＷＡ

評価方法　：　筆記試験１００％（三上　４０％　吉田　３０％　　坂本　３０％）
評価認定　：　優(８０点以上)、良(７０～７９点)、可(６０～６９点)、不可(６０点未満)の４段階評価とする

授業の進め方１．教科書、授業で配布した資料は、必ず持参してください
２．今まで学んできた学習を想起して、授業に臨んでください
３．調べ学習、グループワークがありますので、積極的に取り組んでください

単元：健康障害のある対象・家族の理解 健康レベル別看護	担当講師：三上　麻美
単元：主要症状と看護	担当講師：吉田　かつえ
単元：治療別看護	担当講師：坂本　容子

授業進度と内容

回数	単　元	単元目標	時間	学習内容	授業形態
1	健康障害のある対象･家族の理解	健康上のニーズをもつ対象・家族を理解する	2	1. 健康上のニーズを持つ対象と家族への看護 1)ライフサイクルからとらえた対象と家族の健康上のニーズ (1)人のライフスタイルからとらえた看護 ①ライフサイクルと発達段階 ②ライフサイクルと健康上のニーズおよび看護との関連 (2)子どもの理解 ①ライフサイクルからみた子どもの特徴 ②子どもの健康上のニーズ	講義

回数	単　元	単元目標	時間	学習内容	授業形態
				③健康上のニーズをもつ子どもと家族の看護 (3)成人の理解と看護 ①ライフサイクルからみた成人の特徴 ②成人の健康上のニーズ ③健康上のニーズをもつ成人と家族の看護 (4)高齢者の理解と看護 ①ライフサイクルからみた高齢者の特徴 ②高齢者の健康上のニーズ ③健康上のニーズをもつ高齢者と家族の看護 (5)親になる人の理解と看護 ①ライフサイクルからみた親になる人の特徴 ②親になる人の健康上のニーズ ③健康上のニーズをもつ親になる人と家族の看護 2. 家族の機能からとらえた対象と家族の健康上のニーズ 1)家族の理解 (1)家族とは (2)わが国の家族形態と価値観の変化 (3)家族の機能と発達課題 2)家族の健康上のニーズ (1)ユニットとしての家族のニーズ (2)健康問題を持つ人とその家族への看護 3)生活と療養の場からとらえた対象と家族の健康上のニーズ (1)生活と療養 (2)病院・施設における看護 (3)在宅における看護	講義

回数	単　元	単元目標	時間	学習内容	授業形態
2 3 4 5	健康レベル別看護	急性期における看護 急性期の特徴と対象への看護援助を理解する	2	1. 急性期の特徴 2. 急性期の患者のニーズ 3. 急性期にある患者への看護援助 4. ワークシートを用いて事例「急性心筋梗塞を患った患者とその家族」に対して必要な急性期における看護を考え講義内で発表を行う	講義 個人ワーク・グループワーク 協同学習
		慢性期における看護 慢性期の特徴と対象への看護援助を理解する	2	1. 慢性期の特徴 2. 慢性期の患者のニーズ 3. 慢性期にある患者への看護援助	講義
		回復期における看護 回復期の特徴と対象への看護援助を理解する	2	1. 回復期の特徴 2. 回復期の患者のニーズ 3. 回復期にある患者への看護援助 4. ワークシートを用いて事例「急性心筋梗塞を患った患者とその家族」に対して必要な回復期における看護を考え講義内で発表を行う	講義 個人ワーク・グループワーク 協同学習
		終末期における看護 終末期の特徴と対象への看護援助を理解する	2	1. 終末期の特徴 2. 終末期の患者のニーズ 3. 終末期にある患者への看護援助	講義
6 7 8 9 10	主要症状と看護	呼吸に関連する症状への看護 呼吸機能障害に関連する症状のメカニズムと看護を理解する	2	1. 呼吸機能障害に関連する症状のメカニズム 2. 呼吸機能障害に関連する看護上のニーズ判別のためのアセスメント 3. 呼吸機能障害関連するニーズ充足に向けた看護援助 4. 教育指導	講義
		循環に関連する症状への看護 循環機能障害に関連する症状のメカニズムと看護を理解する	2	1. 循環機能障に害関連する症状のメカニズム 2. 循環機能障害に関連する看護上のニーズ判別のためのアセスメント 3. 循環機能障害に関連するニーズ充足に向けた看護援助 4. 教育指導	講義

回数	単　元	単元目標	時間	学習内容	授業形態
		栄養・排泄に関連する症状への看護 栄養障害に関連する症状のメカニズムと看護を理解する	2	1. 栄養障害・排泄機能障害に関連する症状のメカニズム 2. 栄養障害・排泄機能障害に関連する看護上のニーズ判別のためのアセスメント 3. 栄養障害・排泄機能障害に関連するニーズ充足に向けた看護援助	講義
		認知・知覚に関連する症状への看護 認知・知覚に関連する症状のメカニズムと看護を理解する	2	1. 認知・知覚に関連する症状のメカニズム 2. 認知・知覚に関連する看護上のニーズ判別のためのアセスメント 3. 認知・感覚機能障害に関連するニーズ充足に向けた看護援助	講義
		安楽に関連する症状への看護 安楽に関連する症状のメカニズムと看護を理解する	2	1. 安楽に関連する症状のメカニズム 2. 安楽に関連する看護上のニーズ判別のためのアセスメント 3. 安楽に関連するニーズ充足に向けた看護援助	講義
11 12 13 14 15	治療別看護	安静療法の特徴と治療を受ける対象の看護について理解する	2	1. 安静療法と看護 1)安静療法とは 2)安静療法を必要とする対象とは 3)安静療法が及ぼす弊害 4)安静療法を受ける患者の看護	講義
		食事療法の特徴と治療を受ける対象の看護について理解する	2	1. 食事療法と看護 1)食事療法とは 2)食事療法を必要とする対象とは 3)食事療法が患者に及ぼす影響 4)食事療法を受ける患者の看護	講義
		薬物療法の特徴と治療を受ける対象の看護について理解する	2	1. 薬物療法と看護 1)薬物療法とは 2)薬物療法を必要とする対象とは 3)薬物療法が患者に及ぼす影響 4)薬物療法を受ける患者の看護	講義
		放射線療法の特徴と治療を受ける患者の看護について理解する	2	1. 放射線療法と看護 1)放射線療法とは 2)放射線療法に伴う有害事象 3)放射線療法を受ける対象の看護	講義

		リハビリテーションにおける看護を理解する	2	1. リハビリテーションと看護 1)リハビリテーションにおける看護の概念と目的 2) 看護の役割 3)看護活動 (1)急性期、慢性期、回復期	講義
単位修得認定試験			1	筆記試験	

事前課題	1．健康障害のある対象・家族の理解 健康レベル別看護	該当する教科書の内容を事前に読むこと １回目の講義で、「看護学概論の講義資料」を整理し持参すること
	2．主要症状と看護	該当する教科書の内容を事前に読むこと 教科書「解剖生理学」「呼吸器」「循環器」、「栄養学」「脳神経」の内容および講義資料を該当する各講義前に読むこと
	3．治療別看護	該当する教科書の内容を事前に読むこと 教科書「基礎看護技術Ⅱ」の食事援助技術、活動・休息の援助技術、「リハビリテーション看護」の内容および講義資料を該当する各講義前に読むこと

科目名	単位	時間数	講義時期	講師　(○=実務経験者)
生活援助技術Ⅲ	1	３０	１年　後期	吉田かつえ(○)　　藤原未央(○)

科目目的　：人間にとっての身体清潔の意義を理解し、看護する際に必要な基礎的知識・技術・態度を身につける

目標　：１．清潔、衣生活の意義を理解する
２．衣生活、清潔のアセスメントの方法を理解する
３．清潔の援助方法を習得する

教科書　：系統看護学講座　専門分野　　基礎看護学３　基礎看護技術Ⅱ　医学書院
看護技術プラクティス第４版 学研
看護の基本となるもの　ヴァージニア・ヘンダーソン　日本看護協会出版会

参考文献：ナーシング・グラフィカ　基礎看護学技術　基礎看護学③メディカ出版
新体系　看護学全書　　基礎看護学③

評価方法：　筆記試験　吉田５０％（筆記試験４０％　小テスト１０％）
藤原５０％（筆記試験４０％　小テスト１０％）

評価認定：優(８０点以上)、良(７０～７９点)、可(６０～６９点)、不可(６０点未満)の４段階評価とする

授業の進め方：１．事前課題を前提に授業を進めます
２．授業の中で配布された資料は、必ず持参してください
３．事前学習、講義、学内実習、リフレクションの流れで進めていきます
４．学内実習では、モデル人形や学生間の実施等を通して進めていきます
５．学内実習前には、事前学習の活用、個人ワーク、協同学習を行います
清潔技術に活かせるようにしましょう

単元：清潔の援助　清潔の意義、衣生活　寝衣交換　手浴・足浴	担当講師：吉田かつえ
単元：清潔の援助　洗髪、清拭	担当講師：藤原未央

授業進度と内容

回数	単　元	単元目標	時間	学習内容	授業形態
1	清潔の意義	清潔にすることの意義について理解する	2	１．事前課題学習内容の確認 １）体験学習の結果 （１）心地よい湯温の検証 （２）水とお湯の石鹸の泡立ち ２）ヘンダーソンポートフォリオの内容 ２．講義 １）清潔にすることの身体的・精神的・社会的な意味 ２）皮膚の構造と機能 ３）対象の状態に応じた援助の決定と留意点	講義

回数	単　元	単元目標	時間	学習内容	授業形態
2	衣生活の意義	衣生活の意義について理解する 衣生活の基礎知識を理解する 衣生活のアセスメントと適切な援助を理解する	2	衣生活 １．小テスト ２．事前課題学習内容の確認 ３．学内実習方法の説明 学内実習 （実施項目：長寝衣による寝衣交換） ４．看護技術カードの修正・追加	講義 ＤＶＤ 協同学習
3	寝衣交換	安全・安楽な寝衣交換の援助技術を習得する	2	１．教科書　看護技術「プラクティス」の動画学習 ２．タスクトレーニング 看護技術カードに基づいた技術練習 ３．技術評価	学内実習 タスクトレーニング
4	手浴・足浴	手浴・足浴の基礎知識を理解する 手浴・足浴のアセスメントと適切な援助を理解する	2	手浴・足浴 １．小テスト ２．事前課題学習内容の確認 ３．学内実習方法の説明 学内実習（実施項目：手浴・足浴） ４．看護技術カードの修正・追加 事例：８０代　肺炎の回復期ではあるが倦怠感のある対象	講義 ＤＶＤ 協同学習
5		手浴・足浴の援助技術を習得する	2	手浴・足浴 １．ジグソー学習 １）専門家育成 （１）　手浴 （２）　足浴 ２）チーム練習 ２．事例に基づいたシミュレーション実施 １）デモンストレーション ２）デブリーフィング	学内実習 ジグソー学習
6			2	１．技術評価	学内実習
7			2	１．全体のまとめ １）グループリフレクション	協同学習

回数	単　元	単元目標	時間	学習内容	授業形態
8	洗髪	洗髪の基礎知識を理解する 洗髪のアセスメントと適切な援助を理解する 洗髪の学内実習方法を理解する	2	１．小テスト ２．事前課題学習内容の確認 ３．学内実習方法の説明 学内実習（実施項目：ケリーパッド・洗髪車による洗髪） ５．看護技術カードの修正・追加 事例：８０代　肺炎の回復期ではあるが倦怠感のある対象	講義 DVD 協同学習
9		洗髪の援助技術を習得する	2	１．ジグソー学習 １）専門家育成 （１）　ケリーパッド （２）　洗髪車 ２）チーム練習 ２．事例に基づいたシミュレーション実施 １）デモンストレーション ２）デブリーフィング	学内実習 ジグソー学習
10			2	１．技術評価	学内実習
11			2	１．全体のまとめ １）グループリフレクション	協同学習
12	清拭	全身清拭の基礎知識を理解する 全身清拭のアセスメントと適切な援助を理解する	2	１．小テスト ２．事前課題学習内容の確認 ３．学内実習方法の説明 学内実習（実施項目：石鹸清拭） ４．看護技術カードの修正・追加 事例：８０代　肺炎の回復期ではあるが倦怠感のある対象	講義 ＤＶＤ 協同学習
13		全身清拭の援助技術を習得する	2	１．ジグソー学習 １）専門家育成 （１）　上肢　（２）胸部 （３）　背部　（４）下肢 ２）チーム練習 ２．事例に基づいたシミュレーション実施 １）デモンストレーション ２）デブリーフィング	学内演習 ジグソー学習
14			2	１．技術評価	学内実習
15			2	１．全体のまとめ １）グループリフレクション	協同学習
単位習得認定試験			1	筆記試験　小テスト	

事前学習	清潔の意義	1．教科書　ヘンダーソン「8. 患者が身体を清潔に保ち、身だしなみよく、また皮膚を保護するのを助ける」を読み、次の内容について整理する。 1）清潔の「心理学的意義」と「生理学的意義」 2）現在の医療情勢における、対象の「清潔」の保持方法 3）清潔の基準および看護師の役割 2．体験学習 1）心地よい湯温の検証 2）水とお湯の石鹸の泡立ち
	清潔の援助技術	1．教科書　ヘンダーソン「看護の基本となるもの」の中の「患者が衣類を選択し、着たり脱いだりするのを助ける」の部分を読んで看護師は何をみて、どんな援助していけばよいと述べているのか、熟読し、学習ノートに整理する。 2．衣生活・手浴・足浴・洗髪・清拭に関する基礎知識（ワークシート） 3．教科書の看護プラクティスの動画視聴による手順・留意点の確認 4．看護技術カードの記載
事後学習	清潔の援助技術	リフレクションシートの記載

科目名	単位	時間数	講義時期	講師　(○＝実務経験者)
フィジカルアセスメント技術	1	３０	１年後期	成田淳人(○)　藤原未央(○)

科目目的　：　ﾍﾙｽｱｾｽﾒﾝﾄに必要とされる知識・技術・態度を身につける

目標　：　１．視診、触診、打診、聴診の基本的技法を習得する

２．ﾊﾞｲﾀﾙｻｲﾝの意義、測定方法を習得し、ｱｾｽﾒﾝﾄの視点が理解できる

３．標準的な身体計測の方法を学ぶ

４．全身の系統別なﾌｨｼﾞｶﾙｲｸﾞｻﾞﾐﾈｰｼｮﾝの実際を学ぶ

教科書　：　系統看護学講座　専門分野　　基礎看護学２　基礎看護技術Ⅰ　　医学書院

看護技術プラクティス　　学研　第４版

評価方法　：　筆記試験　藤原７０％（小テスト２０％）　成田３０％（小テスト１０％）

評価認定　：　優(８０点以上)、良(７０～７９点以上)、可(６０～６９点以上)、不可(６０点未満)の４段階評価とする

授業の進め方：１．事前課題に取り組んでいることを前提とし授業を行います（反転授業）

２．授業は事前課題→講義→学内実習→振り返り(リフレクション)→事後課題の流れで進めていきます

３．各授業のはじめに前回講義範囲の小テストを行い、学習状況を確認しながら授業を進めていきます

４．事例を通して、フィジカルアセスメントの実際の展開を学習していきます

単元：　アセスメントの意義・臨床判断・ﾌｨｼﾞｶﾙｱｾｽﾒﾝﾄ技術	担当講師：　藤原未央
単元：　身体各部の計測　ﾊﾞｲﾀﾙｻｲﾝ測定とｱｾｽﾒﾝﾄ　学内実習	担当講師：　成田淳人

授業進度と内容

回数	単　元	単元目標	時間	学習内容	授業形態
1	ﾍﾙｽｱｾｽﾒﾝﾄ	ﾍﾙｽｱｾｽﾒﾝﾄの意義と目的を理解する	2	1.ﾍﾙｽｱｾｽﾒﾝの意義と目的 2.ﾍﾙｽｱｾｽﾒﾝﾄにおける観察と重要な視点 3.問診(面接)の技術 4.健康歴聴取の目的と実際 5.ｾﾙﾌｹｱ能力のｱｾｽﾒﾝﾄ 6.情報の整理・記録・報告 ＊ﾍﾝﾀﾞｰｿﾝの 14 項目　ｱｾｽﾒﾝﾄの視点	講義
2.	臨床判断	臨床判断・臨床推論とは何かを理解する	2	1.臨床判断と臨床推論 2.臨床判断の４つのプロセス 1）気付き 2）解釈 3）反応 4）省察	講義

回数	単　元	単元目標	時間	学習内容	授業形態
3 4 5 6 7 8	ﾌｨｼﾞｶﾙｱｾｽﾒﾝﾄ技術	系統別ﾌｨｼﾞｶﾙｱｾｽﾒﾝﾄの実際を理解する	12	1.全体の概観 1)視診の技術　2)触診の技術 3)聴診の技術　4)打診の技術 2.全身状態・全体印象の把握 3.呼吸器系のﾌｨｼﾞｶﾙｱｾｽﾒﾝﾄ 4.循環器系のﾌｨｼﾞｶﾙｱｾｽﾒﾝﾄ 5.乳房・腋窩のﾌｨｼﾞｶﾙｱｾｽﾒﾝﾄ 6.腹部のﾌｨｼﾞｶﾙｱｾｽﾒﾝﾄ 7.筋・骨格系のﾌｨｼﾞｶﾙｱｾｽﾒﾝﾄ 8.神経系のﾌｨｼﾞｶﾙｱｾｽﾒﾝﾄ 9.頭頸部・感覚器のﾌｨｼﾞｶﾙｱｾｽﾒﾝﾄ 10.心理・社会状態のｱｾｽﾒﾝﾄ	講義
9 10			4	1.事例で学ぶﾌｨｼﾞｶﾙｱｾｽﾒﾝﾄ １）呼吸困難 ２）浮腫 （1）方法と留意点 ①視診　②触診　③聴診　④打診 （2）全身状態･全体印象の把握 ①対象の全体を概観 ②観察すべき具体的事項	講義
11	身体各部の計測演習	身体計測の目的と計測方法が理解できる	2	1.各計測の目的と留意事項 1）計測の主な目的 2）計測を行うにあたっての留意点 （1）計測器具の留意点 （2）計測環境を整える （3）計測時の条件 （4）対象の安全、計測結果の活用 （5）記録・守秘義務 2.計測の実際 1)身長の計測　2)体重の計測 3)腹囲の計測　4)胸囲の計測 5)視力測定	学内実習

回数	単　元	単元目標	時間	学習内容	授業形態
12	ﾊﾞｲﾀﾙｻｲﾝ測定とｱｾｽﾒﾝﾄ	ﾊﾞｲﾀﾙｻｲﾝ測定の方法とｱｾｽﾒﾝﾄの基礎知識を習得する	2	1．小テスト 2．事前課題学習内容の確認 1)ﾊﾞｲﾀﾙｻｲﾝを観察する意義 2)ﾊﾞｲﾀﾙｻｲﾝの変動因子と個体差 3)ﾊﾞｲﾀﾙｻｲﾝの基礎知識と測定の実際 1)体温　2)脈拍　3)呼吸 4)血圧　5)意識 3．学内実習方法の説明 （事例）呼吸困難のある対象 （実施項目）ﾌｨｼﾞｶﾙｲｸﾞｻﾞﾐﾈｰｼｮﾝの実際 ｱｾｽﾒﾝﾄと報告	講義
13	ﾌｨｼﾞｶﾙｱｾｽﾒﾝﾄの実際	ﾊﾞｲﾀﾙｻｲﾝの観察方法を習得する 身体診査の方法を習得する 得られた情報に基づきｱｾｽﾒﾝﾄを行い報告する	2	1．ジグソー学習 1）専門家育成 （1）体温･脈拍･呼吸の測定 （2）血圧の測定 （3）胸郭の触診・呼吸音の聴診 （4）腹部の聴診・打診・触診 2）チーム練習 2．事例に基づいたシミュレーションの実施 1）デモンストレーション (1）ﾊﾞｲﾀﾙｻｲﾝ測定の実施 ①体温の測定方法とｱｾｽﾒﾝﾄ ②脈拍の測定方法とｱｾｽﾒﾝﾄ ③呼吸の観察方法とｱｾｽﾒﾝﾄ ④血圧の測定方法とｱｾｽﾒﾝﾄ (2）身体診査の実際 ①胸郭の動きを触診 呼吸音の聴診 ②腸蠕動音の聴診 腹部の打診・触診 (3）問診・観察・測定値から得た情報を分析して、内容を報告する 2）デブリーフィング	学内実習 ジグソー学習
14			2	1．技術評価	

回数	単　元	単元目標	時間	学習内容	授業形態
15			2	1. 全体のまとめ 1）グループリフレクション	協同学習
単位修得認定試験			1	筆記試験　小テスト	

事前課題	1．ヘンダーソンの 14 項目のうち、1.呼吸、2.飲食、３.排泄、4.姿勢、5.休息と睡眠、7.体温についてアセスメントの視点を整理する 2．ﾌｨｼﾞｶﾙｱｾｽﾒﾝﾄ技術 1）フィジカルアセスメント技術に関する基礎知識（ワークシート） 3．ﾊﾞｲﾀﾙｻｲﾝ測定とｱｾｽﾒﾝﾄ 1）バイタルサイン測定に関する基礎知識（ワークシート） 2）教科書・看護技術プラクティスの動画視聴による手順・留意点の確認 3）看護技術カードの作成
事後課題	1．リフレクションシートの作成

科目名	単位	時間数	講義時期	講師（○＝実務経験者）
診療援助技術	1	３０	１年後期	三上麻美（○）井上里織（○）

科目目的　：　診療に伴う検査・治療・処置の基本的な知識・技術・態度を学ぶ

目標　：　１．吸入・吸引・排痰ｹｱの目的と方法を理解する

２．各与薬の特徴を理解し正しい与薬方法、薬剤の管理方法を学ぶ

３．注射の基本知識と実際を学ぶ

４．一次救命処置 AED による除細動の使用方法を理解する

教科書　：　系統看護学講座　専門分野　　基礎看護学３　基礎看護技術Ⅱ　　医学書院

参考文献　：　看護技術プラクティス　一つひとつの根拠がよくわかる！　Gakken

評価方法　：筆記試験　三上５０％（筆記試験４５％　小テスト　　５％）

井上５０％（筆記試験３５％　小テスト　１５％）

評価認定　：優(80 点以上)、良(70～79 点以上)、可(60～69 点以上)、不可(60 点未満)の４段階評価とする

授業の進め方

講義と学内実習を組み合わせて授業を進め、各技術の根拠を小テストで確認していきます　学内実習では注射法の技術を習得する授業になりますので、各自で練習を積んで技術を完成させましょう

単元：　診療・検査・処置・与薬	担当講師：三上麻美
単元：　注射・学内実習	担当講師：井上里織

授業進度と内容

回数	単　元	単元目標	時間	学習内容	授業形態
1	診療･検査･処置の介助技術	看護師の役割を理解する	2	1.診療の基礎知識 1)診察における看護の役割 2)診察時の援助 2.検査の基礎知識 1)検査時の看護師の役割 3.主な検査の具体的援助方法 1)生体検査・処置 穿刺の介助：胸腔穿刺　腰椎穿刺 2)検体検査 静脈血採血・血糖測定 尿検査　　便検査 3)生体情報のモニタリング Spo2	講義
2	静脈採血	静脈血採血を安全で正確に実施する技術を習得する	2	1.　小テスト 2.　事前課題の確認 3.　学内実習方法の説明 実施項目：静脈血採血法	

回数	単元	単元目標	時間	学習内容	授業形態
				3. タスクトレーニング １）実施項目：採血ホルダー・真空試験管を使用した採血 (1)援助計画書を熟読し根拠・留意点を確認し手順に沿って実施する ＊採血シュミレーターを使用	学内実習
3			2	1.技術評価 2. 全体のまとめ １）グループリフレクション ２）リフレクションシートの記載	学内実習 協同学習
4	呼吸を整える技術	吸入・吸引・排痰ｹｱの基礎知識を理解する	2	1.酸素吸入療法の基礎知識 2.吸引の基礎知識 1)一時的吸引　2)持続的吸引 3.排痰ｹｱ 1)体位ドレナージ　2)ｽｸｲｰｼﾞﾝｸﾞ 4.吸入の基本知識 1)ジェット式　2)超音波ﾈﾌﾞﾗｲｻﾞｰ	講義
5	循環を整える技術	AED の使用目的･方法を理解する 一次救命処置 AED による除細動の実施方法を習得する	2	１．AED による除細動 １）心拍・脈拍・呼吸の確認 ２）AED パッドの装着・通電 ２．学内実習方法の説明 ３．技術評価 AED の使用方法 技術カードの手順に沿って実施 ４．リフレクション １）技術チェックリストを用いて個別指導・助言 ２）リフレクションシートの記載	講義 学内実習
6 7	与薬の技術	各与薬の特徴を理解し正しい与薬方法、薬剤の管理方法を理解する	4	１．.与薬の基礎知識 1) 剤形と吸収経路 2) 看護師の役割 (1)正しい与薬　６R 確認 (2)薬の管理 ２．援助の基礎知識と実施方法 1)経口与薬　2)吸入 3)点眼　4)点鼻 5)経皮的与薬　6)直腸内与薬	講義 DVD 視聴 「与薬」 直腸内与薬・グリセリン 浣腸：体験学習

回数	単元	単元目標	時間	学習内容	授業形態
8 9	注　射	注射の基本知識と根拠・留意点を理解する	4	1.　注射の基礎知識 1)小テスト 2)事前学習課題 3)注射方法の種類と概要 4)注射器の取り扱い・注射の準備 (1)アンプルからの吸い上げ (2)バイアルからの吸い上げ (3)輸液セット延長チューブの接続 (4)輸液ポンプの取り扱い 5)各注射・点滴の根拠・留意点 (1)注射部位の選択 (2)実施前の評価 (3)必要物品 (4)患者への説明・実施方法 (5)実施中・後の評価	講義 DVD 視聴
10 11		皮下注射を安全で正確に実施する 筋肉注射を安全で正確に実施する技術を習得する 点滴静脈注射と輸液ポンプの使用方法を習得する	4	1．学内実習方法の説明 実施項目 1）皮下注射 2）筋肉注射（三角筋・臀部） 3）点滴静脈注射と輸液ポンプの使用方法	講義 DVD 視聴
12 13 14			6	1．タスクトレーニング 1）注射用シュミレーターを使用し、援助計画書の手順に沿って実施	協同学習
15			2	1．技術評価 1．全体のまとめ 1）グループリフレクション 2）リフレクションシートの記入	学内実習 協同学習
単位修得認定試験			1	筆記試験･小テスト	

事前学習	＜静脈血採血＞ 1. 上肢の血管・神経の走行 2. 静脈採血に関する基礎知識（ワークシート） 3. DVD 視聴 4. 教科書・看護プラクティスによる援助計画書の手順・根拠・留意点調べ ＜AED＞ 1. AED パッドの装着・通電に関する基礎知識（ワークシート） 2. 教科書・プラクティスによる手順・留意点調べ ＜与薬＞ １．与薬の基礎知識（ワークシート） ＜皮下注射・筋肉注射・輸液ポンプ＞ １．点滴静脈内注射・点滴静脈内注射に適した静脈と誤って穿刺する危険のある動脈・神経 ２．筋肉内注射・筋肉内注射に適した部位と神経の走行 ３．皮下注射・皮下注射に適した部位と神経の走行 ＊1～3 は解剖の学習　ノートにスケッチすること ４．注射に関する基礎知識（ワークシート） ５．教科書・看護プラクティスによる手順・根拠・留意点の確認 ６．DVD 視聴 ７．援助計画書の作成

科目名	単位	時間数	講義時期	講師（○=実務経験者）
生活援助技術実践	1	３０	１年後期	藤原未央（○）

科目目的　：　既習の知識・技術を活用し、根拠に基づき、状況設定に応じた看護技術を倫理的態度で安全・安楽に実践できる能力を習得する

目標　：　１．演習の目的、内容、方法について理解する
２．２つの状況設定をグループメンバーで討議し看護技術カードを作成する
３．２の学習から２つの状況設定の看護技術カードを個人で完成させる
４．指定された状況設定を看護技術カードに沿ってひとりで実践する
５．自己の達成レベルの確認を通して自己を評価し、今後の自己課題（自己目標）を明確にする

教科書　：　基礎看護学全般

評価方法　：　看護技術カード２０％、　技術評価７０％
グループワーク・演習への取り組み姿勢１０％

評価認定　：　優(８０点以上)、良(７０～７９点)、可(６０～６９点)、不可(６０点未満)の４段階評価とする

授業の進め方：１．既習してきた看護技術の技術試験になります
２．演習のオリエンテーションを受けてから、協同学習になります
３．グループメンバーとともに２つの状況設定の援助計画書を立案し、提出は各個人になります
４．協同学習ですので、グループメンバーで協力しながら学習を進めてください
５．２つの状況設定のうち１つの状況設定での技術試験になりますので、一人で実践できるように、練習を重ねてください

授業進度と内容

回数	単　元	単元目標	時間	学習内容	授業形態
1	オリエンテーション	目的、内容、方法を理解し、計画的に学習を進めることができる	2	1. オリエンテーション 1)内容　2)学習方法 3)グループ編成　4)評価方法 5)注意事項・留意点 6）事例提示（2つの状況設定）	講義
2 3 4 5 6 7 8	技術練習	対象が置かれた状況に応じて、看護技術を安全・安楽を考えて、根拠に基づき実施できる	28	１．　実施方法 1）事例に関する看護技術カードの作成 （1）グループワークの後、個人ワークで看護技術カードを完成させる 2）技術練習	協同学習 個人学習

回数	単　元	単元目標	時間	学習内容	授業形態
9 10 11 12 13 14 15				（1）各自が作成した看護技術カードに沿って 2 事例の技術練習を行う （2）グループ内で練習時間を公平に配分し、積極的に練習に臨む 3）技術評価方法 （1）実技試験は、試験当日に 2 つの状況設定のうち指定された 1 つの状況設定を、個人で作成した看護技術カードを元に実施する （2）実技評価表で評価を行う	
単位修得認定試験			1	看護技術カード　技術評価　態度領域	

科目名	単位	時間数	講義時期	講師（○＝実務経験者）
成人看護学総論Ⅰ	1	15	1年　後期	三上麻美（○）

科目目的　：成人期にある対象の特徴を理解し、成人看護の機能と役割を学ぶ
目標　：１．成人看護学の特性を理解する
２．成人看護の機能と役割を理解する
３．成人期にある対象を身体的・精神的・社会的側面から理解する
４．成人看護に有用な理論を学ぶ

教 科 書　：系統看護学講座　専門分野　成人看護学１　成人看護学総論　　医学書院
参考文献　：成人看護学概論　南江堂
ナーシンググラフィカ　成人看護学概論　メディカ出版
成人看護学概論　ヌーベルヒロカワ
新体系　看護学全書　成人看護学概論　成人保健　　メヂカルフレンド社

評価方法：筆記試験　100%
評価認定：優（80 点以上)、良（70～79 点)、可（60～69 点)、不可（60 点未満）の 4 段階評価とする

授業の進め方：1. 教科書、配布資料をもとに授業を行います
2. グループワークには、積極的に参加しましょう
3. グループワーク発表を通して学びを共有し、成人期にある人の理解を深めましょう

授業進度と内容

回数	単　元	単元目標	時間	学習内容	学習方法
1	成人看護の機能と役割	成人看護学の概要を理解する 成人看護の機能と役割を理解する	2	1. 看護学全体から見た成人看護学の位置づけ 2. 成人の定義 1)生理学的定義 2)法律的定義 3)大人になるとは 3. 成人看護の基本的姿勢 1)健康行動の促進 2)健康生活を支える人間関係の構築 3)集団へのアプローチ 4)チームアプローチ 5)看護マネジメント 6)倫理的判断 7)意思決定支援 8)家族支援	講義

回数	単　元	単元目標	時間	学習内容	学習方法
2 3 4 5 6	成人看護の対象	成人期の発達段階・発達課題を理解する 成人各期における身体的・精神的・社会的側面の特徴を理解する	１０	1. ライフサイクルからみた成人期の位置づけ 2. 成人期の発達段階・発達課題に関する理論 1）エリクソン 2）ハビィーガースト 3）レビンソン 3. 成人各期の発達段階・発達課題の特徴 1）青年期 2）壮年期・中年期 3）向老期	講義 協同学習 グループワーク
7 8	成人看護に有用な理論	対象理解および看護実践に活用できる理論の概略を理解する	3	1. 病みの軌跡 2. アンドラゴジー 3. フィンク	講義 協同学習 グループワーク
単位修得認定試験			1	筆記試験	

科目名	単位	時間数	講義時期	講師（○＝実務経験者）
成人看護学総論Ⅱ	1	30	1年　後期	三上麻美（○）鎌田たまみ（○）

科目目的　：成人期にある対象の生活および健康課題と成人保健の動向を理解し、健康の保持・増進、疾病予防のための対策を学ぶ

目標　：1．成人を取り巻く社会環境と成人の生活を理解する
2．成人保健の動向を理解する
3．成人各期における健康課題の特徴を理解する
4．成人期にある人の健康の保持・増進、疾病予防のための保健医療福祉対策を理解する

教科書　：系統看護講座　専門分野　成人看護学1　成人看護学総論　医学書院

参考文献　：ナーシング・グラフィカ　成人看護学概論　メディカ出版
成人看護学概論　南江堂
成人看護学概論　ヌーベルヒロカワ
新体系　看護学全書　成人看護学概論　成人保健　メヂカルフレンド社

評価方法　：筆記試験　三上50%　鎌田50%

評価認定　：優（80点以上）、良（70～79点）、可（60～69点）、不可（60点未満）の4段階評価とする

授業の進め方：1．教科書、配布資料をもとに授業を行います
2．グループワークには、積極的に参加しましょう
3．グループワーク発表を通して学びを共有し、成人期にある人の理解を深めましょう

単元：社会環境と成人の生活　成人保健の動向	担当講師：鎌田たまみ
単元：成人期に特徴的な健康課題と対策	担当講師：三上麻美

授業進度と内容

回数	単　元	単元目標	時間	学習内容	学習方法
1 2 3	社会環境と成人の生活	成人を取り巻く社会環境を理解する 成人の生活の営みとその多様性について理解する	6	1．働くことと生活 1)生活を営む意味 2)働くことの意味 3)ワークライフバランス 2．家族との関係 1)家族の定義 2)家族形態の変化 3．多様なライフスタイル 1)日常生活スタイルの変化 2)日常生活を取り巻く環境 3)健康観の多様性	講義 共同学習 グループワーク
4 5 6 7	成人保健の動向	成人の健康を様々な保健統計を通して理解する わが国の保健・医療・福祉に関わる施策の概要と連携の必要性を理解する	8	1．保健統計から見た成人の健康の動向 1)人口構成と成人期を生きる人々 2)平均寿命と健康寿命、死亡状況 3)受療状況 4)体力の程度 5)労働災害、業務上疾病 6)性感染症 7)ドメスティック・バイオレンス 8)自殺 9)障害者の状況	講義

回数	単　元	単元目標	時間	学習内容	学習方法
		ヘルスプロモーションの概要を理解する		２．成人を対象とした保健・医療・福祉対策 1)保健にかかわる対策 ①健康増進・生活習慣病対策 ②健康危機管理への対応 ③高齢者への保健事業 2)医療にかかわる対策 ①医療法の改正 ②21 世紀の医療提供体制 3)福祉にかかわる対策 ①障害者福祉 ②高齢者福祉 4)保健・医療・福祉の連携の重要性 ３．ヘルスプロモーション 1)ヘルスプロモーションとは 2)ヘルスプロモーションの目標 3) ヘルスプロモーション活動のプロセスと方法	講義
８ ９ １０ １１ １２ １３ １４ １５	成人期に特徴的な健康課題と対策	成人各期の身体的・精神的・社会的特徴を踏まえ各期の健康課題の特徴を理解する 成人期にある人の主な健康障害とその予防・対策について理解する	１６	１．成人各期に特徴的な健康課題 1)青年期にある人の健康課題 2)壮年期・中年期にある人の健康課題 3)向老期にある人の健康課題 ２．生活習慣に関連する健康障害 1)生活習慣と健康障害の関連 2)生活習慣病の発生要因と対応 3)生活習慣病の発生予防 ３．職業に関連する健康障害 1)職業性疾病および業務上疾病 2)職業性疾病の予防と対応 ４．生活ストレスに関連する健康障害 1)生活ストレスと健康障害 2)成人の生活ストレス 3)ストレス関連疾患の予防と対応 ５．セクシュアリティに関連する健康障害 1)セクシュアリティと健康に関連する概念 2)性的健康の指標および実態 3)性に関連する健康障害の予防と対応 ６．更年期に関連する健康障害 1)更年期障害とは 2)更年期障害の原因・症状 3)更年期障害の予防と治療	講義 共同学習 グループワーク
単位修得認定試験			1	筆記試験	

科目名	単位	時間数	講義時期	講師　(○＝実務経験者)
老年看護学総論Ⅰ	1	１５	１年　後期	齊藤まどか　(○)

科目目的　：老年期にある対象の特徴を身体的・精神的・社会的側面から理解し、老年看護の機能と役割を学ぶ

目標　：１．老年看護の理念・目的・目標を理解する
２．老年看護の特徴・看護師が果たす役割を理解する
３．老化に伴う高齢者の特徴を身体的・精神的・社会的側面から理解する
４．高齢者模擬体験を通して生活動作の不自由さを実感し、高齢者の心理的側面及び環境調整の意義や必要性を理解する

教科書　：系統看護学講座　専門分野　老年看護学　　医学書院

参考文献　：新体系　看護学全書　老年看護学①　老年看護学概論老年保健　メヂカルフレンド社
ナーシンググラフィカ　老年看護学①　高齢者の健康と障害　メディカ出版

評価方法　：筆記試験８０％　高齢者模擬体験演習２０％

評価認定　：優（８０点以上）、良(７０～７９点)、可(６０～６９点)、不可（６０点未満）の４段階評価をする

授業の進め方：１．事前課題に取り組んでいることを前提とし授業を行います
２．授業では参考資料も活用しながら学習内容の充実を図ります
３．コミュニケーション能力の向上と視野を広げるために、グループワークを行いますので、積極的に参加しましょう

授業進度と内容

回数	単　元	単元目標	時間	学習内容	授業形態
1 2	老年看護の機能と役割	老年看護の理念・目的・目標を理解する 老年看護の特徴を理解する 老年看護の原則を理解する 老年看護における看護の役割を理解する	4	1.　老年看護の理念 1)高齢者の特性 2)老年看護の独自性 (1)生活に着目することの意味 (2)生活を志向した援助の体系 (3)看護の働きが求められる生活という営み 3)キュアとケアの統合 (1)治療と看護 (2)予測と予防の看護 4)看護の役割と介護の役割 5)老年観（高齢者観）の育成 2.　老年看護の目的・目標 1)満足のいく生の完成 2)快適で自立した生活の実現	講義

回数	単元	単元目標	時間	学習内容	授業形態
				3. 老年看護の特徴 1)注目すべき 4 つの側面 2)高齢者のための国連原則 3)老年看護の原則と看護の役割 (1)意思決定する力の信頼・支援 (2)最大限の生活機能の回復 (3)死にいたるプロセスの調整 (4)家族のニーズに応じた支援 (5)潜在力を引き出す環境調整 (6)他職種との連携	講義
3 4	老年看護の対象	老化に伴う身体的・精神的・社会的変化について理解する 老年期の発達段階・発達課題を理解する	4	1. 加齢と老化 1)身体的側面の変化 2)精神（心理）的側面の変化 3)社会的側面の変化 2. 老年期の発達段階・発達課題 1)老年期とは 2)高齢者が生きてきた時代背景 3)老年期の発達課題 (1)エリクソン (2)ペック (3)ハヴィガースト 4)死生観・スピリチュアリティ	講義
5 6 7 8		高齢者模擬体験を通して、老化に伴う生活動作の不自由さを理解する 高齢者が安全・安楽に生活するための関わりを理解する	7	1. 高齢者模擬体験演習 1) 実施方法 (1)事前課題 ①老化に伴う機能変化についての復習 ②ワークシートに沿った調べ学習 ③模擬体験に伴うシナリオの確認 (2)学内演習の進め方 ①グループ内でペアに分かれ「高齢者役」「看護師役」をローテーションする ②「高齢者役」はシナリオを選択し模擬体験を行う ③リフレクションシートの記載	個人ワーク 学内演習 協同学習

回数	単元	単元目標	時間	学習内容	授業形態
				2. 地域(学校周辺)における高齢者の触れ合い体験から身体的特徴、精神的特徴、社会的特徴を理解に繋げる 1）実施方法 （1）体験内容 ①高齢者インタビュー ②高齢者観察 ③高齢者にとっての外出環境の把握 （2）体験内容についてグループで質問等を準備する。 （3）地域（学校周辺）にグループで移動を行いワークシートに沿って実施する	フィールドワーク 協同学習
				3. 演習終了後のグループワーク 1）グループワーク内容 a.高齢者役を通しての学び b.看護師役を通しての学び c.安全・安楽な高齢者の生活を支えるための関わりについて d.地域で生活する高齢者の特徴 2）実施方法 グループワークで上記内容を話し合い、発表を行い学びの共有を行う	グループワーク 発表
				4. 評価方法 高齢者模擬体験演習評価表で評価する	
単位修得認定試験			1	筆記試験、高齢者模擬体験演習評価表	

＜事前課題＞

第１・２回：第３章「老年看護の基盤」を熟読する。

第３・４回：第１章「老いるということ、老いを生きるということ」を熟読する。

第 5～8 回：ワークシートの項目に沿い、解剖生理学・看護学概論・第３・４回に学習する老化に伴う各側面の変化から高齢者の３側面の特徴について復習を行う。

科目名	単位	時間数	講義時期	講師　(○＝実務経験者)
老年看護学総論Ⅱ	1	３０	１年　後期	齊藤まどか(○)　仲田恵子(○)

科目目的　：　高齢者を取り巻く社会情勢及び保健医療福祉対策を理解し、高齢者の療養生活の現状とその中で看護が果たす役割を学ぶ

目標　：１．超高齢社会の現状を統計的輪郭から理解する
２．高齢者の生活と健康を支える保健医療福祉制度･政策について理解する
３．高齢者の権利擁護について理解する
４．多様な場で生活･療養する高齢者と家族に対する看護を理解する
５．老年看護に理論を活用する意義と代表的な理論の概要を理解する

教科書　：　系統看護学講座　専門分野　　老年看護学　　医学書院
国民衛生の動向　　厚生統計協会

参考文献　：　看護学テキスト NICE　老年看護学概論「老いを生きる」を支えることとは　南光堂
ナーシンググラフィカ　老年看護学①　高齢者の健康と障害　　メディカ出版

評価方法　：　筆記試験１００％（齊藤６０％、仲田４０％）

評価認定　：　優（８０点以上）、良(７０～７９点)、可(６０～６９点)、不可（６０点未満）の４段階評価をする

授業の進め方：１．事前課題に取り組んでいることを前提とし授業を行います
２．授業では参考資料も活用しながら学習内容の充実を図ります

単元：　高齢社会と社会保障、看護理論	担当講師：　齊藤まどか
単元：　高齢者の生活・療養の場	担当講師：　仲田恵子

授業進度と内容

回数	単　元	単元目標	時間	学習内容	授業形態
1 2 3 4 5 6	高齢社会と社会保障	高齢者に関する統計的特徴を理解する	4	1．高齢社会の統計的輪郭 1)わが国の高齢化 2)高齢者のいる世帯 3)高齢者の健康状態 4)高齢者の死亡 5)高齢者の暮らし	講義
		高齢者を支える様々な社会制度の成立背景と目的・役割を理解する	8	2．高齢社会における保健医療福祉の動向 1)高齢者とソーシャルサポート 2)保健医療福祉制度の変遷 3)介護保険制度の整備 4)高齢者医療の仕組み 5)高齢者を支える職種と活動の多様性	

回数	単元	単元目標	時間	学習内容	授業形態
7 8		高齢者の倫理的課題と法的整備の動向を理解する	4	3. 高齢者の権利擁護 1)高齢者に対するスティグマと差別 2)高齢者虐待 3)身体拘束 4)権利擁護のための制度 (1) 成年後見制度 (2) 日常生活自立支援事業	講義
9	老年看護に有用な看護理論	高齢者の看護を考える上で有用な理論やアプローチ方法を理解する	2	1. 老年看護に理論を活用する意義 2. 老年看護に役立つ理論・概念 1)エイジング 2)エンパワメント 3)生涯発達理論 4)バトラー 5)ストレングス	講義
10 11 12 13 14 15	高齢者の生活・療養の場	在宅での療養生活の現状と看護の概要を理解する 保健医療福祉施設の特徴と看護の概要を理解する	6	1. 高齢者の療養の場と看護 1)在宅高齢者への看護 (1) 介護予防と看護 (2) 介護・医療ニーズの高い在宅高齢者への看護 (3) 包括的・継続的に支援する活動 2)保健医療福祉施設における看護 (1) 医療施設の特徴と看護 (2) 介護保険施設の特徴と看護	講義
		高齢者を介護する家族の特徴と家族への支援を理解する	4	2. 高齢者の家族と看護 1)介護家族の生活と健康 2)介護家族への看護	
		高齢者に特有のリスクと対策を理解する	2	3. 高齢者のリスクマネジメント 1)高齢者と医療安全 2)高齢者と救急救命 3)高齢者と災害看護	
単位修得認定試験			1	筆記試験	

＜事前課題＞

（高齢社会と社会保障）第１回　：老年に関する統計について整理する。

第２～７回：第２章「高齢社会と社会保障」を熟読する。

第８回　：第３章「老年看護の基盤」の理論・概念の活用を熟読する。

（高齢者の生活・療養の場）

第７章「生活・療養の場における看護の展開」、第８章「高齢者のリスクマネジメント」を熟読する。

科目名	単位	時間数	講義時期	講　師（○=実務経験者）
小児看護学総論Ⅰ	1	１５	１年後期	坂本　容子（○）

科目目的　：　小児看護の変遷を知り、小児看護の理念･目的と役割を学ぶ

目標　：　１．現代の子どもと家族を取り巻く社会環境について理解する

２．子どもの権利を尊重した看護について理解する

３．保健医療福祉チームとしての小児看護の役割を理解する

教科書　：　系統看護学講座　専門分野　小児看護学１　小児看護学概論 小児臨床看護総論　医学書院

参考文献　：　ﾅｰｼﾝｸﾞ･ｸﾞﾗﾌｨｶ　小児看護学①　小児の発達と看護　　MC メディカ出版

評価方法　：　筆記試験　80%　　子どもノート 20%

評価認定　：　優(８０点以上)、良(７０～７９点以上)、可(６０～６９点以上)、不可(６０点未満)の４段階評価とする

授業の進め方

１．子どもが健康で健やかに育つ環境、少子化に関するデータや原因を国民衛生の動向の学習と関連付け、自身が生まれた社会状況と現在の子どもの社会状況を学習する

２．講義資料・子どもノートを活用し、学習目標を達成していく

３．協同学習を通して協働・連携、臨床判断能力を育くむため、積極的に参加していきましょう

授業進度と内容

回数	単　元	単元目標	時間	学習内容	授業形態
1 2 3	小児看護の目指すところ	子どもの健康のとらえ方と看護の役割を理解する	5	1.　小児看護の対象 1)　子どもの特徴 2)　子どもと家族･社会 3)　子どもと医療 2. グループワーク：自身の幼少期と現在の違いを社会情勢･生活環境から理解 3.小児看護の目標と役割	講義 共同学習 発表
4	小児と家族の諸統計	人口構造の変化とその理由を理解する	2	1.　わが国の人口構造 2.　出生と家族 1)　出生数、合計特殊出生率 2)　出生と母の年齢、世帯構造 3.　子どもの死亡の特徴 1)　周産期死亡 2)　乳児死亡の特徴 3)　子どもの死亡の特徴 4）具体的な事故事例	講義

回数	単　元	単元目標	時間	学習内容	授業形態
5	小児看護の変遷	小児の変遷を知り、わが国の小児医療の政策を理解する	2	1. 諸外国の児童観・小児医療の変遷 2. わが国の児童観・育児観の変遷 3. わが国の小児医療の変遷 4. 小児看護の変遷 5. 現代の小児看護	講義
6 7	小児看護における倫理	子どもの権利と医療現場で起こりやすい問題の特徴を理解する	4	1. 子どもの権利 2. 医療現場でおこりやすい問題点と看護 1) 医療･治療の選択･決定 2) 子どものケア 3) 倫理原則、倫理的配慮 3. 事例から小児の倫理について考える 1）個人でアセスメント後グループワークにてまとめ	講義 共同学習 発表
8	小児看護の課題	社会情勢や疾病構造の変化に応じた小児の課題を理解する	2	1. 疾病構造の変化と小児看護 1) 高度複雑化した医療 2) 継続看護 3) 他職種間の調整機能 4) 成人医療との協働 2. 社会変化と小児看護 1) 育児･養育機能の維持･増進 2) 小児保健の効率性･経済性 3) 小児救急医療の充実 3. 小児看護の専門分化 1) 看護の中の専門分化 2) 小児看護の中の専門分化	講義 ＤＶＤ視聴
単位修得認定試験			1	筆記試験、こどもノート評価	

事前課題：課題は講義時にその範囲を指定します

事後学習：講義毎にワークシート（子どもノート）を記載し、講義終了後指定された日に提出

科目名	単位	時間数	講義時期	講師　(○＝実務経験者)
母性看護学総論Ⅰ	1	１５	１年後期	吉田かつえ　(○)

科目目的　：　母性看護の基礎となる概念を学び、母性看護の対象の特徴から母性看護独自の特徴を理解する

科目目標　：　１．母性とは何かを考え、母性をめぐる様々な定義を理解し、母性看護における母性の捉えかたについて学ぶ
２．人間の性を示すセクシュアリティについて学ぶ
３．リプロダクティブヘルス/ライツ、ヘルスプロモーションについて理解を深める
４．母性看護のあり方について、対象者、看護の目的・目標から理解を深める
５．母性看護の対象の特徴・特性について学ぶ
６．母性看護における家族機能と役割、家族の発達段階について理解できる

教科書　：　系統看護学講座　専門分野　母性看護学１　母性看護学概論　医学書院

参考文献　：　都度紹介

評価方法　：　筆記試験 100%

評価・認定：優(80 点以上)、良(70～79 点)、可(60 点～69 以上)、不可(60 点未満)の 4 段階評価とする

授業の進め方

母性看護学の基礎となる部分です　自ら考え、学習し母性看護の理解を深めるためにグループワークでメンバーとの意見交換も行います

授業進度と内容

回数	単　元	単元目標	時間	学習内容	授業形態
1	母性とは	母性の特性について学ぶ	2	1. 親になることと母性 2. 母性の身体的特徴 3. 母性の心理・社会的特徴 4. 母性看護における母性 5. ワークシートで母性の身体的・心理的・社会的側面についてまとめ、母性とは何か、グループワークを行う １）学習方法 （１）個人ワーク ワークシートの記載 （２）グループワーク （３）まとめ	講義 協同学習 ワークシートの活用
2	母子関係と発達課題 セクシュアリティ	子どもとの関係から母性発達を学ぶ 人間が人間らしく健康にいきるためのセクシュアリティについて学ぶ	2	1. 愛着・母子相互作用と母子関係形成 2. 家族機能、家族の発達課題 3. セクシュアリティとは 4. ワークシートでセクシュアリティの発達と課題についてまとめ、グループワークを行う	講義 協同学習 個人ワーク グループワーク

				1）学習方法 （1）個人ワーク ワークシートの記載 （2）グループワーク （3）まとめ	
3	リプロダクティブヘルス/ライツ	リプロダクティブヘルス/ライツについて理解する	2	1. リプロダクティブヘルス/ライツとは 2. 女性とリプロダクティブヘルス/ライツの課題 3. 女性のライフサイクルにおけるリプロダクティブヘルス/ライツについてワークシートでまとめ、グループワークを行う 1）学習方法 （1）個人ワーク ワークシートの記載 （2）グループワーク （3）まとめ	講義 協同学習 個人ワーク グループワーク
4	ヘルスプロモーション	ヘルスプロモーションについて理解する	2	1. ヘルスプロモーションとは 2. 女性の生涯にわたる健康教育 3. ヘルスプロモーションについてワークシートでまとめ、グループワークを行う 1）学習方法 （1）個人ワーク ワークシートの記載 （2）グループワーク （3）まとめ	講義 協同学習 個人ワーク グループワーク
5	女性のライフサイクルと家族 母性の発達・成熟・継承	女性のライフサイクルの変化と家族の発達の関連から母性の一生を学ぶ 母性の発達・成熟・ 継承について学ぶ	1	1. 現代女性のライフサイクル 2. 家族の発達段階と家族看護 3. 女性性の発達 4. 母性の発達 5. 母子関係と愛着 6. 母子の世代間伝達 7. 女性のライフコースについてワークシートでまとめ、グループワークを行う 1）学習方法 （1）個人ワーク	講義 協同学習 個人ワーク グループワーク

				ワークシートの記載 （2）グループワーク （3）まとめ	
6	女性のライフサイクルにおける形態･機能の変化	生殖器の形態・機能について学ぶ	2	1. 生殖器の形態・機能 2. 妊娠と胎児の性文化	講義
7 8	母性における倫理 安全･事故防止	母性看護の実践するうえで重要な倫理について学ぶ	4	1. 生命倫理と看護倫理 2. 看護における倫理的意思決定 3. 事例提示から学生間の意見交換 4. ３つの事例に基づいた倫理的課題の明確化、看護援助 事例：生殖補助医療、出生前診断、人工妊娠中絶の倫理的課題 1） 担当事例のワークシートに取り組む （1） 個人ワーク （2） グループワーク 2）グループ発表	講義 協同学習 個人ワーク グループワーク
単位修得認定試験			1	筆記試験	

科目名	単位	時間数	講義時期	講師（○＝実務経験者）
精神看護学総論Ⅰ	1	１５	１年後期	鎌田　たまみ（○）

科目目的　：精神看護の意義、対象、役割、機能を理解し、精神の危機的状況や障害を持つ人とその家族に必要な基本的な知識を学ぶ

目標　：１．精神看護の目的・目標を理解する
２．精神看護の対象を理解する
３．精神看護の役割と機能を理解する
４．精神看護の動向と課題を理解する

教科書　：系統看護学講座　専門分野　精神看護１　精神看護の基礎　第６版
系統看護学講座　専門分野　精神看護２　精神看護の展開　第６版

参考文献：その都度紹介します

評価方法　：　筆記試験　１００％

評価認定　：　優(８０点以上)、良(７０～７９点)、可(６０～６９点)、不可(６０点未満)の４段階評価とする

授業の進め方：教科書、配布資料を基に進めていきます

授業進度と内容

回数	単　元	単元目標	時間	学習内容	授業形態
1 2	精神看護の目的･目標	精神看護の目的・目標を理解する	4	1. 精神看護学の位置づけ 2. 精神看護の目的と目標 3. 精神看護学と精神看護	講義
3 4 5 6	精神看護の対象	看護の対象となる（個人と集団）人について理解する	7	1. 看護の対象である個人及び集団 2. あらゆる発達段階にある人とその家族 3. あらゆる健康段階にある人とその家族 4. ノーマライゼーションと精神障害者の人権・倫理	講義
7 8	精神看護の機能・役割	看護の役割と機能について理解する	4	1. 精神の病気について悩んでいる人とその家族に対する看護 2. 精神的危機状況への看護 3. 精神保健と相談、社会資源とネットワークづくり 4. 家族への支援 5. コンサルテーションリエゾン精神看護	講義 DVD
単位修得認定試験			1	筆記試験	

二年次履修科目

科目名	単位	時間数	講義時期	講師(○＝実務経験者)
情報科学と統計	1	30	2 年前期	浅尾　秀樹(○)

科目のねらい
　医療・保健系データをもとに統計処理の基礎的理論と方法を理解し、情報機器操作により文書・発表物の作成・編集、プレゼンテーション能力を高める。

教科書　　：　医療系のための情報リテラシー　東京図書（￥2,200）
参考文献　：　都度紹介
SPSS による統計処理の手順　第７版　石村貞夫・石村光資郎　　東京図書
生命科学・医療系のための情報リテラシー　第２版　丸善出版￥3,000
情報リテラシーOffice2016　実教出版

評価方法　：　単位認定試験：優(80 点以上)、良(70 点以上)、可(60 点以上)、不可(60 点未満)の
　　4 段階評価とする

授業の進め方
　この授業の到達点は以下である。
①医療・保健統計等のデータについて、統計処理の基礎的事項によって考察することができる
②Word、Excel、Power Point を使って文書や図表、発表物、掲示物などを作成・編集できる
③SPSS の基礎的な操作ができ、医療系のデータから必要な結論を推定できる

授業進度と内容

回数	単　元	時間	学習内容	授業形態
1	講義ガイダンス、Word 操作	2	自己プロフィール作成、表の挿入、書式設定など	演習
2	Word（作表、履歴書作成）	2	写真・図の挿入、	演習
3	Word（病院・イベント案内文書）	2	段組み、文書編集、表現力を工夫する	演習
4	Excel（基礎知識、表の作成）	2	連続データ入力、罫線、関数式の入力、書式など	演習
5	Excel（関数式、早退・絶対参照）	2	棒、折れ線、円、帯、複合、レーダーチャートなど	演習
6	Excel（グラフと図形）	2	ナイチンゲールの Bat's Wing グラフ、散布図、相関	演習
7	Excel（ピポットテーブル）	2	データの集計、クロス集計、分析	演習
8	Power Point　（スライド作成）	2	テーマ設定、入力・編集、表示モード、スライド複製など	演習
9	Power Point　（加工・編集）	2	図表、グラフの挿入、アニメーション設定	演習
10	Power Point (	2	印刷・資料作成、プレゼンテーション	演習
11	統計の基礎	2	データの種類、基本統計量、標準偏差、偏差値	演習
12	検定の考え方	2	仮説検定、F 検定、スチューデント T 検定、有意差	演習
13	対応のない 2 群の平均値の検定	2	ｳｨﾙｺｸｽﾝの順位和検定、クロス集計、カイ二乗検定	演習
14	対応のある場合とカイ 2 乗検定	2	クロス集計表、カイ二乗検定	演習
15	ノンパラメトリック検定 その他の検定例について	2	対応のある場合、対応のない場合、一元配置分散分析、相関・回帰	演習
単位修得認定試験		1	ﾃﾞｰﾀﾀﾞｳﾝﾛｰﾄﾞ、ｸﾞﾗﾌ作成、統計処理、Word レポート、スライド作成	

科目名	単位	時間数	講義時期	講師　(○＝実務経験者)
臨床検査	1	15	2年前期	西川　進　(○)

科目のねらい

医療における臨床検査の役割を知り、各種検査の意義と方法を学ぶ

教科書　：　系統看護学講座　別巻　　臨床検査　医学書院

参考文献　：　都度紹介

評価方法　：　筆記試験 100%

評価認定　：優(80 点以上)、良(70～79 点)、可(60～69 点)、不可(60 点未満)の 4 段階評価とする

授業の進め方

教科書にそってスライド等を使用して講義を進めます

授業進度と内容

回数	単　元	時間	学習内容	授業形態
1	臨床検査の基礎	2	1.　臨床検査とその役割 2.　臨床検査の流れと看護師の役割 3.　臨床検査と多職種連携・協働	講義
2 ～8	主な臨床検査	3	1.　一般検査　2. 血液学的検査	講義
		3	1.　生化学検査 2. 免疫・血清学的検査	講義
		3	1.　内分泌学的検査 2.　微生物学的検査　3.　病理検査	講義
		4	1.　生理機能検査 循環機能検査 血圧　標準 12 誘導心電図 ホルター心電図 パルスオキシメーター (実際に体験、モデル見学する) 呼吸機能検査 スパイロメトリー他 神経機能検査 脳波検査　他 2.　画像検査 超音波検査　磁気共鳴画像(MRI)検査 サーモグラフィ 3.　内視鏡検査	講義
	単位修得認定試験	1	筆記試験	

科目名	単位	時間数	講義時期	講師　(○＝実務経験者)
病態と治療Ⅲ	1	３０	２年前期	佐野敬夫(○)　杉本信志(○)　賀来　亨(○) 永森克志(○)　安彦善裕(○)　島村　佳一(○)

科目のねらい

疾患の病態、治療検査を理解しその疾患のもつ患者の身体のアセスメントに必要な基礎的能力を養う

教科書　：　系統看護学講座　専門分野　成人看護学 9　女性生殖器　医学書院
系統看護学講座　専門分野　成人看護学 7　脳・神経　医学書院
系統看護学講座　専門分野　成人看護学 13　眼　医学書院
系統看護学講座　専門分野　成人看護学 12　皮　膚　医学書院
系統看護学講座　専門分野　成人看護学 15　歯・口腔　医学書院
系統看護学講座　専門分野　成人看護学 12　耳鼻咽喉　医学書院

参考文献　：　都度紹介

評価方法　：　筆記試験 100%(佐野 15%　杉本 25%　賀来 15%　永森 15%　安彦 15%　島村 15%)

評価認定　：　優(80 点以上)、良(70～79 点)、可(60～69 点)、不可(60 点未満)の 4 段階評価とする

授業の進め方

解剖生理学の復習をしながら、主に臨床で遭遇する代表疾患について講義します

単元：　生殖器系	担当講師：佐野敬夫	単元：　皮膚科	担当講師：永森克志
単元：　脳・神経	担当講師：杉本信志	単元：　歯　科	担当講師：安彦善裕
単元：　眼　科	担当講師：賀来　亨	単元：　耳鼻科	担当講師：島村佳一

授業進度と内容

回数	単　元	時間	学習内容	授業形態
1 2	女性生殖器の病態と 検査治療処置	4	１．女性生殖器の構造と機能 ・外性器、乳房、内性器 ・性周期とホルモン、妊娠の成立 ２．症状とその病態生理 ・ショック、出血、帯下、疼痛 ３．診察・検査と治療・処置 ・内診、細胞診、超音波検査 染色体・遺伝子検査 ・腹腔穿刺・ダグラス窩穿刺 ・ホルモン療法、避妊 ４．疾患の理解 ・子宮がん、卵巣腫瘍、乳がん 月経異常、胞状奇胎、更年期障害	講義

回数	単　元	時間	学習内容	授業形態
3 4 5 6 7	脳・神経系の病態と 検査治療処置	１０	１．脳・神経の構造と機能 ・脳、脊髄、神経系、脳室、脳脊髄液、脳血管 ・運動機能、感覚機能 ２．症状とその病態生理 ・意識障害、高次脳機能障害、運動・感覚機能障害、頭蓋内圧亢進と脳ﾍﾙﾆｱ、髄膜刺激症状 ３．検査・診断と治療・処置 ・CT、MRI、脳血管撮影、脳波、髄液検査 ・開頭手術、V-P シャント ４．疾患の理解 ・くも膜下出血、脳内出血、脳梗塞、脳腫瘍頭部外傷、水頭症、髄膜炎 ・ｷﾞﾗﾝﾊﾞﾚｰ症候群、筋ｼﾞｽﾄﾛﾌｨｰ筋萎縮性側索硬化症、てんかん、認知症	講義
8 9	眼科疾患の病態と 検査治療処置	4	１．眼の構造と機能 ２．症状とその病態 ・視力障害、視野異常、眼痛 ３．検査と治療 ・視力検査、眼底検査 ・点眼法、光凝固、屈折矯正、手術療法 ４．疾患の理解 ・近視、老視、斜視、眼振、結膜炎網膜剥離、白内障、緑内障	講義
10 11	皮膚科疾患の病態と 検査治療処置	4	１．皮膚の構造と機能 ２．症状とその病態生理 ・原発疹、続発疹、掻痒、皮疹、皮膚の老化 ３．検査と治療・処置 ・免疫・アレルギー検査 ・外用薬、光線療法、レーザー療法、凍結療法 ４．疾患の理解 ・皮膚炎、蕁麻疹、乾癬、熱傷、褥瘡、黒色腫帯状疱疹、疥癬、ｴﾘﾃﾏﾄｰﾃﾞｽ	講義

回数	単元	時間	学習内容	授業形態
12 13	歯科疾患の病態と 検査治療処置	4	1. 歯の構造と口腔内の主な名称の復習 2. 歯科の臨床の主な科目を知る 3. う蝕、歯周疾患の治療 4. 口腔軟組織の病変 5. 口腔ケアとは 6. 誤嚥性肺炎 7. 義歯の取り扱いと義歯使用の患者のケア	講義
14 15	耳鼻科疾患の病態と 検査治療処置	4	１．耳鼻咽喉・頸部の構造と機能 ２．症状とその病態生理 ・難聴、耳鳴、眩暈、鼻出血、嚥下障害 ３．検査と治療 ・聴力検査、平衡機能検査、味覚検査 ・点耳、鼓膜切開、点鼻、洗浄、吸入 ４．疾患の理解 ・外・中・内耳炎、メニエール病 副鼻腔炎、咽頭喉頭がん、鼻アレルギー	講義
単位修得認定試験		1	筆記試験	

科目名	単位	時間数	講義時期	講師(○＝実務経験者)
治療法概論	1	３０	２年前期	蔵前太郎(○)　住田巨造(○)

科目のねらい

外科疾患の病態、治療検査を理解しその疾患患者の身体のアセスメントに必要な基礎的能力を養う

教科書　：　系統看護学講座　別巻　臨床外科看護総論　医学書院

系統看護学講座　別巻　臨床放射線医学　医学書院

参考文献　：　都度紹介

評価方法　：　筆記試験 100%　（蔵前 60%　住田 40%）

評価認定　：優(80 点以上)、良(70～79 点)、可(60～69 点)、不可(60 点未満)の 4 段階評価とする

授業の進め方

教科書、スライド(パワーポイント)を併用して進めます

単元：　外科患者の病態の基礎　外科的治療の実際　放射線療法	担当講師：蔵前太郎
単元：　外科的治療支える分野　救急処置の原則　心肺蘇生法	担当講師：住田巨造

授業進度と内容

回数	単　元	時間	学習内容	授業形態
1 2 3 4	外科患者の病態の基礎	8	１．外科的基本手技 ・縫合と抜糸、止血、創傷管理 ２．低侵襲治療　３．内視鏡治療 ４．外科的治療 ・外科的治療の特徴と手術適応 乳房切除患者 消化器及び腹部疾患 ５．臓器移植の基礎知識	講義 スライド
5 6 7 8 9	外科的治療を支える分野	１０	1.　麻酔法 ・麻酔とは ・全身麻酔(吸入麻酔・静脈麻酔) ・局所麻酔(脊髄クモ膜下麻酔・硬膜外麻酔) ・局所麻酔、術前・術中・術後管理 ２．呼吸管理　・酸素療法、人工呼吸器 ３．体液・栄養管理 ・中心静脈栄養法、経腸栄養法	講義 スライド

回数	単元	時間	学習内容	授業形態
			４．輸血療法 ５．緩和医療 ６．疼痛緩和 ７．患者の自己決定権とｲﾝﾌｫｰﾑﾄﾞｺﾝｾﾝﾄ	
10 11 12 13	外科的治療の実際 救急処置法	8	１．外科的治療の近年の傾向と特徴 ２．手術侵襲と生体の反応 ３．炎症の外科的治療 ４．外科感染症（SSI 予防） ５．腫瘍の診断と治療 ６．外傷とショック ７．救急処置法の原則 ８．心肺蘇生法（CPR）	講義 スライド
14 15	放射線療法	4	１．放射線医学の成り立ちと意義 ２．画像診断 ・Ｘ線、 CT 、 MRI、 超音波、核医学 ３．放射線治療 ・放射線の種類 ・正常組織の有害反応、治療可能比 ・放射線治療の特徴と目的 ４．放射線防護 ・放射線障害、放射線防護	講義 スライド
	単位修得認定試験	1	筆記試験	

科目名	単位	時間数	講義時期	講師(○＝実務経験者)
社会福祉	1	３０	2 年前期	星　昌枝(○)

科目のねらい

社会福祉の意義と概念、社会福祉制度と社会保障制度について学ぶ
社会福祉援助技術(ソーシャルワーク)の視点、方法について学び、医療・看護との連携の理解を深める

教科書　　：系統看護学講座 専門基礎分野　健康支援と社会保障制度 3　社会保障・社会福祉
医学書院

参考文献　：都度紹介

評価方法　：　筆記試験 100%

評価認定　：　優(80 点以上)、良(70～79 点)、可(60～69 点)、不可(60 点未満)の 4 段階評価とする

授業の進め方

基本的に教科書を使用して進めます　個別援助技術では一部 DVD 教材を使用します

授業進度と内容

回数	単　元	時間	学習内容	授業形態
1	社会福祉の基礎概念	2	1. 社会福祉の全体像 2. 社会福祉の歴史 3. 社会福祉の基礎概念	講義
2 3	社会保障制度と社会福祉	4	1. 社会保障制度 2. 社会福祉の法制度 3. 社会保障・社会福祉の動向	講義
4 5	医療保障	4	1. 医療保障制度の沿革 2. 医療保障制度の構造と体系 3. 健康保険と国民健康保険 4. 高齢者医療制度 5. 保険診療のしくみ	講義
6 7	介護保障	4	1. 介護保険制度創設の背景と介護保険の歴史 2. 介護保険制度の概要 3. 介護保険制度の課題と展望	講義
8 9	所得保障	4	1. 所得保障制度のしくみ 2. 年金保険制度 3. 社会手当て 4. 労働保険制度	講義
１０ １１	公的扶助	4	1. 貧困・低所得問題と公的扶助 2. 生活保護制度のしくみ 3. 低所得者対策と近年の動向	講義

回数	単　元	時間	学習内容	授業形態
１２ １３	社会福祉の分野とサービス	4	1.　高齢者福祉 2.　障がい者福祉 3.　児童家庭福祉	講義
１４ １５	社会福祉実践と医療・看護	4	1.　社会福祉援助とは 2.　個別援助技術(ケースワーク) 3.　集団援助技術 4.　間接援助技術と関連援助技術 5.　社会福祉援助の検討課題 6.　連携の重要性 7.　社会福祉実践と医療・看護の連携 8.　連携の場面とその方法 社会福祉の基礎概念	講義 DVD
単位修得認定試験		1	筆記試験	

科目名	単位	時間数	講義時期	講師(○＝実務経験者)
関係法規	1	３０	２年前期	水野　晃(○)

科目のねらい	保健医療福祉に関する法規を理解する 看護業務に関連の深い関係法規を学び、看護師の業務や責任について学ぶ
教科書　： 参考文献　：	系統看護学講座　専門基礎分野　健康支援と社会保障制度④　看護関係法令 医学書院 その都度紹介します
評価方法　： 評価認定　：	筆記試験１００％ 優(80 点以上)、良(70～79 点以上)、可(60～69 点以上)、不可(60 点未満)の４段階評価とする
授業の進め方 教科書や配布資料を中心に進めます	

授業進度と内容

回数	単　元	時間	学習内容	授業形態
1	講義の導入	2	授業の進め方、看護師倫理と法律 看護師のガバナンス	講義
2	看護師と法律	2	看護師と法律・裁判、 医療・福祉・社会保障と法律	
3	日本の社会保障制度	2	日本の社会保障制度、保健、年金 セイフティネット	
4	看護師として知っておくべき法律 生活保障関連法規	2	生活保障に関連する法規	
5	看護師として知っておくべき法律 保健衛生関連	2	保健衛生に関連する法律	
6	看護師として知っておくべき法律 保健予防関連	2	保健予防に関連する法律	
7 8	医療従事者関連法律	4	医療従事者に関連する法律	
9 10	看護師に関連する法規	4	保健師助産師看護師法	
11	看護師として知っておくべき法律 労働関係法規	2	労働関係に関する法律	
12	看護師として知っておくべき法律 諸法	2	諸法	

回数	単　元	時間	学習内容	授業形態
13	医療過誤	2	「医療過誤と責任」	講義
14	医療過誤	2	医療過誤・具体的事例の紹介	
15	医療過誤	2	演習 医療過誤の具体例を参考に 「責任」を考える	講義 演習
単位修得認定試験		1	筆記試験	

科目名	単位	時間数	講義時期	講師（○＝実務経験者）
看護研究	1	３０	２年前期(通年)	吉田かつえ(○)

科目目的　：科学的･論理的思考を基盤とし、看護の質の向上に向けて研究に取り組むために必要な基礎的知識･技術･態度を身につける

目標　：１．看護研究の必要性を理解する
２．看護研究のプロセス･方法を理解する
３．看護研究における倫理を理解する
４．事例研究（ケーススタディ）を通して看護実践を振り返り、自己の看護に対する考えを明らかにする

教科書　：系統看護学講座　別巻　看護研究
参考文献　：　看護学生のためのケーススタディ　高橋百合子　メヂカルフレンド社

評価方法　：　筆記試験５０％、ケーススタディ５０％（レポート４０％、取り組み姿勢１０％）
評価認定　：　優(８０点以上)、良(７０～７９点)、可(６０～６９点)、不可(６０点未満)の４段階評価とする

授業の進め方：１．1～4 回目までは講義形式、5 回目以降は担当教員と時間調整を行いながら各自での取り組みになりますので、主体的・計画的に進めていきましょう
２．臨地実習で受け持ったケースから１事例を選択し、ケーススタディを行いますので、問題意識を持ちながら実習に取り組み、研究では日々の看護実践の意味をさらに深く掘り下げていきましょう
３．時間を十分かけて文献検索し、日頃から様々な視点で考える習慣をつけていきましょう
４．研究に対する苦手意識は持たず、その都度疑問点は解決しましょう

授業進度と内容

回数	単　元	単元目標	時間	学習内容	授業形態
1 2	看護研究の意義	看護における研究の必要性を理解する 看護研究の種類を理解する 文献検索の必要性と活用方法を理解する	4	1.看護研究の役割 2.看護研究の種類 1)事例研究　2)調査研究　3)実験研究 4)文献研究 3.文献検索 1)看護研究における文献検索の意義 2)文献の種類 3)文献検索と文献検討 4)一次文献と二次文献 5)文献のクリティーク	講義

	単元	単元目標	時間	学習内容	授業形態
		看護研究における倫理的側面を理解する		4.看護研究における倫理的問題とその対応 1)インフォームド・コンセント 2)個人情報の保護 3)プライバシーの尊重	講義
3 4	看護研究のプロセス	看護研究の基本的な要素と進め方を理解する 研究計画書作成の必要性と方法を理解する ケーススタディの目的・方法を理解する	4	1.看護研究のプロセス 1)研究課題（テーマ）の明確化 2)研究方法の選択 (1)量的なアプローチの研究 (2)質的なアプローチの研究 3)研究データの収集方法 4)研究データの分析 5)研究計画書 2.ケーススタディのプロセス 1)ケーススタディの目的 2)ケーススタディとケース検討の違い 3)ケーススタディの進め方 4)ケースレポートの構成・書き方 5)発表の方法・留意点 3.看護実践からケーススタディへ 実習の中で印象に残る場面や疑問を記録して、研究の‘種’を見つけよう	講義
5 6 7 8 9 10 11 12 13 14 15	ケーススタディ	実習で受け持った中から 1 事例を選択し、ケースレポートを作成・発表できる ケーススタディを通して、現時点での自己の看護観を明らかにする	22	1.テーマの決定 2.文献検索 3.研究計画書の作成 4.ケースレポートの作成 1)はじめに　2)事例紹介 3)看護の実際　4)考察 5)結論　6)終わりに 7)引用文献・参考文献 5.発表 1)発表原稿の作成 2)プレゼンテーション資料の作成	担当教員との個別指導 口頭発表
単位修得認定試験			1	筆記試験・ケーススタディ評価表	

事前課題：各講義前には、教科書の該当箇所を熟読する。

ケーススタディ前には、選択した事例に関する資料（実習記録類）の確認・整理を行う。

科目名	単位	時間数	講義時期	講師(○＝実務経験者)
地域・在宅看護論総論Ⅱ	1	１５	２年　前期	照井　レナ(○)

科目目的　：　地域で暮らす人々の生活や健康に影響をおよぼす社会資源や制度と地域で暮らし続けることを支援するケアマネジメントと権利保障の重要性を理解する

目標　：１．地域で暮らす人々の生活や健康に影響を及ぼす社会資源・制度・施策を理解する
２．ケアマネジメントの概念と機能について理解する
３．地域で暮らす人々の権利保障を理解する

教科書　：　系統看護学講座　専門分野　地域・在宅看護論１ 地域・在宅看護の基盤　医学書院

参考文献　：

評価方法　：　筆記試験１００％

評価認定　：　優（８０点以上）、良(７０～７９点)、可(６０～６９点)、不可（６０点未満）の４段階評価とする

授業の進め方：１．事前課題に取り組んでいることを前提とし授業を行います
２．授業では参考資料も活用しながら学習内容の充実を図ります
３．地域医療論・社会福祉・関係法規など、在宅看護に関連する専門基礎分野の学習内容を復習しましょう

授業進度と内容

回数	単　元	単元目標	時間	学習内容	授業形態
1 2 3 4 5 6	地域で暮らす人々を支える法律・制度	地域・在宅看護論に関連する法律と制度、施策を理解する ケアマネジメントの意義・目的・構成・プロセスを理解する	11	１．地域・在宅看護論に関連する法律・制度・施策 ・医療保険制度 ・介護保険制度 ・障害者総合支援法 ・難病法 ・訪問看護制度 ２．ケアマネジメント ・自己決定支援 ・ケアマネジメントの必要性 ・ケアマネジメントの目的・構成要素・プロセス	講義
7 8	地域で暮らす人々の権利保障と看護者の責務	地域で生活する人々の権利保障を理解する		１．地域で暮らす人々の権利保障 ・地域に暮らす人々の権利を保障する日本国憲法（基本的人権の尊重、個人の尊厳の原理） ・自己決定支援（ACP）	講義

回数	単　元	単元目標	時間	学習内容	授業形態
		地域・在宅看護における倫理的課題について理解する	4	２．看護実践上の倫理的課題へのアプローチ ・地域・在宅看護における倫理的課題 ・看護実践上の倫理的概念	講義
単位修得認定試験			1	筆記試験	

科目名	単位	時間数	講義時期	講師(○＝実務経験者)
地域・在宅看護論総論Ⅲ	1	３０	２年　前期	石谷夕子(○)櫻井美奈子(○)

科目目的　：療養の場が移行する際の継続看護の重要性を理解し、多職種と連携・協働するための基礎的能力を身につける

目標　：１．在宅療養における継続看護の必要性を理解する

２．ケアを必要とする個人及び家族を支えるための専門職および多職種連携の必要性と看護の役割を理解する

教科書　：系統看護学講座　専門分野　地域・在宅看護論２ 地域・在宅看護の実践　医学書院

参考文献　：

評価方法　：　筆記試験１００％（石谷５０％　櫻井５０％）

評価認定　：　優（８０点以上)、良(７０～７９点)、可(６０～６９点)、不可（６０点未満）の４段階評価とする

授業の進め方：１．事前課題に取り組んでいることを前提とし授業を行います

２．授業では参考資料も活用しながら学習内容の充実を図ります

３．コミュニケーション能力の向上と視野を広げるために、グループワークを取り入れていきますので、積極的に参加しましょう

単元：　看護の継続性　多職種連携・協働の実際	担当講師：櫻井美奈子
単元：　ケアを必要とする個人及び家族を支えるための専門職および多職種連携の必要性	担当講師：石谷夕子

授業進度と内容

回数	単　元	単元目標	時間	学習内容	授業形態
1 2 3 4	看護の継続性	療養の場の移行に伴う継続看護の必要性を理解する	8	１．継続看護の意義と方法 ２．継続看護の実際 事例：ストーマが造設された対象 認知症のある対象 など ・施設の看護職の立場から ・地域の看護職の立場から	講義
5 6 7 8 9 10 11	ケアを必要とする個人及び家族を支えるための専門職および多	退院支援・退院調整の必要性と看護師の役割を理解する ケアを必要とする個人及び家族を支えるための専門職および多職種連携の必要性	14	１．入院前・入院時の看護 ・健康な時期の看護 ・外来受診期における看護 ・入院時の看護 ２．在宅療養準備期(退院前)の看護 ・退院支援・退院調整が必要となる対象	講義

回数	単　元	単元目標	時間	学習内容	授業形態
	職種連携	と看護の役割を理解する		・退院支援・退院調整に関わる専門職とその役割 ・退院支援・退院調整に関わる看護職の役割 ３．退院支援・退院調整の実際 事例：日常生活動作に変化を生じた対象 神経難病や認知症の対象 入退院を繰り返す対象　など ４．在宅ケアチームの重要性・必要性 ・在宅看護におけるチームアプロ―チと看護師の役割 ・サービス担当者会議の実際 ５．地域包括ケアシステム・地域共生社会における多職種連携 ・医療介護連携 ・地域ケア会議	
12 13 14 15		対象を支援するために多職種と積極的に連携・協働する姿勢を養う	8	１．多職種連携・協働の実際 ・多職種の役割と責務 ・コミュニケーション能力の必要性 ・対象者志向の倫理観 ・多職種で対象者の目標を共有する ・対象者の目標達成、ケアの質向上に向けてともに深く考える 事例：在宅療養を開始する脳血管疾患後遺症を発症した対象と家族を支援するためにはどのような職種との連携が必要になるだろう？	小集団学習
単位修得認定試験			1	筆記試験	

（事前課題）

第１回　看護学概論Ｉの継続看護に関する学習を復習し、国際看護師協会(ICN)大会において継続看護がどのように定義されているかノートに記載しておきましょう。

第5～10回　教科書の該当ページを熟読しておきましょう

第11回　チーム医療論や看護学概論Ｉで学習した他の専門職種の役割をワークシートに整理しておきましょう。

科目名	単位	時間数	講義時期	講師（○＝実務経験者）
成人看護学方法論Ⅰ	1	30	2年　前期	磯田恵美（○）小山内洋子（○）赤石清美（○）

科目目的：急性期にある対象と家族の特徴を理解し、生命の維持と機能回復のために必要な看護を学ぶ

目標：１．急性期看護の特性を理解する
２．呼吸機能障害のある対象の特徴と看護を理解する
３．循環機能障害のある対象の特徴と看護を理解する
４．消化機能障害のある対象の特徴と看護を理解する

教科書　：系統看護学講座　専門分野　成人看護学１　成人看護学総論　医学書院
系統看護学講座　専門分野　成人看護学呼吸器２　成人看護学循環器３　成人看護学消化器５　医学書院

参考文献：ナーシンググラフィカ　健康の回復と看護①　呼吸機能障害/循環機能障害　メディカ出版
ナーシンググラフィカ　健康の回復と看護②　栄養代謝機能障害　　メディカ出版

評価方法：筆記試験 100%（磯田 40%　小山内 30%　赤石 30%）

評価認定：優（80 点以上）、良（70～79 点）、可（60～69 点）、不可（60 点未満）の 4 段階評価とする

授業の進め方：１．１年次の解剖生理学・病態学・臨床看護総論などで学んだ知識をベースとし授業展開していきますので、しっかりと復習をして授業を受けましょう
２．臨地実習で遭遇する可能性がある事例を紹介しながら看護を学習していきます
３．配布された資料はいつでも活用できるように整理・持参してください
４．実習室で実際に体験しながら学ぶ内容もありますので、学内実習・演習の手引きを遵守し臨んでください

単元：	急性期にある対象の看護 呼吸機能障害をもつ患者の看護	担当講師　　磯田恵美
単元：	消化機能障害をもつ患者の看護	担当講師　　小山内洋子
単元：	循環機能障害をもつ患者の看護	担当講師　　赤石清美

授業進度と内容

回数	単　元	単元目標	時間	学習内容	授業形態
1 2 3 4 5	急性期にある対象の看護 呼吸機能障害をもつ患者の看護	急性期看護の概要を理解する 呼吸機能のアセスメントの視点・内容・方法を理解する 呼吸機能の障害が対象の生活に及ぼす影響を理解する 呼吸機能の維持・回復に向けた看護を理解する	10	1．急性期にある成人期の対象と家族 1)急性期における看護の目標 2)身体的・精神的・社会的特徴 2．呼吸器疾患をもつ患者の特徴と看護 1)呼吸器の看護を学ぶにあたって 2)症状のアセスメントと看護 (1)咳嗽・喀痰　(2)血痰・喀血 (3)胸痛　(4)呼吸困難 3)検査を受ける患者の看護 (1)呼吸機能検査 (2)動脈血ガス分析 (3)気管支鏡検査 (4)肺生検	講義

回数	単　元	単元目標	時間	学習内容	授業形態
				(5)胸腔穿刺 4)治療・処置を受ける患者の看護 (1)肺理学療法 体験学習（体位ドレナージ） (2)吸入療法 (3)酸素療法 (4)人工呼吸器 (5)胸腔ドレナージ 5) 代表的な呼吸機能障害をもつ患者のアセスメントと看護 (1)肺炎患者の看護 (2)肺がん患者の看護 (3)気管支喘息患者の看護 (4)慢性閉塞性肺疾患患者の看護 (5)自然気胸患者の看護	講義 体験学習
6 7 8 9 10	循環機能障害のある患者の看護	循環機能のアセスメントの視点・内容・方法を理解する 循環機能の障害が対象の生活に及ぼす影響を理解する 循環機能の維持・回復に向けた看護を理解する	10	1. 循環器疾患をもつ患者の特徴と看護 1)循環器の看護を学ぶにあたって 2)症状のアセスメントと看護 (1)胸痛　(2)動悸　(3)呼吸困難 (4)浮腫　(5)チアノーゼ (6)めまい・失神　(7)四肢の疼痛 3)検査を受ける患者の看護 (1)心電図 体験学習（心電図の装着） (2)血行動態モニタリング (3)心臓カテーテル検査（CAG） 4)治療・処置を受ける患者の看護 (1)冠状動脈ｲﾝﾀｰﾍﾞﾝｼｮﾝ（PCI） (2)冠状動脈バイパス術 (3)ペースメーカ治療 (4)弁置換術・弁形成術 5)心臓リハビリテーションと看護 6) 代表的な循環機能障害をもつ患者のアセスメントと看護 (1)虚血性心疾患（狭心症・心筋梗塞）患者の看護 (2)心不全患者の看護 (3)不整脈患者の看護 (4)動脈系疾患（大動脈解離・下肢動脈閉塞症）患者の看護	講義 体験学習

回数	単　元	単元目標	時間	学習内容	授業形態
11 12 13 14 15	消化機能障害のある患者の看護	消化機能のアセスメントの視点・内容・方法を理解する 消化機能の障害が対象の生活に及ぼす影響を理解する 消化機能の維持・回復に向けた看護を理解する	10	1. 消化器疾患をもつ患者の特徴と看護 1)消化器の看護を学ぶにあたって 2)症状のアセスメントと看護 (1)嚥下困難　(2)おくび・胸やけ (3)嘔気・嘔吐　(4)腹痛 (5)吐血・下血　(6)下痢・便秘 (7)腹部膨満　(8)食欲不振・体重減少 (9)腹水　(10)黄疸 3)検査を受ける患者の看護 (1)造影検査 (2)腹部超音波検査 (3)内視鏡検査 4)治療・処置を受ける患者の看護 (1)栄養療法・食事療法 (2)胃瘻・空腸瘻の造設 5) 代表的な消化機能障害をもつ患者のアセスメントと看護 (1)食道がん患者の看護 (2)胃・十二指腸潰瘍患者の看護 (3)胆道・胆のう炎患者の看護 (4)肝炎・肝硬変患者の看護 (5)大腸がん患者の看護 (6)急性膵炎患者の看護	講義
単位修得認定試験			1	筆記試験	

科目名	単位	時間数	講義時期	講師
成人看護学方法論Ⅱ	1	30	2年　前期	成田淳人（○）三上麻美（○）

科目目的：周手術期にある対象と家族の特徴を理解し、周手術過程に応じた看護を展開できるために必要な基礎的知識・技術・態度を身につける

目標：１．周手術期看護の特性を理解できる
２．周手術各期（術前・術中・術後）の看護の特徴・役割・方法を理解できる
３．術後回復を促進する看護技術（酸素吸入法・吸引法・包帯法）を習得する
４．紙上事例による看護過程の展開を通して、成人期にある対象と家族に対して必要な看護を導き出す思考過程を養う

教科書　：系統看護学講座　別巻　臨床外科看護総論・各論　　医学書院

参考文献：成人看護学　急性期看護Ⅰ　概論・周手術期看護　南江堂
成人看護学　成人看護技術　生きた臨床技術を学び看護実践力を高める　　南江堂
ナーシンググラフィカ　成人看護学④　周手術期看護　　メディカ出版
看護技術プラクティス　一つひとつの根拠がよくわかる！　Gakken

評価方法：筆記試験 50%（成田）　看護過程演習評価表・筆記試験 50%（三上）

評価認定：優（80 点以上）、良（70～79 点）、可（60～69 点）、不可（60 点未満）の 4 段階評価とする

授業の進め方：１．同時期に進行中の治療法概論の内容も踏まえながら授業展開していきます
２．学内実習は事前課題→講義→実習→振り返り(リフレクション)→事後課題の流れで進めていきます
３．臨地実習で遭遇する可能性がある事例を紹介しながら看護を学習していきます
４．配布された資料はいつでも活用できるように整理・持参してください
５．看護過程演習は、周手術期にある対象の事例で展開します

単元：　周手術期にある対象の看護	担当講師　：　成田　淳人
単元：　術後の回復を促す看護技術　看護過程	担当講師　：　三上　麻美

授業進度と内容

回数	単　元	単元目標	時間	学習内容	授業形態
1 2 3 4 5 6 7	周手術期にある対象の看護	周手術期看護の概要を理解できる 周手術期にある対象の特徴を理解できる 術前における看護の特徴・役割・方法を理解する 術前患者に対するアセスメントの視点を理解する	2	1. 周手術期看護の概論 1)手術を受ける患者の状況 (1)手術の種類と適応 (2)生体反応と回復過程 2)チーム医療と看護師の役割 3)周手術期における安全管理 2. 手術前患者の看護 1)手術前の看護の要点・看護師の役割 2)術前準備 (1)手術前のオリエンテーション (2)手術に向けての身体準備 (3)手術室看護師の術前訪問 (4)手術前日・当日の準備	講義

回数	単　元	単元目標	時間	学習内容	授業形態
		術中における看護の特徴・役割・方法を理解する 術中患者に対するアセスメントの視点を理解する	4	3. 手術中患者の看護 1)手術中の看護の要点・看護師の役割 2)手術室の環境管理 (1)手術室の構造・設備 (2)無菌操作 3)入室時の看護 4)麻酔導入時の看護 5)手術中の看護 (1)器械だし　(2)間接介助 6)手術終了時の看護	講義
		術後における看護の特徴・役割・方法を理解する 術後患者に対するアセスメントの視点を理解する	6	4. 手術後患者の看護 1)手術後の看護の要点・看護師の役割 2)術後合併症の予防と看護 (1)呼吸器合併症　(2)循環器合併症 (3)術後イレウス　(4)術後出血 (5)術後感染　　(6)縫合不全 (7)術後せん妄 3)主要な手術を受ける患者の看護 (1)乳房切除術患者の看護 (2)胃切除術患者の看護 4)創傷治癒の看護 (1)創傷処置　(2)ドレーン管理 5)集中治療を受ける患者の看護	講義
		無菌操作の基本を理解し、創傷の早期治癒を促すための技術を原理･原則に基づいて実施できる	2	5. 学内実習 1)項目：無菌操作・創傷処置・包帯法 2)方法 (1)事前課題 ①援助計画書の熟読・DVD 視聴 ②援助計画書に沿った技術練習 (2)学内実習の進め方 ①1 グループ 5 名で「実施者」「介助者」「患者役」「実施者及び介助者の観察者」をローテーションしながら行う ②援助計画書に沿った技術の実施 ③技術評価 (3)リフレクションシートの記載 6. 体験学習 1）包帯法 ①目的・種類・注意点・方法 ②DVD 視聴 ③技術練習	講義 学内実習 DVD

回数	単　元	単元目標	時間	学習内容	授業形態
8 9	術後の回復を促す看護技術	酸素吸入法・吸引法・包帯法の目的を理解し、原理・原則に基づいて技術を実施できる	4	1. 学内実習 1)項目：酸素吸入法・吸引法 2)方法 (1)事前課題 ①学習ノートの作成 a.酸素吸入法 ・酸素の運搬機能 ・酸素吸入療法の概要 ・酸素吸入療法の方法 b.吸引法 ・口腔･鼻腔～気道･気管支･肺の構造 ・目的･根拠･方法 c.包帯法 ・目的･種類･注意点 ②援助計画書の熟読・DVD 視聴 ③援助計画書に沿った技術練習 (2)学内実習の進め方 ①グループ単位で「酸素吸入法」「吸引法」をローテーションする ②援助計画書に沿った技術の実施 ③技術評価 (3)リフレクションシートの記載	学内実習 DVD
10 11 12 13 14 15	看護過程	ヘンダーソン看護論に基づき成人期にある対象の健康上の課題や生活上のニードを明らかにし、課題を解決するために必要な看護を導き出す思考過程を理解する	12	1. 紙上事例による看護過程展開演習 経過別：周手術期 事例：胃がんで腹腔鏡下胃切除術を行う患者の看護(50 歳代･男性) 1)学習方法 (1)個人ワーク ①学習ノートの作成（事前課題） a.発達段階･発達課題 b.疾患に関する解剖生理･病態生理 c.胃がん患者の看護 d.周手術期の看護 ②データベースの記載 ③アセスメント ④全体像(関連図) ⑤看護上の課題の優先順位の決定	協同学習 個人ワーク グループワーク シュミレーション

回数	単　元	単元目標	時間	学習内容	授業形態
				(2)グループワーク ①個人ワークの学習内容を元に、看護計画を立案する (3)全体発表 ①全体像をもとに看護計画内容について発表する ②看護計画に沿って、術後の観察をシュミレーションする (4)リフレクションシートの記載 2)評価方法 成人看護過程演習評価表で評価する	
単位修得認定試験			1	筆記試験　成人看護過程演習評価表	

科目名	単位	時間数	講義時期	講師
成人看護学方法論Ⅲ	1	30	2年　前期	福島亮(○)鎌田たまみ(○)成田淳人(○) 櫛引晴子(○)伊藤　梨絵(○)

科目目的：回復期にある対象と家族の特徴を理解し、生活の再構築と自立を促すために必要な看護を学ぶ
慢性期にある対象と家族の特徴を理解し、自己管理を確立するために必要な看護を学ぶ

目標：1．回復期におけるリハビリテーション看護の特性を理解する
2．運動・脳神経機能障害のある対象の特徴と看護を理解する
3．慢性の経過をたどる成人期にある対象への看護の特性を理解する
4．腎泌尿・内分泌代謝・免疫機能障害のある対象の特徴と看護を理解する

教科書　：系統看護学講座　別巻　リハビリテーション看護　医学書院
系統看護学講座　専門分野　成人看護学1成人看護学総論、成人看護学7脳・神経、
成人看護学10運動器、 成人看護学8　腎・泌尿器、成人看護学6内分泌・代謝　アレルギー
成人看護学11膠原病・感染症、　医学書院

参考文献　：成人看護学　リハビリテーション看護　障害をもつ人の可能性とともに歩む　南江堂
慢性期看護　病気とともに生活する人を支える　南江堂
ナーシンググラフィカ　成人看護学③　セルフマネジマント　MCメディカ出版
成人看護学　慢性期看護論第3版　　ヌーベルヒロカワ

評価方法　：筆記試験100%（鎌田25%　櫛引・伊藤 25% 成田30% 福島20%）
評価認定　：優（80点以上）、良（70～79点）、可（60～69点）、不可（60点未満）の4段階評価とする

授業の進め方：1．1年次の解剖生理学・病態学・臨床看護総論・リハビリテーションなどで学んだ知識をベースとし授業展開していきますので、しっかりと復習をして授業を受けましょう
2．臨地実習で遭遇する可能性がある事例を紹介しながら看護を学習していきます
3．配布された資料はいつでも活用できるように整理・持参してください

単元：　回復期にある対象の看護	担当講師：鎌田たまみ　櫛引晴子　伊藤梨絵
単元：　慢性期にある対象の看護	担当講師：福島　亮　　成田淳人

授業進度と内容

回数	単元	単元目標	時間	学習内容	授業形態
1 2 3 4 5 6 7	回復期にある対象の看	リハビリテーション看護の概要を理解する	2	1. リハビリテーション期にある成人期の対象と家族 1)回復期のリハビリテーション看護 (1)リハビリテーション (2)自立を助ける器具と看護 (3)治療・看護の一貫性と継続性 (4)社会参加・在宅療養に向けて 2)身体的・精神的・社会的特徴	講義
		運動機能のアセスメントの視点・内容・方法を理解する	6	2. 運動器疾患をもつ患者の特徴と看護 1)運動器の看護を学ぶにあたって 2)症状のアセスメントと看護 (1)神経麻痺 (2)循環障害とフォルクマン拘縮	講義

回数	単元	単元目標	時間	学習内容	授業形態
		運動機能の障害が対象の生活に及ぼす影響を理解する 運動機能の維持・回復に向けた看護を理解する		(3)疼痛　(4)出血　(5)感染 (6)深部静脈血栓症　(7)褥瘡 3)検査を受ける患者の看護 (1)単純 X 線検査 (2)磁気共鳴画像法（MRI） (3)脊髄造影検査 (4)関節造影検査 4)治療・処置を受ける患者の看護 (1)保存療法 ①ギプス固定・副子固定 ②牽引療法 (2)手術療法 5)代表的な運動器疾患をもつ患者の看護 (1)大腿骨頸部・大転子部骨折患者の看護 (2)椎間板ヘルニア患者の看護 (3)脊髄損傷患者の看護	講義
		脳・神経機能のアセスメントの視点・内容・方法を理解する 脳・神経機能の障害が対象の生活に及ぼす影響を理解する 脳・神経機能の維持・回復に向けた看護を理解する	6	3. 脳・神経疾患をもつ患者の特徴と看護 1)脳・神経の看護を学ぶにあたって 2)症状・障害のアセスメントと看護 (1)意識障害　(2)言語障害 (3)麻痺　(4)運動失調・不随意運動 (5)痙攣　(6)嚥下障害 (7)排尿障害　(8)頭蓋内圧亢進症状 3) 検査を受ける患者の看護 (1)頭部単純 X 線撮影 (2)コンピューター断層撮影（CT） (3)磁気共鳴撮像法（MRI） (4)脳血管撮影　(5)脳波検査 (6)筋電図検査　(7)脳脊髄液検査 4)治療・処置を受ける患者の看護 (1)手術療法　(2)内科的治療 (3)化学療法　(4)放射線療法 5) 代表的な脳・神経疾患をもつ患者の看護 (1)クモ膜下出血患者の看護 (2)脳梗塞患者の看護 (3)脳腫瘍患者の看護	講義

回数	単　元	単元目標	時間	学習内容	授業形態
				(4)筋萎縮性側索硬化症の患者の看護 (5)パーキンソン病患者の看護	
8 9 10 11 12 13 14	慢性期にある対象の看護	慢性期看護の概要を理解する	2	1. 慢性期にある成人期の対象と家族 1)慢性期における看護の目標 (1)セルフマネジメント支援 (2)継続看護と退院調整 ①成人期の療養生活に使用できる社会資源 2)身体的・精神的・社会的特徴	講義
15		内分泌・代謝機能のアセスメントの視点・内容・方法を理解する 内分泌・代謝機能の障害が対象の生活に及ぼす影響を理解する 内分泌・代謝機能の維持・回復に向けた看護を理解する	6	2. 内分泌・代謝疾患を持つ患者の特徴と看護 1)内分泌・代謝の看護を学ぶにあたって 2)症状のアセスメントと看護 (1)肥満　(2)るい痩　(3)低・高血糖 (4)発汗異常　(5)女性化乳房 (6)テタニー 3)検査を受ける患者の看護 (1)糖負荷試験（OGTT） (2)ホルモン負荷試験 (3)ホルモン血中・尿中濃度測定検査 (4)画像検査 4)治療・処置を受ける患者の看護 (1)食事療法　(2)薬物療法 (3)手術療法 5)代表的な内分泌・代謝疾患をもつ患者の看護 (1)甲状腺疾患患者の看護 (2)下垂体疾患患者の看護 (3)副腎疾患患者の看護 (4)糖尿病患者の看護	講義
		腎・泌尿機能のアセスメントの視点・内容・方法を理解する 腎・泌尿機能の障害が対象の生活に及ぼす影響を理解する	4	3. 腎・泌尿器疾患をもつ患者の特徴と看護 1)腎・泌尿器の看護を学ぶにあたって 2)症状のアセスメントと看護 (1)浮腫　(2)高血圧　(3)疼痛 (4)下部尿路症状　(5)尿の性状異常 3)検査を受ける患者の看護 (1)尿検査	講義

回数	単　元	単元目標	時間	学習内容	授業形態
		腎･泌尿機能の維持･回復に向けた看護を理解する		(2)腎機能検査（PSP 試験・GFR） (3)画像検査（IVU・RP） (4)腎生検 4)治療・処置を受ける患者の看護 (1)透析療法　(2)腎移植 5)代表的な腎・泌尿器疾患をもつ患者の看護 (1)腎不全患者の看護 (2)ネフローゼ症候群患者の看護 (3)尿路尿管結石患者の看護 (4)前立腺肥大症患者の看護 (5)膀胱がん患者の看護	講義
		自己免疫機能のアセスメントの視点・内容・方法を理解する 自己免疫機能の障害が対象の生活に及ぼす影響を理解する 自己免疫機能の維持・回復に向けた看護を理解する	4	4. アレルギーをもつ患者の特徴と看護 1)アレルギーの看護を学ぶにあたって 2)症状のアセスメントと看護 (1)アナフィラキシー　(2)皮膚症状 (3)眼症状 3)検査を受ける患者の看護 (1)血液検査　(2)スキンテスト (3)誘発試験・除去試験 4)治療・処置を受ける患者の看護 (1)アレルゲンの回避・除去 (2)薬物療法　(3)減感作療法 5)代表的なアレルギー疾患をもつ患者の看護 (1)アトピー性皮膚炎患者の看護 (2)アナフィラキシー患者の看護 5. 膠原病をもつ患者の特徴と看護 1)膠原病の看護を学ぶにあたって 2)症状のアセスメントと看護 (1)関節痛・関節炎　(2)発熱 (3)レイノー現象 (4)皮膚・粘膜症状 (5)タンパク尿　(6)筋力低下 3)検査を受ける患者の看護 (1)血液検査（血清・免疫学的検査） (2)穿刺検査 (3)病理組織学的検査	講義

回数	単　元	単元目標	時間	学習内容	授業形態
				4)治療・処置を受ける患者の看護 (1)ステロイド療法　(2)免疫抑制薬 (3)抗リウマチ薬 5)代表的な膠原病をもつ患者の看護 (1)関節リウマチ患者の看護 (2)全身性エリテマトーデス患者の看護 6. 感染症をもつ患者の特徴と看護 1)感染症の看護を学ぶにあたって 2)症状のアセスメントと看護 (1)発熱・不明熱　(2)発疹・発赤 (3)下痢 3)検査を受ける患者の看護 (1)塗抹・培養検査 (2)抗原・抗体検査 4)治療・処置を受ける患者の看護 (1)検体採取　(2)抗菌剤の投与 5)代表的な感染症をもつ患者の看護 (1)HIV/AIDS 患者の看護 (2)敗血症患者の看護	講義
単位修得認定試験			1	筆記試験	

科目名	単位	時間数	講義時期	講師（○＝実務経験者）
成人看護学方法論Ⅳ	1	30	2年　前期	渡辺由美（○）井上里織（○）

科目目的：がんをもつ対象と家族の特徴を理解し、長期化する療養生活を支えるために必要な看護を学ぶ
終末期にある対象と家族の特徴を理解し、最期までその人らしく生きることを支えるために必要な看護を学ぶ
救急看護の概念と対象の特徴を理解し、救急搬送時に看護を展開できるために必要な基礎的知識・技術・態度を身につける

目標：１．がん医療の現状とがん看護の特性を理解する
２．緩和ケアの概要と全人的苦痛の緩和に向けた看護の役割を理解する
３．終末期看護の特性を理解し、自らの死生観を育むことができる
４．救急看護の特性を理解し、救急処置に必要な技術（心肺蘇生法）を習得する

教科書　：系統看護学講座　別巻　　がん看護学　緩和ケア　　医学書院
系統看護学講座　専門分野　成人看護学１成人看護学総論、成人看護学４血液・造血器　医学書院
系統看護学講座　別巻　救急看護学　　医学書院

参考文献：ナーシンググラフィカ　成人看護学⑥　緩和ケア　　メディカ出版
成人看護学　救急看護論　　ヌーベルヒロカワ

評価方法　：筆記試験 100%　渡辺　50%、井上　50%(筆記試験 45%、レポート 5%)
評価認定　：優（80 点以上)、良（70～79 点)、可（60～69 点)、不可（60 点未満）の 4 段階評価とする

授業の進め方：１．同時期に進行中の治療法概論の内容も踏まえながら授業展開していきます
２．緩和ケアの DVD 視聴後にはレポート提出がありますので、形式や期限を守って提出しましょう
３．学内演習は事前課題→講義→演習→振り返り(リフレクション)→事後課題の流れで進めていきます
４．配布された資料はいつでも活用できるように整理・持参してください

単元：　がんをもつ対象の看護 終末期にある対象の看護	担当講師　：　渡辺　由美
単元：　救急医療における対象の看護	担当講師　：　井上　里織

授業進度と内容

回数	単　元	単元目標	時間	学習内容	授業形態
1 2 3 4 5 6	がんをもつ対象の看護	がん医療の現状を理解する がん看護の概要を理解する がん治療における看護の役割を理解する	6	1．がん医療の現在と臨床経過 1)がん対策推進基本計画 2)がん患者の臨床経過 (1)がんの診断から治療まで (2)治療と経過観察 3)がん看護の概念 (1)エビデンスに基づく看護実践 (2)がん患者の苦痛・合併症に対するマネジメント	講義

回数	単　元	単元目標	時間	学習内容	授業形態
				(3)がん患者とのコミュニケーション (4)セルフヘルプグループ (5)がんの予防と早期発見 4)がん治療と看護 (1)がん治療における看護の重要性 ①治療完遂 ②患者主導の治療参加 ③治療継続のための管理 ④がんリハビリテーション ⑤チームアプローチ (2)手術療法における看護 (3)薬物療法における看護 (4)放射線療法における看護 (5)外来におけるがん看護	講義
		緩和ケアの概要を理解する 緩和ケアを必要とする対象の全人的苦痛を理解する 緩和ケアにおける看護師の役割を理解する	4	2．緩和ケア 1)緩和ケアの現状 (1)緩和ケアの理念 (2)さまざまな場における緩和ケア (3)チームアプローチ (4)倫理的課題 2)緩和ケアの対象と看護の特徴 3)緩和ケアにおける看護実践 (1)身体的ケア (2)精神的ケア（スピリチュアルケア） (3)社会的ケア (4)家族ケア	講義
		血液造血機能のアセスメントの視点・内容・方法を理解する 血液造血機能の障害が生活に及ぼす影響を理解する 血液造血機能の維持・回復に向けた看護を理解する	2	3．血液造血器疾患をもつ患者の特徴と看護 1)血液・造血器の看護を学ぶにあたって 2)症状のアセスメントと看護 (1)貧血　(2)出血傾向 (3)白血球減少 3)検査を受ける患者の看護 (1)血液検査 (2)骨髄穿刺・骨髄生検 4)治療・処置を受ける患者の看護 (1)輸血療法 (2)造血幹細胞移植	講義

回数	単　元	単元目標	時間	学習内容	授業形態
				5)代表的な造血器腫瘍の患者の看護 (1)白血病患者の看護	
7	終末期にある対象の看護	終末期看護の概要を理解する 現時点での死に対する自身の考えを表現できる	2	1. 人間にとっての死 1)死の概念 2)死の判定 3)死をめぐる倫理的課題 (1)尊厳死・安楽死 (2)鎮静（セデーション） (3)脳死 2. 危篤時に特徴的な症状と看護 (1)呼吸困難・死前喘鳴 (2)せん妄 (3)倦怠感 3. 臨終時のケア 1)臨終時の一般的な流れ 2)死亡の確認と死亡診断書 3)死後のケア 4. 遺族ケア	講義
8 9 10 11 12 13 14 15	救急医療にある対象の看護	救急看護の概要を理解する	2	1. 救急看護の概念 1)救急看護の定義と看護師の役割 2)わが国の救急医療体制と対応 (1)初期救急医療体制 (2)二次救急医療体制 (3)三次救急医療 3)救急看護と法的・倫理的側面 2. 救急看護の対象の理解 1)救急患者の特徴 2)救急患者家族の特徴	講義
		救急看護における観察の意義・特性を理解する 各部位の系統的観察方法を理解する	4	3. 救急患者の観察とアセスメント 1)救急看護における観察・アセスメントの特徴 2)初期観察とアセスメントの視点 3)緊急度・重症度の判断 4)各系統別の観察とアセスメント	講義
		救急時に見られる主要病態に対する看護のポイントを理解する	4	4. 主要病態に対する救急処置と看護 1)心肺停止状態への対応 (1)一次救命処置（BLS） (2)二次救命処置（ALS）	講義

回数	単　元	単元目標	時間	学習内容	授業形態
				2)意識障害への対応 3)呼吸障害への対応 4)ショック・循環障害への対応 5)急性腹症への対応 6)体液・代謝異常への対応 7)外傷への対応 8)熱傷への対応 9)中毒への対応 10）精神症状への対応	講義
		救急処置法の原則と看護の実際を理解する	6	1. 学内実習 1)項目:心肺蘇生法 2)方法 (1)事前課題 ①DVD の視聴 ②心肺蘇生法の援助計画書の作成 ③援助計画書に沿った技術練習 (2)学内演習の進め方 ①グループ単位で「モデル人形による心肺蘇生法」「バックバルブマスク法人工呼吸と回復体位の体験」「BLS の意義についてのディスカッション」をローテーションする ②援助計画書に沿った技術の実施 ③技術評価 ④リフレクションシートの記載 ⑤「看護師として実施する，病院内の BLS（一次救命処置）の意義」について学内実習を通して学んだことや考えたことをレポートする．（A4 用紙 1 枚程度 10.5 ポイントで作成したものを提出）	学内実習 DVD
単位修得認定試験			1	筆記試験	

科目名	単位	時間数	講義時期	講師　(○＝実務経験者)
老年看護学方法論Ⅰ	1	３０	２年　前期	富田理哉(○)　鈴木真理子(○) 原谷珠美(○)

科目目的　：　高齢者に多い健康障害の特徴と健康回復及び終末期における看護を学ぶ

目標　：１．高齢者に多い健康障害の成り立ちと臨床的特徴を理解する
２．高齢者に起こりやすい疾患の病態生理・症状・検査・治療を理解する
３．身体可動性障害のある高齢者に対する看護を理解する
４．コミュニケーション障害のある高齢者に対する看護を理解する
５．認知機能障害のある高齢者に対する看護を理解する
６．終末期にある高齢者とその家族に対する看護を理解する

教科書　：　系統看護学講座　専門分野　老年看護学　　医学書院
系統看護学講座　専門分野　老年看護　病態・疾患論　医学書院

参考文献　：　新体系　看護学全書　老年看護学①　老年看護学概論老年保健　メヂカルフレンド社
ナーシンググラフィカ　老年看護学①　高齢者の健康と障害　　メディカ出版

評価方法　：　筆記試験１００％（富田５０％　鈴木１０％　原谷４０％）

評価認定　：　優（８０点以上）、良(７０～７９点)、可(６０～６９点)、不可（６０点未満）の４段階評価をする

授業の進め方：１．１年次の解剖生理・病態学で学んだ知識がベースとなり、老化による影響を踏まえ高齢者の健康障害について学んでいきますので、一般的な解剖生理・病態学に関する知識の復習・確認をしながら授業を受けましょう
２．実習で遭遇する可能性がある事例を紹介しながら看護を学んでいきます
３．高齢者理解のための理論を紹介しながら必要な看護について学んでいきます
４．真摯な態度で授業に臨むことを期待します

単元：高齢者の特徴的な疾患・症状・検査と看護	担当講師：富田　理哉
単元：認知症障害をきたす疾患・要因と看護	担当講師：鈴木真理子
単元：身体可動性障害、コミュニケーション障害にある高齢者の看護 高齢者の終末期における看護	担当講師：原谷珠美

授業進度と内容

回数	単　元	単元目標	時間	学習内容	授業形態
1 2 3 4 5 6	高齢者に特徴的な疾患･症状・検査と看護	高齢者に多い健康障害の成り立ちと看護について理解する	12	1. 高齢者に多い健康障害の成り立ち・臨床的特徴 1)摂食･嚥下障害 2)低栄養、やせ 3)熱中症、脱水 4)尿失禁・便秘・下痢 5)睡眠障害(不眠) 6)皮膚掻痒症 7)浮腫 8)倦怠感	講義

回数	単元	単元目標	時間	学習内容	授業形態
		身体可動性障害をきたす疾患・要因を理解する		2. 高齢者に起こりやすい疾患の病態生理･検査･治療 1)呼吸器疾患：肺炎、慢性閉塞性疾患 2)循環器疾患：心不全、不整脈 3)消化器疾患：逆流性食道炎 4)脳神経疾患：脳梗塞、脳出血、パーキンソン病 5)感染症疾患：ノロウイルス・インフルエンザ・尿路感染症 6)その他：前立腺肥大症、疥癬 3. 身体可動性に障害をきたす疾患・要因 1)高齢者の日常生活動作に影響を及ぼす原因・要因 (1)運動器疾患：大腿骨頸部骨折 変形性膝関節症 腰部脊柱管狭窄症 骨粗鬆症 (2)症状：痛み・痺れ・めまい	講義
7 8 9 10	身体可動性障害にある高齢者の看護 コミュニケーション障害のある高齢者の看護	身体可動性障害にある高齢者の看護を理解する コミュニケーション障害をきたす疾患・要因と看護について理解する	8	1. 身体可動性に障害のある高齢者の看護 1)転倒のアセスメントと看護 (1)転倒の要因 (2)転倒リスクのアセスメント (3)転倒予防に向けた看護 (4)転倒した高齢者への看護 2)廃用症候群のアセスメントと看護 (1)廃用症候群の主な症状 (2)廃用症候群の早期発見･予防に向けた看護 3)褥瘡のアセスメントと看護 (1)褥瘡の発生機序 (2)褥瘡リスクのアセスメント (3)褥瘡予防と看護ケア 2. コミュニケーション障害のある高齢者の看護 1)高齢者に起こりやすいコミュニケーション障害の原因・症状・分類・看護	講義 ＤＶＤ

回数	単元	単元目標	時間	学習内容	授業形態
11 12 13	認知機能障害のある高齢者の看護	認知機能障害をきたす疾患・要因と看護について理解する	6	1.. 認知機能障害のある高齢者の看護 1)うつ病のアセスメントと看護 (1)高齢者のうつ病の背景と特徴 (2)看護のポイント 2)せん妄のアセスメントと看護 (1)高齢者のせん妄 (2)せん妄のリスク要因と予防 (3)せん妄発生時の看護 3)認知症のアセスメントと看護 (1)認知症の病態と要因 (2)認知症をきたす疾患の診断と治療 ①アルツハイマー病 ②血管性認知症 ③レビー小体型認知症 ④前頭側頭型認知症 (3)中核症状・行動・心理症状 (4)認知症の評価 (5)看護の実際 ①コミュニケーションの方法 ②環境づくり ③日常生活ケア ④行動・心理症状(BPSD)への対応	講義
14 15	高齢者の終末期における看護	高齢者の死亡に関する現状を理解する 終末期のプロセスと高齢者の意思決定の尊重について理解する エンドオブライフケアの概要を理解する 看取りに関わる家族に対する看護を理解する	4	1. 高齢者の喪失体験と死 1)高齢者の死因 2)高齢者が体験する様々な喪失体験 3)高齢者が望む「死」と「最期の場」 4)終末期のプロセス（４類型） 5)終末期における意思決定 (1)インフォームドコンセント (2)事前指示書（リビングウィル） 2. エンドオブライフケア 1)終末期の身体徴候とアセスメント 2)合併症の予防と苦痛の緩和 3)日常生活の援助 4)終末期を支えるチームアプローチ	講義 ＤＶＤ

単元	単元目標	時間	学習内容	授業形態
			3．家族へのグリーフケア 1)家族のケアへの参加 2)適切な情報提供（目的・時期） 3)高齢者と家族が過ごす場の環境調整 4)予期悲嘆（悲嘆のプロセス：デーケン） 5)看取りを終えた家族へのケア (1)看取り時の家族への配慮 (2)セルフヘルプグループ (事後課題)レポート提出	講義
単位修得認定試験		1	筆記試験	

＜事前課題＞

1．　老年看護学　医学書院　第 4 章「高齢者によく見られる身体症状とアセスメント」、第 6 章「健康逸脱からの回復と終末期を支える看護」の該当部分を熟読する。

2．　一般的な解剖生理・病態生理の復習をする。

＜事後学習＞

高齢者の終末期における看護（レポート課題）

「私の死生観」について、A4 レポート用紙 1 枚程度に内容整理し、講義終了 3 日後に提出する。

科目名	単位	時間数	講義時期	講師　(○＝実務経験者)
老年看護学方法論Ⅱ	1	３０	2年　前期	齊藤まどか(○)　浦島愛佳(○)

科目目的：高齢者の健康上の課題を科学的根拠に基づいて判断・解決する思考過程と高齢者の生活を支える援助技術を習得する

目標：１．老年看護技術の特徴を理解する
２．高齢者の移乗・移動に関するアセスメントを理解し、安全・安楽な援助技術を習得する
３．高齢者の摂食・嚥下機能に関するアセスメントを理解し、安全・安楽な援助技術を習得する
４．高齢者の排泄機能に関するアセスメントを理解し、安全・安楽な援助技術を習得する
５．高齢者の清潔保持に関するアセスメントと援助方法を理解する
６．高齢者のコミュニケーション機能に関するアセスメントと援助方法を理解する
７．高齢者の生活リズムに関するアセスメントと援助方法を理解する
８．紙上事例による看護過程の展開を通して、高齢者と家族に対して必要な看護を導き出す思考過程を養う

教科書　：　系統看護学講座　専門分野　老年看護学　　医学書院

参考文献　：　ナーシング看護学テキスト　NICE　老年看護学技術　南江堂
看護実践のための根拠がわかる　老年看護技術　メヂカルフレンド社
ナーシンググラフィカ　老年看護学①　高齢者の健康と障害　メディカ出版

評価方法　：　齊藤 70%（ 筆記試験・看護過程　）　浦島 30%　筆記試験

評価認定　：　優（８０点以上）、良(７０～７９点)、可(６０～６９点)、不可（６０点未満）の４段階評価をする

授業の進め方：１．事前課題に取り組んでいることを前提とし授業を行います
２．学内演習は事前課題→講義→演習→振り返り(リフレクション)→事後課題の流れで進めていきます
３．学内演習は実際の場面を想定して行いますので、看護を目指す者としての自覚と責任を持ち、技術の向上を目指して主体的に臨みましょう
４．コミュニケーション能力の向上と視野を広げるために、看護過程演習ではプロジェクト学習を取り入れますので、積極的に参加しましょう

単元：高齢者の生活を支える援助技術（食事援助・排泄援助）、看護過程	担当講師：齊藤まどか
単元：高齢者の生活を支える援助技術（老年看護技術実践に必要な要素・ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ・移乗移動・生活リズム・清潔保持）	担当講師：浦島愛佳

授業進度と内容

回数	単　元	単元目標	時間	学習内容	授業形態
1	高齢者の生活を支える援助技術	高齢者の特徴・老化の影響を加味した技術実践の必要性を理解する	2	1. 老年看護技術実践に必要な要素 1)老年看護の目的・目標の明確化 2)老年看護に関する専門的知識 3)高齢者の反応に応じた対応	講義

回数	単　元	単元目標	時間	学習内容	授業形態
				4)看護師自身の看護観と技術習熟度	講義
2		高齢者にとってのコミュニケーションの意義・アセスメント・援助方法を理解する	2	1 コミュニケーションに関する援助 1)高齢者にとってのコミュニケーションの特徴・意義 2)高齢者とのかかわり方の原則 3)コミュニケーションに関するアセスメント 4)コミュニケーションに関する看護技術	講義
3 4		高齢者にとっての移乗・移動の意義を理解する 移乗・移動に関するアセスメントを理解する 安全・安楽な移乗・移動動作に対する援助技術を実践する	2 2	2. 日常生活を支える基本動作のアセスメントと看護技術 1)移乗・移動に関する援助技術 (1)日常生活動作の評価指標 (2)移乗・移動に影響する因子 (3)移乗・移動に関するアセスメント (4)移乗・移動に関する看護技術 (5)学内実習 ①項目：片麻痺がある高齢者の車椅子移乗・移動 ②方法 a.事前課題 ・片麻痺の動作体験 ・DVD の視聴 ・援助計画書に沿った技術練習 b.学内実習の進め方 ・グループ内で「看護師役」「高齢者役」「観察者」をローテーションする ・援助計画書に沿った技術の実施 ・技術評価 ・リフレクションシートの記載	講義 DVD 学内実習
5		高齢者にとっての生活リズムを整える意義・アセスメント・援助方法を理解する	2	1.生活リズムに関する援助 1)高齢者にとって生活リズムを整える意義 2)高齢者に特徴的な変調 3)生活リズムに関するアセスメント 4)生活リズムに関する看護技術	講義

回数	単　元	単元目標	時間	学習内容	授業形態
6		高齢者にとっての清潔保持の意義・アセスメント・援助方法を理解する	2	1.清潔に関する援助 1)高齢者にとっての清潔保持の意義 2)高齢者に特徴的な変調 3)清潔に関するアセスメント 4)清潔に関する看護技術	講義
7 8		高齢者の食生活に注目する意義を理解する 食事に関するアセスメントを理解する 安全・安楽な食事摂取に対する援助技術を実践する	2 2	1.食事に関する援助技術 1)高齢者にとっての食事とは 2)食事に影響する因子 3)食事に関するアセスメント 4)食事に関する看護技術 5)学内演習 ①項目：嚥下機能が低下している高齢者の食事介助・口腔ケア ②方法 a.事前課題 ・DVD の視聴 ・援助計画書に沿った技術練習 b.学内演習の進め方 ・グループ内で「看護師役」「高齢者役」「観察者」をローテーション ・援助計画書に沿った技術の実施 ・技術評価 ・リフレクションシートの記載	講義 DVD 学内実習
9 10		高齢者の尊厳を守った排泄援助の重要性を理解する 排泄に関するアセスメントを理解する 安全・安楽な排泄に対する援助技術を実践する	2 2	1.排泄に関する援助技術 1)高齢者にとっての排泄行動自立の意義 2)老化による排泄機能の変化 3)排泄に関するアセスメント 4)排泄に関する看護技術 5)学内演習 ①項目：意識障害がある高齢者の陰部洗浄・おむつ交換 ②方法 a.事前課題 ・DVD の視聴 ・援助計画書の作成 ・援助計画書に沿った技術練習	講義 DVD 学内演習

回数	単　元	単元目標	時間	学習内容	授業形態
				b.学内演習の進め方 ・グループ内で「看護師役」「介助者」「観察者」をローテーションする ・高齢者役はモデル人形を使用する ・援助計画書に沿った技術の実施 ・技術評価 ・リフレクションシートの記載	
11 12 13 14 15	看護過程の展開	ヘンダーソン看護論に基づき高齢者の健康上の課題や生活上のニードを明らかにし、課題を解決するために必要な看護を導き出す思考過程を理解する	10	1. 紙上事例による看護過程展開演習 経過別：終末期 事例：肺がんの再発･転移で緩和ケアを必要とする高齢者の看護（70歳代･男性） 1)学習方法 (1)個人ワーク ①ワークシートの作成 a.発達段階･発達課題 b.疾患に関する解剖生理･病態生理を学習し、病態関連図を作成 c.肺がん患者の看護 d.終末期の看護 ②データベースの記載 ③アセスメント ④全体発表後の看護計画の立案 (2)グループワーク ①個人ワークの学習内容(①~③)を元に全体像（関連図）を作成する ②看護上の課題の抽出と優先順位の根拠の明確化 (3)全体発表 ①全体像・看護上の課題・優先順位の根拠について発表する (4)リフレクションシートの記載 2)評価方法 老年看護過程演習評価表で評価する	講義 協同学習 個人ワーク グループワーク
単位修得認定試験			1	筆記試験・老年看護過程演習評価表	

＜事前課題＞

（高齢者の生活を支える援助技術）

1. 老年看護学総論Ⅰで学んだ、老化による身体機能の変化について復習する。

（看護過程の展開）

1. 学習内容に記載している個人ワークの内容を紙上事例に沿いながらワークシートを使用し学習を行う。

科目名	単位	時間数	講義時期	講師(○=実務経験者)
小児看護学総論Ⅱ	1	３０	２年前期	山谷敬三郎(○)松浦信夫(○)坂本容子(○)

科目目的　：　小児各期の成長発達･栄養の特徴を学ぶ
小児各期における生活の特徴を学び、その家族を理解する
子どもと親を支援するための法律･政策･母子保健について学ぶ

目標　：　１．小児各期の成長発達･栄養の評価を理解する
２．小児各期の特性と生活を理解する
３．小児保健の意義と動向を理解し、精神衛生･保健活動を学ぶ

教科書　：　系統看護学講座　専門分野 小児看護学１ 小児看護学概論 小児臨床看護総論
医学書院

参考文献　：　ﾅｰｼﾝｸﾞ･ｸﾞﾗﾌｨｶ　小児看護学①　小児の発達と看護　　MC メディカ出版

評価方法　：　筆記試験１００％（山谷２０％　松浦４０％　坂本４０％）

評価認定　：　優(８０点以上)、良(７０～７９点以上)、可(６０～６９点以上)、不可(６０点未満)の４段階評価とする

授業の進め方

１．各期の子どもの成長・発達、健康、家族、看護について学び、子どもと家族の全体像を理解していく学習をします

２．講義資料・ワークシート・子どもノートを活用し、学習目標を達成していきましょう

３．DVD 視聴・幼児疑似体験を通して、子どもの可視化が図れるよう進めていきます

単元：　子どもと家族を取り巻く社会	担当講師：　山谷敬三郎
単元：　子どもの成長発達･子どもの栄養	担当講師：　松浦信夫
単元：　小児各期の特徴と生活、家族ｱｾｽﾒﾝﾄ	担当講師：　坂本容子

授業進度と内容

回数	単　元	単元目標	時間	学習内容	授業形態
1 2 3 4 5 6	小児の成長・発達	小児期の成長・発達の基本的な特性を理解する	12	1.　成長発達とは 1)　小児看護学における発達論 2)　小児期の発達段階の区分 3)　発達の領域 2. 成長・発達の進み方(一般的原則) 1)　方向性・順序性 2)　発達の時期　3) 成熟と学習 3. 成長・発達に影響する因子 1)　遺伝的因子　2)　環境因子 4. 成長の評価 1)　身長･体重　2)　頭囲・胸囲 3)　生歯　4)　骨の発育	講義

回数	単　元	単元目標	時間	学習内容	授業形態
				5)　思春期の身体の変化 5. 発達評価の方法 1)　発達評価の目的 2)　発達評価の方法 6. 形態的特徴･身体生理の特徴および 感覚運動機能・情緒社会的機能 1) 新生児・乳児　2)幼児・学童 3) 思春期・青年期	
7	小児の 栄養	子どもにとっての栄養の意義と発達段階の栄養の特徴を理解する	2	1.　子どもにとっての栄養の意義 2.　子どもの食育 3.　食事摂取基準 4.　発達段階の子どもの栄養の特徴と看護 1)　乳児期の栄養 2)　幼児期の栄養 3)　学童期･思春期の栄養	講義
8 9 10 11 12	小児各期における生活の特徴	各発達段階の特徴と生活の特徴を理解する	10	1.　新生児･乳児 1)　新生児の養育および看護 2)　乳児の養育および看護 2.　幼児・学童 1)　幼児の養育および看護 2)　小児期の発達段階・発達課題に対する理論 ・エリクソン ・ピアジェ ・ボウルビー 3) 幼児理解をするため体験学習 幼児の視野と手を疑似体験後グループにて体験からの学びを発表し共有する 4)　学童の養育および看護 3.　思春期・青年期の子ども 1)　生活の特徴 2)　心理・社会的適応に関する問題 3)　反社会的・逸脱行動 4)　思春期の看護	講義 DVD 視聴 幼児疑似 体験 共同学習 発表

回数	単　元	単元目標	時間	学習内容	授業形態
				４．各期の安全教育・事故防止 1）具体的な事故事例	
13	家族の特徴とｱｾｽﾒﾝﾄ	子ども・家族ともに家族としての発達を理解し、相互作用によって成り立っていることを理解する	2	1.　子どもにとっての家族 1)家族とは　2)現代家族の特徴 2.　家族のｱｾｽﾒﾝﾄ 1)子どもを持つ家族のｱｾｽﾒﾝﾄの留意点目的 2)家族にとっての意味 (1) 構造的・機能的側面 (2) 発達段階・家族の役割 (3) さまざまな状況の家族	講義
14 15	小児と家族を取り巻く社会	小児が擁護・養護され健やかに生まれ育つための法律や政策を理解する	4	1.　児童福祉 1)児童福祉の歴史　2)現在の児童福祉 2.　母子保健 1)母子保健の歴史　2)現在の母子保健 3.　医療費の支援 1)　未熟児養育医療 2)　小児慢性特定疾患治療研究事業 4.　予防接種 1)予防接種の歴史　2)現在の予防接種 3)副反応と健康被害救済制度 5.　学校保健 1)学校保健の歴史　2)健康診断 3)健康相談　4)感染予防 5)学校保健活動の推進 6.　心理的発達障害 1)学習障害　2)広汎性発達障害 7.　特別支援教育 8.　臓器移植法	講義
単位修得認定試験			1	筆記試験・こどもノート	

事前課題：課題は、講義時にその範囲を指定します

事後学習：講義毎に子どもノートを記載し、講義終了後指定された日に提出

科目名	単位	時間数	講義時期	講師（○=実務経験者）
小児看護学方法論Ⅰ	1	３０	2年前期	松浦　信夫（○）

科目のねらい

小児の健康障害の特徴と小児期に多い健康障害の病態･診断･経過･治療を学ぶ

教科書　：　系統看護学講座　専門分野　小児看護学２　小児臨床看護各論　医学書院

参考文献　：　都度提示

評価方法　：　筆記試験　１００％

評価認定　：　優(８０点以上)、良(７０～７９点以上)、可(６０～６９点以上)、不可(６０点未満)の４段階評価とする

授業の進め方

教科書・配付資料を中心に授業をすすめていきます。

授業進度と内容

回数	単　元	時間	学習内容	授業形態
1 2	染色･先天異常、新生児の疾患	4	1.　染色体異常・先天異常 1)　常染色体異常　2)性染色体異常 2.　新生児の疾患 1)　分娩損傷・適応障害 2)　低出生体重時の疾患 3)　成熟異常	講義
3 4	代謝、内分泌疾患	4	1.　代謝性疾患　新生児ﾏｽｰｽｸﾘｰﾆﾝｸﾞ 1)ムコ多糖症　2)骨形成不全症 3)糖尿病１型 2.　内分泌疾患 1)成長ホルモン分泌不全性低身長症	
5 6	免疫･アレルギー疾患、感染症	4	１．免疫疾患・アレルギー性疾患 1)食物アレルギー　2)気管支喘息 3)アトピー性皮膚炎 2. 感染症 1)　ウイルス感染症 麻疹･風疹･伝染性紅斑・水痘 手足口病・ヘルパンギーナ インフルエンザ･急性灰白髄炎 2)　細菌感染症 百日咳･ｼﾞﾌﾃﾘｱ・溶血性ﾚﾝｻ球菌感染症	

回数	単元	時間	学習内容	授業形態
7 8 9	呼吸器、循環器疾患	6	1. 呼吸器疾患 1)クループ症候群　2) 気管支炎・肺炎 2. 循環器疾患 1) 心室中隔欠損症　心房中隔欠損症 動脈管開存症 2) ファロー四徴症　川崎病 乳幼児突然死症候群	講義
10 11	消化器、血液･造血器疾患	4	1. 消化器疾患 1) 口唇･口蓋裂 2) 肥厚性幽門狭窄症　ヒルシュスプリング病　鎖肛　腸重積症 3) ロタウイルス感染症 2. 血液･造血器疾患 1) 再生不良性貧血　溶血性貧血 2) 特発性血小板減少性紫斑病 3) 好中球減少症 4) 血友病	
12 13	悪性新生物、 腎･泌尿器疾患	4	1. 悪性新生物 1) 急性リンパ性白血病 急性骨髄性白血病 2) 神経芽腫 2. 腎･泌尿器疾患 1) 糸球体腎炎　ネフローゼ症候群 2) 神経芽腫　ウイルムス腫瘍	
14 15	神経疾患、事故･外傷 救急蘇生法	4	1. 神経疾患 1) てんかん　脳性麻痺 2) 二分脊椎　水頭症 2. 事故･外傷 1) 溺水　2)熱傷　3)熱中症 3. 子どもの救急蘇生法	
単位修得認定試験		1	筆記試験	

科目名	単位	時間数	講義時期	講師(○＝実務経験者)
精神看護学総論Ⅱ	1	３０	２年前期	佐々木　美貴子(○)

科目目的　：ライフサイクルにおける心の健康と成長発達について学び、保健医療福祉チームにおける精神保健活動について学ぶ

目標　：１．精神保健の概念について理解する
２．心と健康、成長、発達とそれに影響を与える要因について理解する
３．精神保健の動向について学び、現状の問題や課題について理解する
４．精神保健活動と看護の役割を理解する

教科書　：系統看護学講座　精神看護学１　精神看護の基礎　第６版　医学書院
系統看護学講座　精神看護学２　精神看護の展開　第６版　医学書院

参考文献：その都度紹介します

評価方法　：　筆記試験１００％

評価認定　：　優(８０点以上)、良(７０～７９点)、可(６０～６９点)、不可(６０点未満)の４段階評価とする

授業の進め方：１．教科書、配布資料を基に進めていきます

授業進度と内容

回数	単　元	単元目標	時間	学習内容	授業形態
1 2	精神保健の概念	精神保健の概念について理解する	4	1. 精神保健の定義 2. 精神保健の領域 3. 現代社会と精神保健	講義
3 4 5 6 7	成長･発達と危機	成長・発達と危機的状況について理解する	10	1. ライフサイクルと精神保健 1)心の発達理論 (1)ピアジュ発生的認識論 (2)精神分析理論（フロイト） (3)人格の漸成発達理論（エリクソン） 2)成長各期の発達 (1)胎児期　(2)乳児期　(3)幼児期 (4)学童期　(5)青年期　(6)壮年期 (7)老年期 2. 危機状況と心の働き 1)危機とは (1)危機状況 (2)危機の段階	講義

授業進度と内容

回数	単　元	単元目標	時間	学習内容	授業形態
				2)発達段階での危機の諸相と危機介入 (1)乳幼児期　(2)学童期　(3)思春期 (4)壮年期　　(5)老年期	講義
8 9 10 11 12	現代社会における精神保健	現代社会における精神保健を理解する	10	1. 生活の場と精神保健 1)暮らしの場と精神保健 (1)家族の機能と家族形態の変化 (2)家族における精神保健上の問題 2)教育の場と精神保健 (1)現代の教育環境と心の健康 (2)学校における精神保健上の問題 3)職場の精神保健 (1)職場の環境変化と心の健康 4)地域と精神保健 (1)人間関係の希薄化と心の健康 (2)様々な社会問題とその様態 ２. 医療現場における危機の諸相 1)発病に伴う危機状況 2)入院中におこる危機状況 (1)現代医療の意味 (2)現代医療がもたらす精神障害 ①せん妄(状態像、対応) ②抑うつ(状態像、対応) ③不眠(状態像、対応) 3)救急医療における危機状況 4)終末期における危機状況 3. 特殊状況（災害時）における危機の諸相 1)危機状況の基本的理解 2)自然災害時の危機 3)性的暴力被害時の危機状況	講義

回数	単　元	単元目標	時間	学習内容	授業形態
13 14 15	精神保健活動の実際と今後の課題	精神保健活動と今後の課題を理解する	6	1. 精神保健の歴史 1)日本における精神保健、欧米における保健 2. 精神保健福祉法と医療行政 1)病院における医療及び保護 2)入院医療 (1)入院医療の特徴 (2)入院患者の処遇 (3)訪問看護 3. 地域精神保健福祉活動 1)目的と行政組織 2)各組織の役割 ４. リエゾン精神医学とリエゾン看護について 1)リエゾン精神医学の概念と歴史 2)リエゾン精神看護の発達 3)わが国におけるリエゾン精神看護師の活動	講義
単位修得認定試験			1	筆記試験	

科目名	単位	時間数	講義時期	講師(○＝実務経験者)
精神看護学方法論Ⅰ	1	３０	２年前期	村本　好孝(○)

科目目的　：精神神経障害の特徴と主な精神疾患の原因、診断、治療について学ぶ
目標　：１．主な精神症状と精神疾患について理解する
２．主な臨床検査と治療について理解する
３．リエゾン精神医学について理解する

教科書　：系統看護学講座　精神看護学１　精神看護の基礎　第６版　医学書院
系統看護学講座　精神看護学２　精神看護の展開　第６版　医学書院
参考文献：その都度紹介します

評価方法　：　筆記試験１００％
評価認定　：　優(８０点以上)、良(７０～７９点)、可(６０～６９点)、不可(６０点未満)の４段階評価とする

授業の進め方：１．教科書・配布資料を基に進めていきます

授業進度と内容

回数	単　元	単元目標	時間	学習内容	授業形態
1 2 3 4 5 6 7 8	精神障害者の理解	精神に障害をもつ人を理解するための基礎的知識としての精神症状と精神疾患を理解する	16	1．精神症状の種類 1)知覚の障害 2)思考の障害 3)思考内容の障害（妄想） 4)自我意識の障害 5)感情の障害 6)意欲、行動の障害 7)意欲障害 8)知能障害 9)記憶の障害 2．状態像（症状群） 1)不安状態 2)心気状態 3)幻覚妄想状態 4)抑うつ状態 5)精神運動状態 6)昏迷状態 7)無為、自閉状態 8)引きこもり状態 3．中枢神経症状 1)巣症状 (1)失語　(2)運動性失語	講義

回数	単　元	単元目標	時間	学習内容	授業形態
				(3)感覚性失語　(4)身体部位失認 4. 精神障害の分類 1)内因性精神障害 (1)統合失調症　(２)躁うつ病 (3)てんかん 2)外因性精神障害 (1)症状精神病 (2)アルコール依存と薬物依存 (3)脳器質性精神障害 (4)てんかん 3)心因性精神障害 (1)神経症　(2)心因性精神病 4)精神遅滞 5)性格異常	講義
9 10 11 12 13	精神障害を持つ人に行われる主な検査・治療	精神に障害を持つ人に行われる主な検査治療について理解する	10	1. 検査 1)頭部放射線検査 (1)頭蓋単純Ｘ－Ｐ(2)ＣＴスキャン (3)ＭＲＩ 2)脳波検査 3)髄液検査 4)心理検査 (1)知能検査 ①ウェクスラー成人知能検査（ＷＡＩＳ） ②子ども用ＷＩＳＣではＶＩＱＰＩＱの差による適応障害の分析 ③鈴木ビネー式知能テスト ④老年用知能テスト ａ．ＨＤＳ (2)人格検査 ①質問用紙 ａ．ミネソタ多面的人格目録（ＭＭＰＩ）	講義

回数	単　元	単元目標	時間	学習内容	授業形態
				ｂ．矢田部-ギルフォード検査 （Ｙ-Ｇ性格検査） ②投影法 ａ．ロールシャッハテスト ｂ．ＴＡＴ（絵画統画テスト） ｃ．文書完成テスト（ＳＣＴ） (3)記名力検査 ①視覚記銘力検査 ａ．ベントン視覚記銘力検査 ②聴覚記銘力検査 ａ．数唱問題　ｂ．対語課題 2．治療 1)身体療法 (1)薬物療法 ①向精神薬　②抗精神薬 ③抗躁薬・気分安定薬 （ムードスタビライザー） ④抗うつ薬　⑤抗不安薬 ⑥認知症の治療薬 ⑥てんかん薬 2)精神療法 (1)精神分析法(2)力動精神療法 (3)催眠療法　(4)支持療法 (5)行動療法　(6)その他の精神療法 3)社会療法 (1)作業療法 (2)レクリエーション療法 (3)生活療法 (4)環境療法(5)社会復帰療法（ディケアなど）	講義
14 15	精神医学の領域との連携、情報交換の必要性	精神医学の領域との連携、情報交換の必要性について理解する	4	1．リエゾン精神医学	講義
単位習得認定試験			1	筆記試験	

科目名	単位	時間数	講義時期	講師(○＝実務経験者)
論理学	1	３０	2 年後期	石飛　道子(○)

科目のねらい

対話の中に論理を入れて、優しいコミュニケーションのやり方を学ぶ
思考を順序立てる方法を学ぶ

教科書　：　プリントを配布する

参考文献　：　都度紹介

評価方法　：　筆記試験１００％

評価認定　：　優(80 点以上)、良(70～７９点)、可(60～６９点)、不可(60 点未満)の 4 段階評価とする

授業の進め方

教材をプリント配布で進めます

授業進度と内容

回数	単　元	時間	学習内容	授業形態
1	論理学の目的	2	プリントを中心に問題に自らついて考え、答えを出しながら、論理的な思考を学ぶ	講義中心
2	因果関係・縁起	2		
3	コミュニケーション法	2		
4	弁証法・対話法	2		
5	語り方のあれこれ	2		
6	因果関係	2		
7	ブッタの公式	2		
8	自然の因果・心の因果	2		
9	順序立てて説明する	2		
１０	相対的な言葉（反対）	2		
１１	相対的な言葉（矛盾）	2		
１２	わかりやすい表現	2		
１３	考えて書く	2		
１４	考察しよう①	2		
１５	考察しよう②	2		
単位修得認定試験		1	筆記試験	

科目名	単位	時間数	講義時期	講師(○＝実務経験者)
地域・在宅看護論方法論Ⅰ	1	３０	２年　後期	高橋都子(○)櫻井美奈子(○)

科目目的　：多様な健康状態にある対象と家族への看護を実践するために必要な基礎的知識・技術・態度を身につける

目標　：１．地域で生活する人々とその家族を看護する方法を理解する。
２．在宅看護各時期の介入の特徴を理解する
３．訪問看護場面のロールプレイを通して、訪問時に看護者に求められる態度と課題解決に向けた訪問看護の展開方法を学ぶ

教科書　：系統看護学講座　専門分野　地域・在宅看護論２　地域・在宅看護論の実践　医学書院

参考文献　：基礎からわかる地域・在宅看護論　照林社

評価方法　：　筆記試験１００％（高橋４０％、櫻井６０％）

評価認定　：　優（８０点以上）、良(７０～７９点)、可(６０～６９点)、不可（６０点未満）の４段階評価とする

授業の進め方：１．事前課題に取り組んでいることを前提とし授業を行います
２．授業では参考資料も活用しながら学習内容の充実を図ります
３．学内演習は事前課題→講義→演習（シミュレーション）→振り返り(デブリーフィング)→事後課題（リフレクション）の流れで進めていきます
４．学内演習は実際の場面を想定して行います

単元：　地域で生活する人々に対する看護 在宅看護の実際	担当講師：　高橋都子
単元：　暮らしの場で行われる看護の展開方法 （事例展開）	担当講師：　櫻井美奈子

授業進度と内容

回数	単　元	単元目標	時間	学習内容	授業形態
1 2 3	地域で生活する人々に対する看護	地域で生活する人々とその家族を看護する方法を理解する。	8	１．健康の保持増進、疾病の予防に関わる看護 ・予防の概念 ・ヘルスプロモーション ・ハイリスクアプローチ ・健康行動理論・セルフケア理論 ・援助方法（健康教育、アウトリーチなど） ２．地域で療養生活を送る人々と家族のアセスメント ・ヘルスアセスメント ・病態・症状のアセスメント ・日常生活能力のアセスメント ・家族のアセスメント	講義

回数	単　元	単元目標	時間	学習内容	授業形態
4 5 6 7	在宅看護の実際	介入時期別の看護について理解する	6	1．在宅で看護を展開する際に必要な資質・能力 ・パートナーシップとコミュニケーション ・家庭訪問技術 ・面接技術 2．地域・在宅看護における看護過程の特徴 3．介入時期別の看護 1)退院前（在宅療養準備期） 2)在宅療養移行期 3)在宅療養安定期 4)急性増悪期 5)終末（看取り）期 6)在宅療養終了期	講義
8 9 10 11 12 13 14 15	暮らしの場で行われる看護の展開方法(事例展開)	家庭訪問のロールプレイを通して、在宅療養移行期にある対象と家族に必要な援助と看護者に求められる態度を考えることができる	16	1．訪問看護展開演習 経過別：慢性期 事例：脳梗塞後遺症のある療養者の看護（70 歳代・男性） 1)学習内容 ・在宅療養移行期にある在宅療養者と家族への援助計画立案 ・初回訪問のロールプレイ 2)学習方法 (1)個人ワーク ①学習ノートの作成 a.療養者･家族の発達段階･発達課題 b.疾患に関する解剖生理･病態生理 c.介護保険制度と社会資源 d.訪問看護の提供方法･種類 e.必要な看護技術の目的･方法 f.在宅における看護過程展開の視点･特徴 g.訪問時のマナー ②情報整理･アセスメント ③「現在抱えている課題」及び「将来的に起こり得る課題」を予測し看護の方向性を出す ④訪問看護計画を立案	学内演習 個別学習 小集団学習 ロールプレイ

				(2)グループワーク ①個人ワークの学習内容を持ち寄り「看護上の課題」を明確にし「訪問看護計画書」を立案する ②退院後初めての訪問となる初回訪問の看護計画の立案 ③初回訪問のロールプレイ計画書(シナリオ)の作成 (3)全体発表 ①初回訪問のロールプレイ ②デブリーフィング (4)リフレクションシートの記載	
単位修得認定試験			1	筆記試験、地域・在宅看護論方法論Ⅱ演習評価表	

＜事前課題＞

1．第７回までには、教科書第１章～第３章から学習内容と関係する頁を熟読しておきましょう。

2．第８回までに、個人ワーク（学習ノート）の作成に取り組みましょう。

提出期日　第８回講義の１週間前

科目名	単位	時間数	講義時期	講師（○＝実務経験者）
地域・在宅看護論方法論Ⅱ	1	３０	２年　後期	松木由理(○)櫻井美奈子(○)浦島愛佳(○)

科目目的　：暮らしの場で看護を提供するために必要となる基礎的知識・技術・態度を身につける。
目標　：１．在宅療養におけるリスクマネジメントが理解できる。
２．療養者と家族の日常生活を支えるために必要なアセスメントと援助方法を理解する
３．在宅看護の中で行われる医療処置に関する援助方法を理解する
４．膀胱留置カテーテル法と経管栄養法に関する援助技術を安全・安楽に実施できる

教科書　：　系統看護学講座　専門分野　地域・在宅看護論２　地域・在宅看護の実践　医学書院
参考文献　：

評価方法　：　筆記試験１００％（松木４０％、櫻井・浦島６０％）
評価認定　：　優（８０点以上）、良(７０～７９点)、可(６０～６９点)、不可（６０点未満）の４段階評価とする

授業の進め方：１．事前課題に取り組んでいることを前提とし授業を行います
２．授業では参考資料も活用しながら学習内容の充実を図ります
３．学内演習は事前課題→協同学習→演習→グループリフレクション→事後課題（リフレクション）の流れで進めていきます
４．学内演習は実際の場面を想定して行います

単元：　安全な療養環境と健康危機管理 生活を支える看護	担当講師：　松木由理
単元：　暮らしの場で行われる治療と看護	担当講師：　櫻井美奈子　　浦島愛佳

授業進度と内容

回数	単　元	単元目標	時間	学習内容	授業形態
1	安全な療養環境と健康危機管理	安全な療養環境の提供とリスクマネジメントの必要性を理解できる	2	１．在宅療養における安全な環境とリスクマネジメント ・生活環境の安全性 ・感染防止対策 ・災害への備え ・その他のリスクマネジメント	講義
2 3 4 5	生活を支える看護	地域で療養する人々と家族の生活を支える看護を理解する	8	1．地域で療養生活を送る人々と家族の生活を支える看護 1）在宅看護技術の特徴 ・多様なニーズへの対応 ・経済面への配慮 2)コミュニケーションに関する援助技術 3）呼吸に関する援助技術 ・在宅における呼吸管理・ケアの特徴	講義

回数	単　元	単元目標	時間	学習内容	授業形態
				・呼吸機能のアセスメント ・呼吸を整える援助技術 4）食事・排泄に関する援助技術 ・在宅での食事の特徴 ・食生活・嚥下に関するアセスメント ・食生活・嚥下への援助技術 ・在宅での排泄の特徴 ・排泄に関するアセスメント ・排泄の援助技術 5）移動・移乗に関する援助技術 ・在宅での移動・移乗の特徴 ・移動・移乗に関するアセスメント ・在宅における移動・移乗の援助に関するポイント 6）清潔に関する援助技術 ・在宅での清潔援助の特徴 ・清潔に関するアセスメント ・在宅における清潔の援助に関するポイント	
6 7 8 9 10	暮らしの場で行われる治療と看護	暮らしの場で行なわれる治療と看護について理解する	10	１．在宅医療技術 1)在宅における医療処置・医療行為の特徴と課題 (1)療養者・家族による管理 (2)薬剤・医療材料・衛生材料の調達 (3)医師との連携 2)褥瘡に関する援助技術 (1)褥瘡の予防 (2)褥瘡発生時の対応 (3)治療・ケア計画の実際 3)膀胱留置カテーテルに関する援助 (1)適応条件 (2)カテーテルの種類と適応 (3)合併症とその対処方法 (4)プライバシーの保護と生活の工夫 4)ストーマ管理に関する援助技術 (1)ストーマ（肛門・膀胱）の適応 (2)ストーマからの排泄方法 (3)合併症とその対応 (4)生活の工夫	講義

				5)経管栄養（経鼻・胃瘻）に関する援助技術 (1)経管栄養の種類と適応 (2)合併症とその対応 (3)生活の工夫 6)中心静脈栄養に関する援助技術 (1)適応条件 (2)療養者・家族への看護 7)在宅酸素療法に関する援助技術 (1)適応条件 (2)療養者・家族への看護 8)在宅人工呼吸器に関する援助技術 (1)適応条件 (2)療養者への看護 9)腹膜透析に関する援助技術 (1)適応条件 (2)療養者・家族への看護 10)疼痛緩和に関する援助技術 (1)在宅における疼痛緩和 (2)療養者・家族への看護	
11		安全・安楽な援助技術を実践する	2	１．学内演習 1)事例 (1)脳梗塞後遺症による嚥下障害がある療養者への経鼻胃チューブの挿入 (2)脳梗塞後遺症による神経因性膀胱がある療養者の膀胱留置カテーテルの交換 2)学内演習方法の説明 3)協同学習 4)デモンストレーション	学内演習 協同学習
12 13 14 15			8	１．技術評価 (1)技術評価 (2)グループリフレクション (3)全体のまとめ	
単位修得認定試験			1	筆記試験	

＜事前課題＞

１．日常生活援助技術、医療援助技術に関してはこれまで履修した内容を復習しながら、教科書の第２章暮らしを支える看護技術を熟読しましょう。

２．学内演習に向けて「経鼻胃チューブ挿入」「膀胱留置カテーテル交換」の援助計画書を作成します。

科目名	単位	時間数	講義時期	講師（○=実務経験者）
小児看護学方法論Ⅱ	1	３０	2年後期	宮部麻衣子（○）坂本容子（○）小林輝美(○)

科目目的　：　病気や障がいを抱く小児とその家族の特徴を理解し、小児とその家族に必要な看護を実践するための知識・技術・態度を身につける

目標　：
1．病気･障がいを持つ子どもと家族の特徴と看護の役割が理解できる
2．子どもを取り巻く環境や生活の場、災害などの状況に特徴づけられる看護について理解する
3．疾病の経過から看護の特徴を理解し、子どものｱｾｽﾒﾝﾄに必要な知識･技術を学ぶ
4．障がい児看護の基礎的知識と子どもの虐待と看護について学ぶ
5．小児技術･看護過程の展開方法を学ぶ

教科書　：　系統看護学講座　専門分野　小児看護学①　小児看護学概論　小児臨床看護総論　医学書院

参考文献　：　ﾅｰｼﾝｸﾞ・ｸﾞﾗﾌｨｶ　小児看護学②　小児看護技術　　MC メディカ出版

評価方法　：　筆記試験 100%　宮部 30%、坂本 60%（筆記試験 30%・看護過程展開 30%）
小林レポート 10%

評価認定　：　優(８０点以上)、良(７０～７９点以上)、可(６０～６９点以上)、不可(６０点未満)の４段階評価とする

授業の進め方

1．子どもの健康問題と看護に焦点を当て、経過別・治療処置別・症状・状況別看護を学び、小児とその家族に必要な看護を学習していきます
2．事例による看護過程の展開と小児の看護技術演習を行い、学習内容が活用できるように主体的に進めていきましょう

単元：病気・障害を持つ小児と家族の看護～疾病の経過と看護	担当講師：宮部　麻衣子
単元：子どものアセスメント　症状を示す～小児の看護技術・看護過程	担当講師：坂本　容子
単元：子どものアセスメント　障害のあるこどもと家族の看護	担当講師：小林輝美

授業進度と内容

回数	単　元	単元目標	時間	学習内容	授業形態
1	病気を持つ子どもと家族の看護	病気をもつ子どもと家族の特徴の特徴と看護の役割を知る	2	1.病気と家族に与える影響 ・子どもの病気・治療に伴うストレス ・子どもの病気に対する家族の負担、ストレス 2.子どもの健康問題と看護 ・苦痛の緩和、意思決定の支援 セルフケアの支援 ・子どもの日常生活に関わる看護 ・子どもと家族の看護	講義

回数	単　元	単元目標	時間	学習内容	授業形態
2	状況に特徴付けられる看護	状況（環境）に応じて、子どもと家族の看護を理解する	2	1.　入院中の子どもと家族の看護 ・子ども家族の特徴 ・治療入院生活を支える看護 2.　外来における子どもと家族の看護 ・外来の特徴と看護の役割・外来環境 3.　在宅療養中の子どもと家族の看護 ・在宅医療の背景と意義、社会資源 4.　災害時の子どもと家族の看護 ・災害時の子どもと看護の特徴とその看護	講義
3 4	疾病の経過と看護	疾病の経過から看護の特徴を理解する	4	1.　慢性期にある子どもと家族の看護 ・特徴と子どもに与える影響 ・セルフケア能力、自立した成人患者 2.　急性期にある子どもと家族の看護 ・苦痛の緩和、倫理的配慮 3.　周手術期の子どもと家族の看護 ・手術の特徴、術前後の看護 4.　終末期の子どもと家族の看護 ・死についてのとらえ方 ・子どもをなくした家族の看護	講義
5 6	障がいのある子どもと家族の看護	障がいをもつ子どもと家族の支援を理解する	4	1.　障がいのとらえ方 2.　先天的な健康問題・心身障がいのある子どもと家族への看護 3.　障がい児施設での子どもと家族の看護 4.　多職種連携した社会的支援 5.　在宅・地域で医療的ケアを必要とする子どもと家族の看護	講義
7	小児の虐待と看護	子どもへの虐待の特徴と支援を理解する	2	1.　虐待の定義とタイプにおける特徴 2.　リスク要因と発生予防･早期発見 3.　虐待に特徴的にみられる状況 4.　求められるケア 5.　他機関・多職種の連携・協働	講義
8	症状を示す小児の看護	子どもに起こりやすい症状とその看護が理解できる	2	1.　不きげん、啼泣、呼吸困難、発熱 嘔吐、下痢、便秘、脱水、発疹 けいれん、黄疸	講義

回数	単　元	単元目標	時間	学習内容	授業形態
9	子どもと家族のアセスメント	アセスメントに必要な身体計測および身体診査の方法が理解する	2	1.　アセスメントに必要な技術 ・コミュニケーション、バイタルサイン、身体測定 2.　身体的アセスメント ・呼吸器、循環器、消化器、運動・神経	講義
10 11 12	子どもと家族の看護過程展開技術	子どもの特徴を理解し、健康障害をもつ子ども及びその家族の看護が考えられる	6	1.演習項目：紙上事例とシミュレーション学習による看護過程展開演習 事　例：幼児　初回入院 経過別：急性期感染症疾患 2.学習方法 1)看護過程演習オリエンテーション ・事例紹介 ・アセスメントの視点説明 ・既習知識の活用方法 ・タイムスケジュール ・記録提出方法 2)事前準備・事前課題の取り組み (1)発達段階･発達課題の特徴 (2)疾患に関する解剖生理･病態 (3)の看護(症状別･治療処置別・状況別看護) (4)急性期の看護 (5)初回入院における環境の整え方 3)アセスメント (1)データーベースの記載 (2)S/O 情報の整理 (3)充足･未充足の判断とその理由 4)関連図･看護課題の明確化 (1)関連図の作成 (2)看護課題の明確化 (3)課題の優先順位と決定理由 5)看護計画立案 (1)看護目標･解決目標 (2)具体的看護計画 3.看護過程の解説 4. 評価方法 1)看護過程の評価方法	看護過程演習 オリエンテーション 個人ﾜｰｸ 講義 協同学習 個人ﾜｰｸ 講義 講義

回数	単　元	単元目標	時間	学習内容	授業形態
				提出された看護過程の記録の内容と取り組む姿勢について、評価表	
13	検査･処置を受ける子どもの看護	子どもの特殊技術･治療･処置別看護を理解する	2	1.　子どもにとっての検査･処置体験 2.　薬用量の決定 3.　検査･処置 ・与薬、輸液管理、抑制、検体採取（採尿・採便、骨髄穿刺、腰椎穿刺） ・酸素療法、吸入療法、鼻口腔吸引 ・小児の救急蘇生法 ・採尿パックの貼付(尿採取)	講義 DVD 視聴 体験学習
14 15	検査処置を受ける子どもの技術演習	子どもの安全･安楽･自立を考慮し適切な手順と技法を用いて必要な子どもの基礎技術を習得する	4	1.演習ガイダンス 2.演習項目 1) バイタルサイン測定 2) 身体計測 3) 安全な環境づくり・事故防止:サークルベッドの使用法・留意点 3.学習方法 1)援助計画書に沿って技術の実施 2)技術チエックリストによる技術の評価 3)ワークシートの活用 4.リフレクション 1)リフレクションシートの記載提出 2)グループリフレクションにて担当教員より助言 3)リフレクションシートへ個別指導	技術演習 協同学習
単位修得認定試験			1	筆記試験・看護過程演習評価表で評価する	

事前課題：看護過程展開のための学習として、既習内容をまとめ想起できるよう整理をしてください。

１．小児の身体的・認知的・社会的特徴、２．小児看護で用いる理論（エリクソン・ピアジェ）

３．小児の急性期の看護、４．症状別看護、５．治療処置（吸入･輸液管理）

６．小児・家族アセスメント(発達段階･発達課題)

技術演習のための学習として、既習内容をまとめ想起できるよう整理をしてください。

１．検体採取（採尿）、２．安全な環境づくり、事故防止（サークルベット使用留意点）３．身体計測、４．バイタルサイン測定

事後課題：看護過程記録･看護計画の提出　　看護過程終了後指定された日に提出

科目名	単位	時間数	講義時期	講師　(○＝実務経験者)
母性看護学総論Ⅱ	1	３０	２年前期	吉田かつえ　(○)

科目目的　：　母性看護の対象を取り巻く社会の変遷と現状を学び、母性看護の課題と役割を理解する
女性のライフステージ各期の看護を学ぶ

科目目標　：
1. 母子看護の歴史と統計からその変遷を知り、母性看護に関する組織や法律、母子保健政策の観点から母性看護の現状を理解する
2. 母性を取り巻く環境の特徴を捉え、家族・地域社会における母性看護の現状を理解する
3. 女性のライフサイクルに与えるホルモンの影響について理解する
4. 思春期・成熟期・更年期・老年期各期の身体的特徴と心理・社会的特徴を理解し各期の看護課題及び看護について理解する
5. リプロダクティブケアについて特徴及び看護について理解する

教科書　：　系統看護学講座　専門分野　母性看護学１ 母性看護学概論　　医学書院

参考文献　：　国民衛生の動向

評価方法　：　筆記試験 100%

評価・認定：優(80 点以上)、良(70～79 点)、可(60 点～69 以上)、不可(60 点未満)の 4 段階評価とする

授業の進め方

教科書を中心に国民衛生の動向を参考にしていきます

授業進度と内容

回数	単　元	単元目標	時間	学習内容	授業形態
1 2	母性看護の対象を取り巻く社会の変遷と現状	母性看護の歴史と変遷を学ぶ 母子保健動向を理解する	4	1. 母性看護の歴史と変遷 2. 母子保健統計の動向 国民衛生の動向	講義
3	母性看護に関する組織と法律	母性看護にかかわる組織と法律について理解する	2	1. 母性看護にかかわる組織 2. 母性看護にかかわる法律	講義
4 5	母子保健政策から見た現状	母子保健政策の現状を理解する	4	母子保健政策の実際	講義
6	母性看護の対象を取り巻く環境	母性にダイナミックにかかわる環境について学び、今後の課題を考える	2	1. 家庭、地域社会 2. 生物・社会文化的環境	講義

7 8 9 10 11 12 13	ライフサイクルにおける女性の健康と看護の必要性	女性のライフサイクルと健康について 思春期の健康と看護を理解する 成熟期の健康と看護を理解する 更年期の健康と看護を理解する 老年期の健康と看護を理解する	14	1. 女性のライフサイクルとホルモン分泌 1) 思春期女性の特徴・健康課題と看護 (1) 第二次性徴 (2)性意識・性行動の発達 (3)月経異常 (4)性感染 (5)人工妊娠中絶 2) 成熟女性の特徴・健康課題と看護 (1) 家族計画(2)不妊症・不育症 (3)子宮内膜症(4)子宮筋腫 3) 更年期女性の特徴・健康課題と看護 (1) ホルモンの変化と閉経 (2) 更年期症状 4) 老年期女性の特徴・健康課題と看護 (1) 骨盤臓器脱(2)老人性膣炎・外陰炎 2. ワークシートを用いて思春期・成熟期・更年期・老年期における看護を考え講義内で意見交換を行う	講義 協同学習 個人ワーク グループワーク
14 15	リプロダクティブケア	リプロダクティブケアについて学ぶ	4	1. 喫煙女性の健康と看護 2. 性暴力を受けた女性に対する看護 3. HIV に感染した女性に対する看護	講義
単位修得認定試験			1	筆記試験	

科目名	単位	時間数	講義時期	講師　(○＝実務経験者)
母性看護学方法論Ⅰ	1	３０	２年後期	吉藤美幸(○)吉田かつえ（○）

科目目的　：　妊娠、分娩、産褥及び新生児の特徴を理解し、それぞれの対象とその家族の看護に必要な基礎的知識・技術・態度を身につける

科目目標　：１．妊娠期の身体的、精神的、社会的特徴を理解し、その看護を学ぶ
２．分娩期の身体的、精神的特徴を理解し、その看護を学ぶ
３．産褥期の身体的、精神的、社会的特徴を理解し、その看護を学ぶ
４．新生児の身体的特徴を理解し、その看護を学ぶ
５．妊娠、分娩、産褥期の特徴を理解し、セルフケア能力に視点をおいた看護を展開できる能力を養う

教科書　：　系統看護学講座　専門分野　　母性看護学２　母性看護学各論　　医学書院

参考文献　：　都度紹介

評価方法　：　筆記試験 100%　　吉藤　70%　　吉田　30%

評価認定：優(80 点以上)、良(70 点～79 点)、可(60 点～69 点)、不可(60 点未満)の 4 段階評価とする

授業の進め方

母性の看護技術を身につけます　ビデオ学習や教本を活用してイメージできるようにしていきます

単元：妊娠期の看護　分娩期の看護　産褥期の看護 新生児の看護	担当講師：吉藤美幸
単元：母性の特殊技術	担当講師：吉田かつえ

授業進度と内容

回数	単　元	単元目標		学習内容	授業形態
1 2 3	妊娠期の看護	妊娠期の身体的特徴、精神的特徴、社会的特徴を理解し、その看護を学ぶ	6	1. 妊娠期の身体的特徴、精神的特徴、社会的特徴 2. 妊娠期の看護 健康診査と保健指導、妊娠の診察と介助 生活指導、マイナートラブルと保健指導 妊娠期の栄養、分娩の準備と分娩準備教育、妊婦体操	講義 ＤＶＤ
4 5 6	分娩期の看護	分娩後の身体的特徴、精神的特徴を理解し、その看護を学ぶ	6	1. 分娩後の身体的特徴、精神的特徴と分娩の母子に影響を及ぼす影響 2. 分娩期の看護 1）基本原則、分娩開始と入院時の看護 2）分娩第 1 期の経過と看護 3）分娩第 2 期の経過と看護 4）分娩第 3 期の経過と看護 5）分娩第 4 期の経過と看護 3. 産婦と家族の看護 4. 分娩に伴う異常の看護	講義 ＤＶＤ 分娩モデル教材

回数	単　元	単元目標		学習内容	授業形態
7 8 9	産褥期の看護	産褥期の身体的特徴、精神的特徴、社会的特徴を理解し、その看護を学ぶ	6	1. 産褥期の身体的特徴、精神的特徴、社会的特徴 2. 産褥期の看護 1）分娩後の 24 時間の経過と看護 2）日常生活援助 3）復古現象促進の援助 4）母乳栄養確立のための援助 5）退院に向けての保健指導 6）産後の家族計画指導 3. 施設退院後の看護 1)育児不安と育児支援 2)職場復帰 4. 異常産褥の看護 5. 奇形児や子どもを亡くした母親への援助	講義 ＤＶＤ
10	新生児の看護	新生児の特徴を理解し、その看護を学ぶ	2	1. 新生児の生理的特徴 2. 出生直後の新生児の看護 3. 新生児の看護 1）看護の基本 2）保育環境　　保育器の取り扱い 3）日常の看護 4）母親への保健指導・沐浴	講義 ＤＶＤ 保育器の取り扱い演示
11 12	母性の特殊看護技術	妊婦の援助に必要とされる基本的な看護技術を習得する	4	1．学内実習 1）実施項目　レオポルド触診法　児心音聴取　腹囲子宮底測定 2）実施方法 (1) 妊婦の設定：事例　妊娠 36 週 (2) 妊婦シミュレーションモデルで 1 グループ 4 人で 1 名ずつ教員の指導のもとで実施 (3) 他のグループは、妊婦体験モデル着用で自由練習を行い、順次妊婦シミュレーションモデルで実施 (4)測定や触診した結果を「妊婦健康診査のまとめ」用紙に記載 (5)リフレクションシート記載	学内実習

回数	単　元	単元目標	時間	学習内容	授業形態
13 14 15	母性の特殊看護技術	新生児の援助に必要とされる基本的な看護技術を習得する	6	1. 学内実習 1) 実施項目（新生児の看護） 沐浴　抱き方・授乳(人工栄養) 「抱き方・授乳」: 新生児の抱き方 授乳時の抱き方 授乳（人工栄養） 排気の促し方 (1) 沐浴・寝衣交換・オムツ交換 生後２日目 女児（または男児） (2) 抱き方・授乳 生後４日目　女児（または男児） 体重３４５６g 2) 実習方法 (1) １０グループに分かれ(1)、(2)を作成した援助計画書に従い練習し、技術評価を受ける (2) 終了後チェックリスト記載 3) リフレクションシート記載	ＤＶＤ 学内実習
単位修得認定試験			1	筆記試験	

科目名	単位	時間数	講義時期	講師　(○＝実務経験者)
母性看護学方法論Ⅱ	1	３０	２年後期	佐野敬夫(○)　吉田かつえ(○)

科目目的　：　母性各期に起こりやすい疾患と異常の徴候を学び、健康障害の予防に必要な看護が実践できるための基礎的知識・技術・態度を身につける

科目目標　：　１．母性のライフサイクル各期に起こりやすい疾患とその看護について学ぶ
２．妊娠・分娩・産褥経過中にみられる異常について学ぶ
３．周産期における対象の正常な経過を把握した上で異常かどうかのアセスメントを行い、看護過程の展開を通して対象とその家族に必要な看護を学ぶ

教科書　：　系統看護学講座　専門分野　母性看護学２ 母性看護学各論　　医学書院
系統看護学講座　専門分野　成人看護学９ 女性生殖器　　医学書院

参考文献　：　都度紹介

評価方法　：　筆記試験 100%　　佐野　70%　　吉田　30%(筆記 15%演習 15%)

評価・認定：優(80 点以上)、良(70 点～79 点)、可(60 点～69 点)不可(60 点未満)の 4 段階評価とする

授業の進め方

看護過程ではグループ学習があります　看護過程に関する事前学習(復習)をして参加して下さい

看護過程の既習資料を持参して下さい

単元: 妊娠の異常　分娩の異常　産褥の異常 ライフサイクルに関連した生殖器疾患と看護	担当講師:佐野敬夫
単元: 看護過程	担当講師:吉田かつえ

授業進度と内容

回数	単　元	単元目標	時間	学習内容	授業形態
1 2 3	妊娠の異常	異常妊娠と看護について学ぶ	6	妊娠の異常 1. ハイリスク妊娠 2. 妊娠期の感染症 3. 妊娠疾患 4. 多胎妊娠 5. 妊娠持続期間の異常	講義
4 5	分娩の異常	分娩に伴う異常と看護について学ぶ	4	分娩の異常 1. 産道の異常 2. 娩出力の異常 3. 胎児の異常による分娩障害 4. 胎児の付属物の異常 5. 胎児機能不全 6. 分娩時の損傷 7. 分娩第３期および分娩直後の異常 8. 分娩時異常出血 9. 産科処置と産科手術	講義

回数	単　元	単元目標	時間	学習内容	授業形態
6	産褥の異常	産褥の異常と看護について学ぶ	2	産褥の異常 1. 子宮復古不全 2. 産褥期の発熱 3. 産褥期血栓	講義
7 8 9	ライフサイクルに関連した生殖器疾患と看護	母性各期に起こりやすい疾患とその看護について学ぶ	6	思春期・成熟期・更年期疾患の看護 1. 性分化疾患 2. 臓器別疾患 3. 機能的疾患 4. 感染性疾患	講義
10 11 12 13 14 15	看護過程	妊娠、分娩、産褥期の特徴を理解しセルフケア能力に視点をおいた看護を展開できる	2	1. 紙上事例による看護過程展開演習 事例：産褥期にある 32 歳 <講義> 1) オリエンテーション 2) 紙上事例の紹介 <個人ワーク> 1) 基本的欲求に影響を及ぼす常在条件・変容させる病理的状態に関する情報の整理（提出）	講義 個人ワーク
			2	<講義> 1) 基本的欲求に影響を及ぼす常在条件・変容させる病理的状態に関する情報の整理について説明 2) 母性看護学の看護過程の展開の特徴 (1) 情報の分析・解釈の視点 (2) ウェルネス型看護診断について (3) 下記の項目に対して情報の分析・解釈、看護課題の明確化を看護過程展開例の提示・説明 ①褥婦：「栄養」「活動･姿勢」「環境」「コミュニケーション「信仰」「レクリエーション」 ②新生児：「呼吸、体温」「清潔」 <個人ワーク> 次の項目に対して情報の分析･解釈、看護課題の明確化を提出	講義 個人ワーク

回数	単　元	単元目標	時間	学習内容	授業形態
				①褥婦：「呼吸、循環、体温」「排泄」「休息･睡眠」「衣類･清潔」「役割･達成感」「学習」「性」 ②新生児：「栄養」「排泄」	個人ワーク
			2	<講義> 1）下記の情報の分析・解釈、看護課題の明確化を看護過程展開例の提示・説明 ①褥婦：「呼吸、循環、体温」「排泄」「休息･睡眠」「衣類･清潔」「役割･達成感」「学習」「性」 ②新生児：「栄養」「排泄」 <個人ワーク>(提出) 1）関連図と看護課題の優先順位の決定とその根拠を考え、看護課題を提出	講義 個人ワーク
			2	<講義> 1）看護課題の優先順位の決定とその根拠と看護課題を提示説明 <個人ワーク>（提出） 1）看護計画立案	講義 個人ワーク
			2	<グループワーク> 1）看護計画立案（提出） 個人で立案した計画をもとに再検討	協同学習グループワーク
			2	グループ発表会 提示する看護上の課題に従い発表	
				2．評価方法 看護過程提出物による評価	
単位修得認定試験			1	筆記試験　演習(看護過程提出物)	

科目名	単位	時間数	講義時期	講師(○＝実務経験者)
精神看護学方法論Ⅱ	1	３０	２年後期	鎌田たまみ(○)　佐々木眞弓(○)

科目目的　：主な精神障害の特徴と精神疾患について理解し、患者・看護師関係の成立・発展の必要性を学ぶ。精神に障害をもつ人と、その家族の看護に必要な基礎的知識・技術・態度を身につける

目標　：１．対象―看護師関係の意義、発展させるための方法を理解する
２．対象の特徴を知り、様々な状況における看護の展開と援助技術について理解する
３．精神に障害をもつ対象の家族がおかれている状況を理解し、家族が危機を乗り越えるための援助を理解する
４．精神保健・医療・福祉における多職種連携の中での看護師の役割を理解する

教科書　：系統看護学講座　精神看護学１　精神看護の基礎　第６版　医学書院
系統看護学講座　精神看護学２　精神看護の展開　第６版　医学書院

参考文献　：その都度紹介します

評価方法　：　筆記試験（佐々木）７０％、　看護過程課題(鎌田)３０％

評価認定　：　優(８０点以上)、良(７０～７９点以上)、可(６０～６９点以上)、不可(６０点未満)の４段階評価とする

授業の進め方：１．教科書、配布資料の基に進めていきます
２．看護過程の展開では、個人学習からグループワーク学習となりますので、積極的取り組んでください

単元：精神障害患者の看護	担当講師：　佐々木眞弓
単元：精神に障害のある対象の看護過程	担当講師：　鎌田たまみ

授業進度と内容

回数	単　元	単元目標	時間	学習内容	授業形態
1	精神障害患者の看護	精神に障害を持つ人の看護介入の基本を理解する	2	1. 精神看護における安全と事故防止 2. 精神を病む人の看護援助の基本 1)日常生活援助 2)活用する技法 (1)コミュニケーション (2)ロールプレイング (3)面接 (4)カウンセリング (5)グループワーク (6)生活技訓練（ＳＳＴ） (7)心理教育 (8)精神科訪問看護	講義 DVD

授業進度と内容

回数	単　元	単元目標	時間	学習内容	授業形態
				3)行動制限と看護 (1)隔離室（保護室）使用時の看護 (2)拘束の看護 4)暴力のマネジメント (1)患者からの暴力行為から回避（逃げる）する方法 (2)暴れている患者を保護する方法 (3)言語的に興奮を鎮める技術 (4)お互いの位置関係を保つ (5)安楽カート使用 5)患者＝看護師関係 (1)患者＝看護師関係の基盤 (2)患者＝看護師関係の発展段階	講義
2 3		精神症状と問題行動に対する看護の方法について理解する	4	1．主な精神症状と問題行動への看護 1)不安、緊張状態 2)抑うつ状態 3)引きこもり状態 4)興奮、攻撃、躁状態 5)幻覚、妄想 6)強迫、儀式行動 7)拒否、否定状態 8)操作的状態　9)自傷、自殺企図 10)嗜癖行動　11)せん妄、認知症	講義
4 5		代表的な精神疾患の看護について理解する	4	1．主な精神疾患の看護 1)主な疾患の看護 (1)アルツハイマー病 (2)血管性認知症 (3)アルコール、薬物依存症 (4)てんかん　(5)統合失調症 (6)躁うつ病　(7)人格障害 (8)心因性精神病と神経症	講義

回数	単　元	単元目標	時間	学習内容	授業形態
6		代表的な治療の看護について理解する	2	1. 主な精神科治療の看護 1)主な治療の看護 (1)身体療法 (2)精神療法 (3)社会療法、環境療法 (4)行動療法、活動療法	講義
7		精神に障害をもつ対象の家族の現代と危機を乗り越えるために必要な援助の基本を理解する	2	1. 精神障害を持つ患者の家族への看護 1)家族の理解 2)家族への支援	講義
8		地域における社会資源の機能を理解する 精神保健、医療、福祉における多職種連携の中での看護師の役割を理解する	2	1. 地域における看護 1)地域における社会資源 (1)治療を継続するためのリハビリテーションの場 ①訪問看護 ②精神科デイケア (2)住むための施設 ①復帰施設 ②精神障害者居住生活支援事業 ③雇用及び就労支援としての社会資源 2)精神保健医療福祉サービスの提供者 ①多職種連携	講義
9 10 11	精神に障害のある対象の看護過程	症状出現時の関わり方を考えることができる	6	1. プロセスレコードの意義 1)プロセスレコードの活用方法 2. 教員が事例の模擬患者となり幻聴出現時のシミュレーション 1)プロセスレコードをもとにグループワークを行い、幻聴時に対応について考える	講義 演習 協同学習

回数	単　元	単元目標	時間	学習内容	授業形態
12 13 14 15		精神に障害のある対象の看護過程の展開ができる	8	1. 紙上事例による看護過程展開演習 経過別：統合失調症の慢性期 事例：統合失調症（40 歳代　女性） 1)学習方法 (1) 事例の理解(ビデオ一斉視聴) 事例の説明とともに教員が患者役となり事例の１日を撮影 (2)個人ワーク <協同学習前の課題> ①事例の情報整理 ②情報の解釈・分析 （精神看護学実習アセスメントガイドを活用） ＜協同学習後の課題＞ ①関連図作成 ②看護課題の明確化 ③看護計画立案 (3)共同学習 ①個人ワークの学習内容を持ち寄り、意見交換・質問・確認を行い関連図を作成・看護課題の明確化看護計画立案 ②発表 作成した関連図をもとに看護計画の発表 2)評価方法 (1)看護過程演習評価表で評価する	演習 協同学習
単位修得認定試験			1	筆記試験　看護過程評価表	

三年次履修科目

科目名	単位	時間数	講義時期	講師(○＝実務経験者)
英語Ⅱ	1	３０	３年前期	佐藤　有(○)

科目のねらい

医療に関するメディアからの広汎な英文を学びながら、①医療に関わる基本的な英語用語を身につける②英語の読解力・活用力を高める③英語のコミュニケーション能力を高める

教科書　：特定の教科書は使用しません　使用資料は授業に先立って配布します

参考文献：　Akihiko Higuchi, John Tremarco *First Aid! English for Nursing* KINSEIDO 201（英語Ⅰで使用した教科書）

評価方法：筆記試験 100%

評価認定：優（80 点以上)、良（70～79 点)、可（60～69 点)、不可（60 点未満）の　4 段階評価とする

授業の進め方：

①毎回、授業の最初の１０分は英会話に当てます

②原則としてシラバスに沿って行いますが、皆さんから特に希望するトピックがある場合や、興味ある関連ニュースが放送された場合は、一部変更することがあります

授業進度と内容

回数	単元	単元目標	時間	学習内容	授業形態
1	パラグラフとトピックセンテンス	パラグラフとトピックセンテンスの関係構造を把握できる	2	・パラグラフとは何か　トピックセンテンスとは何か ・パラグラフの中からトピックセンテンスを見つけだす	全体学習／グループ学習
2	要約文作成	要約文作成の要領を知り、要約できる	2	・「話題と主張」の押さえ方 ・「展開部」の要約のし方（意見＞事実、抽象＞具体の原則） ・対比・比喩表現に関する要約のし方 ・字数	全体学習／グループ学習
3	運動とアルツハイマー予防効果	アルツハイマー病についてのニュース内容を把握する	2	（1）ヒアリング（2）フレーズリーディング（音読と繰り返し）（3）講読（4）単元に関係した TOEIC 形式の文法問題（5）英作文練習	全体学習／グループ学習
4	同上	同上	2	同上	同上
5	脂肪分の多い伝統食からヘルシー志向へ	マレーシアの民族料理に対して最近起こっている変化についてのニュース内容を把握する	2	（1）ヒアリング（2）フレーズリーディング（音読と繰り返し）（3）講読（4）単元に関係した TOEIC 形式の文法問題（5）英作文練習	全体学習／グループ学習
6	同上	同上	2	同上	同上

回数	単元	単元目標	時間	学習内容	授業形態
7	音法（1）	日本人が聴きにくい発音を、ネイティヴ・スピーカはどのように発音しているかを再把握する	2	音の連結、同化・脱音などの音の変化の練習	全体学習／グループ学習
8	遺伝子工学の目的	遺伝子工学についてのエッセイの内容を把握する	2	（1）ヒアリング（2）フレーズリーディング（音読と繰り返し）（3）講読（4）単元に関係した TOEIC 形式の文法問題（5）英作文練習	全体学習／グループ学習
9	音法（2）	日本人が聴きにくい発音を、ネイティヴ・スピーカはどのように発音しているかを把握する	2	音の連結、同化・脱音などの音の変化の練習	全体学習／グループ学習
10	世界的な禁煙傾向	世界的な禁煙傾向についてのニュース内容を把握する	2	（1）ヒアリング（2）フレーズリーディング（音読と繰り返し）（3）講読（4）単元に関係した TOEIC 形式の文法問題（5）英作文練習	全体学習／グループ学習
11	同上	同上	2	同上	同上
12	遺伝子	遺伝子についてのエッセイの内容を把握する	2	（1）ヒアリング（2）フレーズリーディング（音読と繰り返し）（3）講読（4）単元に関係した TOEIC 形式の文法問題	全体学習／グループ学習
13	緑茶の効用	緑茶の効用についてのエッセイの内容を把握する	2	（1）ヒアリング（2）フレーズリーディング（音読と繰り返し）（3）講読（4）単元に関係した文法問題	全体学習／グループ学習
14	同上	同上	2	同上	同上
15	ライフスタイルと健康	ライフスタイルと健康の密接なつながりについてのエッセイの内容を把握する	2	（1）ヒアリング（2）フレーズリーディング（音読と繰り返し）（3）講読（4）単元に関係した文法問題	全体学習／グループ学習
単位修得認定試験			1	筆記試験	

科目名	単位	時間数	講義時期	講師(○＝実務経験者)
社会学	1	３０	３年前期	鄭　斗鎬(○)

科目のねらい

社会的存在としての人間理解と人間に影響を及ぼす社会的要因を理解する
最も基礎的な集団である家族を取り上げ体験学習から家族の機能、役割、関係を理解する

教科書　：　系統看護学講座　社会学　　医学書院
参考文献　：　都度紹介します

評価方法　：　筆記試験 100%
評価認定　：　優(80 点以上)、良(70～79 点)、可(60～69 点)、不可(60 点未満)の 4 段階評価とする

授業の進め方

社会学に関連する諸議論を整理することと、社会学に関する重要な用語や概念を理解する

授業進度と内容

回数	単　元	時間	学習内容	授業形態
1	社会学	2	社会学とは何かを紹介	講義
2	現代社会の理解（1）	2	社会システムと社会システムの安定性	講義
3	現代社会の理解（2）	2	法と社会システム、法の疎遠性・普遍性・不変性	講義
4	現代社会の理解（3）	2	経済と社会システム・交換と市場	講義
5	現代社会の理解（4）	2	社会変動とは何か	講義
6	現代社会の理解（5）	2	人口からみた社会変動	講義
7	生活の理解（1）	2	生活のとらえ方	講義
8	生活の理解（2）	2	家族について	講義
9	生活の理解（3）	2	地域について	講義
10	人と社会の関係（1）	2	社会的行為	講義
11	人と社会の関係（2）	2	社会的役割	講義
12	人と社会の関係（3）	2	社会集団と組織	講義
13	人と社会の関係（4）	2	社会的ジレンマ	講義
14	人と社会の関係（5）	2	社会関係資本と社会的連帯	講義
15	社会問題の理解	2	社会問題のとらえ方と日本社会と社会問題・共生社会	講義
単位修得認定試験		1	筆記試験	

科目名	単位	時間数	講義時期	講師　(○＝実務経験者)
教育学	1	３０	３年前期	杉浦　勉(○)

科目のねらい

　学校教育の現状と課題を踏まえ、「看護」と「教育」について比較検討しながら子供や患者とのかかわり（支援や援助など）等ついて考える。

教科書　　：　授業で紹介　資料配布

参考文献　：

評価方法　：　レポート試験 100%

評価認定　：　単位認定試験：優(80 点以上)、良(70 点以上)、可(60 点以上)、不可(60 点未満)の４段階評価とする

授業の進め方

　課題解決に向けて、講義に加え、動画視聴、調査、考察・検討などを行い、主体的・対話的な学びを進めていきたい。また、講義を通して学んだことを振り返る時間も設定していく。

　教育と医療が協力し合いながら、学校現場の諸問題を考える講義としたい。

授業進度と内容

回数	単　元	時間	学習内容	授業形態
1	教育の意義	2	・教育とは	講義
2	学校教育の現状	2	・日本型学校教育について	講義
3		2	・学校制度と連携について	講義
4		2	・チーム学校について	講義
5	学校教育の課題	2	・確かな学力について	講義
6		2	・健やかな体について	講義
7		2	・豊かな心について	講義
8		2	・いじめと多様性について	講義
9		2	・不登校と体罰について	講義
10		2	・虐待について	講義
11		2	・教育格差と子供の貧困について	講義
12		2	・少年犯罪について	講義
13		2	・発達障害について	講義
14	人の成長と発達	2	・子供の成長について	講義
15		2	・子供の支援と援助について	講義
単位修得認定試験		1	レポート試験	

科目名	単位	時間数	講義時期	講師(○＝実務経験者)
総合医療論	1	１５	３年前期	島村　佳一(○)

科目のねらい
医療を取り巻く現状と諸課題について学び、医療従事者の一員としての倫理観を養う

教科書　：　系統看護学講座　別巻　総合医療論　医学書院
参考文献　：　資料提示

評価方法　：　毎回の小テスト 70%　レポート内容 30%
評価認定　：優(80 点以上)、良(70～79 点)、可(60～69 点)、不可(60 点未満)の 4 段階評価とする

授業の進め方
医療を総合的な立場から理解するために、最近の医療現場で重要視されている様々な問題についてトピックスとして取り上げ進めていく

授業進度と内容

回数	単　元	時間	学習内容	授業形態
1	医療の歩みと医療観の変遷	2	1. 現代医療の起源 2. 医療観の移り変わり	講義 プレゼンテーション
	科学技術の進歩と現代		1. 科学技術の進歩と社会・生活の変化 2. 現代医学と先端医療技術の最前線 がん診断の最前線 移植医療 人工臓器の開発 体外受精と出生前診断 再生医療 画像診断装置の進歩	
2 3 4 5	医療現場で重要視されている諸問題 (現代医療の新たな課題)	１２	1. 脳死について 脳死をテーマとして、人の死に対する理解を深め、臓器移植を含め倫理的な問題についても考察する 2. 人工臓器について 3. 死生観 死生観を養う 4. インフォームドコンセントと医療情報の開示 医療者としての役割を理解する 5. 生命倫理学と臨床倫理学の展開	講義 事例紹介 レポート提出
6	医療を見つめ直す新しい視点	2	1. 臨床疫学 2. 患者の安全	講義

回数	単　元	時間	学習内容	授業形態
			3. 医療の管理と評価 4. これからの先端医療開発 5. 情報化社会と医療	講義
7	保健・医療・福祉の潮流	2	1. 人々の健康における医療の役割 2. 健康・医療・社会の相関 3. プライマリーの新たな展開 4. 医療におけるケアの視点 5. 地域包括医療システムの新しい展開 6. 保健・医療・福祉システムと地域住民の役割	講義 プレゼンテーション
8	私たちの生活と健康	1	1. 私たちの生活と環境衛生、保健・福祉行政 2. 疾病の一次予防と健康増進 3. 少子高齢化社会と世代間のきずな 4. 障がい者のノーマライゼーションと社会的包摂 5. 心の健康と精神医療 最後にまとめ	講義 事例紹介 演習
単位修得認定試験		1	筆記試験	

科目名	単位	時間数	講義時期	講師（○=実務経験者）
看護管理	1	１５	3 年前期	草薙晴美（○）

科目目的　：　看護をマネジメントできる基礎的知識と方法を理解する

目標　：　１．看護マネジメントの意義が理解できる

２．看護ケア・看護サービスのマネジメントが理解できる

３．マネージメントに必要な知識・技術を学ぶ

教科書　：　系統看護学講座　専門分野　看護の統合と実践１　看護管理　医学書院

参考文献　：　フロレンス・ナイチンゲール　看護覚え書ー看護であること看護でないことー現代社

ナーシング・グラフィカ　看護の統合と実践①　看護管理　MC メディカ

評価方法　：　筆記試験１００％

評価認定　：　優(８０点以上)、良(７０～７９点以上)、可(６０～６９点以上)、不可(６０点未満)の４段階評価とする

授業の進め方

チームや組織をつくり、動かしていくことは管理者だけではなく、ケアを提供している全ての看護師が担う役割であることを理解し、チーム医療および他職種との協働のなかで、看護師としてのメンバーシップおよびリーダーシップを理解し、看護をマネジメントする方法を学んでいきます

授業進度と内容

回数	単　元	単元目標	時間	学習内容	授業形態
1	看護マネジメントの意義	看護マネジメントの意義が理解できる	2	1.看護管理学とは 2.グループワーク：ナイチンゲール「看護覚え書」の 3 章小管理で解釈できたことを話し合う。 3.マネジメントとは 1)看護におけるマネジメント	講義 協同学習
2 3	看護ケアのマネジメント	看護職が提供する看護ケアのマネジメントについて理解する	4	1.　看護ケアのマネジメントと看護職の機能 1）看護ケアマネジメントのプロセス PDCA サイクル 2.患者の権利の尊重 1)インフォームドコンセント 3.安全管理 1)医療事故対策 4.チーム医療 1)看護職の責任と役割 2)他職種との連携・協働	講義

回数	単元	単元内容	回数	学習内容	授業形態
				3)看護業務の実践 (1)看護基準・看護手順 (2)情報の活用	
4 5	看護サービスのマネジメント	看護サービスのマネジメントの対象と範囲について、マネジメントサイクルと関連して理解できる	4	1.看護管理の定義 2.看護の組織化 3.看護サービス提供の仕組み 1)看護単位の機能と特徴 2)看護ｹｱ提供システム 4.人材マネジメント 1)キャリアディベロップメント 2)労働環境 5.施設・設備・物品・情報マネジメント 6.リスクマネジメント 7.サービスの評価	講義
6 7 8	マネジメントに必要な知識と技術	組織の構造とその原理について整理し、マネジメントとの関連について理解する	5	1.組織とマネジメント 2.リーダーシップとマネジメント 3.組織の調整 1)コミュニケーション　2)動機づけ 3)パワーとエンパワーメント 4)コンフリクト 4.組織と個人 1)キャリアとキャリア形成 2)意思決定と問題解決 3)ストレス・タイムマネジメント 講義のまとめ	講義
単位修得認定試験			1	筆記試験	

事前課題：フロレンス・ナイチンゲール「看護覚え書」三章「ちょっとした管理」を読み、学べたことを400字原稿用紙1枚にまとめて提出してください。　提出日：講義開始7日前

科目名	単位	時間数	講義時期	講師（○＝実務経験者）
災害看護	1	１５	3 年前期	苫小牧王子病院（○）井上里織（○）

科目目的　：　災害看護の特徴を理解し、生命や健康、生活に及ぼす影響を最小にするための看護活動について学ぶ

目標　：　１．災害および災害看護の基礎知識を理解する

２．災害サイクル各期における被災者ニーズの変化、および具体的な看護活動を理解する

教科書　：　系統看護学講座　看護の統合と実践３　災害看護学・国際看護学　　医学書院

参考文献　：　都度紹介

評価方法　：　筆記試験（９０％）　DMAT 体験学習レポート提出（１０％）

評価認定　：　優(８０点以上)、良(７０～７９点以上)、可(６０～６９点以上)、不可(６０点未満)の４段階評価とする

授業の進め方

災害は非日常的なことではなく身近なことになっています。災害時にどのような人々の生活や健康を守ることができるのか看護の視点で考えられるように、今まで学んだ各領域の知識や経験を活用し学びを深めていきます。

単元：災害看護の定義　病院災害と減災　災害における救急法	担当講師：井上里織
単元：被災地における災害時の看護活動　DMAT	担当講師：苫小牧王子病院

授業進度と内容

回数	単　元	単元目標	時間	学習内容	授業形態
1 2	災害看護の定義 災害と倫理 災害の種類・災害サイクルと看護	災害看護の定義を理解する 倫理原則の受容性を理解する 災害の種類と被害、疾患の特徴を理解する	4	１．災害看護の定義 ２．災害と倫理 1）災害看護における倫理原則 ３．災害の種類及び被害・疾患の特徴 ４．災害サイクル 1）災害サイクルとは 2）静穏期・準備期・災害発生前 3）超急性期　4）急性期 5）亜急性期　6）復旧復興期	講義
	災害医療に関する国の政策と法律	災害医療に関する国の政策・法律問題を理解する		１．災害医療に関する国の政策 ２．災害医療に関する法律 1）災害時の医療体制 2）トリアージと法律上の問題 3）被災者支援体制 4）被者の生活支援	

回数	単　元	単元目標	時間	学習内容	授業形態
3	病院災害と減災・防災マネジメント 災害看護と国際看護	危機管理とその意義を理解する 海外における日本の国際看護活動と看護の視点	2	1．防災・減災・レジリエンス 2．災害に備えた事業継続計画 3．災害時の組織体制 1．国際看護とは 2．日本における国際看護 3．海外における災害看護と国際看護活動	講義
4 5	被災地における災害時の看護活動	災害時の看護活動の意義と実際を理解する	4	1．初動時（超急性期・急性期） 1）発災時～医療活動における初動ポイント 2）災害要援護者へのトリアージ 2．医療救護所における看護活動 1）医療救護所における看護師の役割 3．避難所における看護活動 1）避難所における看護師の役割 4．仮設住宅での看護活動 5．在宅における看護活動 6．復興住宅における看護活動	DMAT 講義 体験学習
	被災者の心理・支援者の心理の理解と援助	災害時による心理的な影響について理解する		1．被災者の心理的特徴と援助 2．支援者の心理状態とその特徴	
6 7 8	災害時の健康危機管理	災害時の感染対策の受容性と意義を理解する	5	1．災害時における感染症対策の重要性と意義 2．感染症対策の実際	講義
	災害時に必要な医療・看護技術	基本原則 CSCATTT の概念を理解する 応急処置・搬送技術の概念を理解する トリアージの方法を理解する+		1．応急処置・搬送技術（TT） 2．体系的対応の基本原則（CSCA） 1）CSCATTT とは 2）後方支援（ロジスティック） 3．災害時のトリアージ（T） 1）トリアージの定義 2）判定区分 3）トリアージタグの実際 4）トリアージタグ	
単位修得認定試験			1	筆記試験	

事前学習

１．テキスト　メディカ出版　ＡＲコンテンツ（動画）で確認

①平成 28 年　熊本地震 p 29　　②御嶽山の噴火災害 p31

③JR 西日本福知山線列車事故における後方搬送の実際 p32

④災害看護における中長期ケアの重要性 p183

⑤復旧復興期における看護活動 p191　　⑥災害教育のあり方と課題 p214

⑦代用品を使った外出血の応急処置 p207　⑧代用品を使った四肢骨折の固定法 p208

２．災害への備えとして個人レベル、家庭の中でどのような準備を行っているか。自分の住んでいる地域ではどのような備えがされているか、市区町村単位で調べておく。

（自助・公助・共助の原則から災害時の減災・防災を考えてみましょう）

科目名	単位	時間数	講義時期	講師（○＝実務経験者）
災害看護演習	1	１５	３年後期	中川千穂子（○）

科目目的　：　災害時に適切な看護が実践できる基礎的知識・技術・態度を身につける
目標　：　１．演習を通して、災害時の救援活動に必要な基礎的な救援技術、心構え、態度および判断力と行動力を習得する

教科書　：　系統看護学講座　災害看護学・国際看護学　看護の統合と実践３　医学書院
参考文献　：　都度紹介

評価方法　：　技術カード２０％　技術評価８０％
（トリアージ演習３０％）（技術カード２０％　応急処置５０％）
評価認定　：　優(８０点以上)、良(７０～７９点以上)、可(６０～６９点以上)、不可(６０点未満)の４段階評価とする

授業の進め方
救急看護・災害時の知識と技術を統合させ、災害時における救急法の演習を行います。グループワークではメンバーで協力し、内容を綿密に検討しながら技術カードを作成して演習に臨みます。

授業進度と内容

回数	単　元	単元目標	時間	学習内容	授業形態
1 2 3	災害時トリアージの実際	トリアージ区分、判定方法、タグ装着が実践できる	6	１．実施項目（一次トリアージ） 1）START 法のアルゴリズム判定 2）トリアージタグの記載・装着 ２．学習方法 1）災害時ケア・トリアージの実際（DVD 視聴） 2）オリエンテーション (1)目的･目標　(2)演習方法 (3)場面設定　(4)実施手順 3）技術評価 ３．リフレクション	DVD 視聴「災害時のケア①トリアージ②外傷の応急処置」 学内演習
4 5 6 7	災害における救急法の実際	災害時における基本的な救護技術が実践できる	7	1.実施項目 1)震災発生後避難場所での救護活動の実際　４事例 2)被災者が来院、救急処置室での救護活動の実際　４事例 2.学習方法 1)オリエンテーション (1)目的･目標　(2)演習方法 (3)場面設定･事例紹介	学内演習

回数	単　元	単元目標	時間	学習内容	授業形態
				(4)実施手順･必用物品 2)救護所･救急処置室の各 4 事例の読み込み、グループ内での意見交換技術カードの作成（各 4 事例） 3)傷病被災者に必用な救護活動の実際（各演習開始直前に各状況設定･事例の提示） ・被災者役･家族役・観察者には事例の役割演技を指導(担当教員) ・グループ内で輪番に全員が救護所 1 事例、救急処置室 1 事例の看護師役を実践する 3） 技術評価 4．リフレクション	協同学習 実技試験
8		災害時の看護師の果たす役割、看護支援活動の実際が理解できる	2	1．グループ発表 1)演習で実施した内容を基に、災害で必要な看護師の能力や実際の体験を通して学んだこと、今後の課題をまとめる	発表
単位修得認定試験			1	技術カード　技術評価	

科目名	単位	時間数	講義時期	講師（○=実務経験者）
看護技術統合実践	1	３０	３年後期	藤原　未央（○）

科目目的　：　既習の知識・技術・態度を統合し、的確に対象を理解し速やかに、対象の状態に応じた方法を選択し、必要な看護を安全・安楽・自立を考えた看護援助が実践できる

目標　：　１．自ら学び考え、判断し、問題解決に取り組むことができる。
２．看護技術力の向上が図られる
３．倫理的態度の育成が向上する
４．チームにおける役割の遂行が理解できる

教科書　：　各看護学で学習した看護技術の教科書全般
参考文献　：　必要時配布

評価方法　：　技術カード２０％　技術評価８０％
評価認定　：　優(８０点以上)、良(７０～７９点以上)、可(６０～６９点以上)、不可(６０点未満)の４段階評価とする

授業の進め方
複数課題の技術内容です。計画的に進め、今までに学習してきた知識・技術・態度の領域で看護者として必要な技術を練習して臨んでください。

授業進度と内容

回数	単　元	単元目標	時間	学習内容	授業形態
1	技術演習オリエンテーション	演習の目的・目標を理解し計画的に進められる	2	1. 実施項目 1) 2事例の技術カードの立案 2) 2事例のうち指定した1事例の看護技術を実施･評価 2. 学内演習オリエンテーション 1)演習の目的・目標　2)演習内容 3)演習方法　4)評価方法 5)評価の視点　6)演習手順 7)タイムスケジュール　8)事例の紹介 9)事前計画書説明	ｵﾘｴﾝﾃｰｼｮﾝ
2 3 4		事前課題学習に取り組むことができる	6	3. 実施方法 1)事前学習 (1)事例に関する解剖生理と病態 (2)事例に関するフィジカルアセスメント (3)事例に関する看護援助技術 生活援助技術　診療援助技術 2)事例に関する技術カードの立案	事前学習 個人ﾜｰｸ

回数	単　元	単元目標	時間	学習内容	授業形態
				(1)2 事例をアセスメントして課題の抽出 (2)2 事例の技術カード立案 個人ﾜｰｸで完成させる	
5 6 7 8	事例 1 事例 2 の状態を的確に判断できる	グループワークを通して看護を広め深めることができる	8	1．事例 1 ・事例 2 の解釈・アセスメント 看護援助の検討　シミュレーション（対象の要望に応じた援助方法を判断し選択する）	演習 協同学習
9 １０ １１ １２ １３ １４ １５	技術演習	事例のアセスメントから必要な援助計画が考えられる 対象の症状･状況に応じて、看護技術を安全･安楽･自立を考え根拠に基づき実践できる	１４	3)演習グループ内で技術練習 (1)各自が立案した技術カードに沿って 2 事例の技術練習を行う (2)グループ内で一人の練習時間を公平に配分し積極的に練習 (3)演習グループ内観察者・患者役のものは提供された技術の助言を行い各自技術カードの修正･追加を行ない完成を目指す 4)技術カードの最終提出	協同学習 個人ﾜｰｸ
	試験			4.評価方法 1)4 事例の技術カード (1)援助ごとに根拠が述べられ、根拠に誤りがない (2)事例の自立度に応じ安全･安楽に即した内容で計画されている 2)4 事例のうち指定した 1 事例の実技評価 (1)各事例の技術評価表に基づき採点。 ・統合された技術の適応になっているかの視点 5.リフレクション 1)リフレクションシートの記載 2)担当教員からの個別指導･助言	評価 事後学習
単位修得認定試験			1	実技試験・技術カードで評価	